

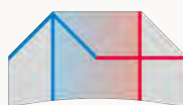
第21回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム

フィールドワーク分野のダイバーシティとインクルージョン ～誰もが能力を発揮し輝くために～

資料集

2023年10月14日（土）10:00～16:30

東京大学 弥生講堂・オンライン



EPMEWSE

一般社団法人 男女共同参画学協会連絡会

目次

男女共同参画学協会連絡会 第 21 期委員長挨拶.....	1
第 21 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムプログラム.....	2
午前の部 講演・登壇者紹介.....	5
午後の部 講演・登壇者紹介.....	9
男女共同参画学協会連絡会第 22 期幹事学会・委員長挨拶.....	1 7
ポスター発表参加一覧.....	1 9
加盟学協会・ワーキンググループ・大学 活動報告.....	2 0
男女共同参画学協会連絡会第 21 期活動報告.....	9 1
一般社団法人男女共同参画学協会連絡会 定款.....	9 4
男女共同参画学協会連絡会のご案内.....	1 0 2
男女共同参画学協会連絡会第 21 期担当者.....	1 0 6
フライヤー.....	1 0 8



第 21 期委員長 挨拶
(一般社団法人 日本生態学会)

半場 祐子(はんば ゆうこ)
京都工芸繊維大学 応用生物学系/
バイオベースマテリアル学専攻 兼任 教授

ご挨拶

シンポジウムの開催にあたり、幹事学会である日本生態学会を代表しまして、ご挨拶申し上げます。

幹事学会としてシンポジウムを企画するにあたり、多様な年齢や性別、国籍をもつ 19 名からなるタスクフォース委員会で検討を重ねました。本日は、生態学会の特徴であり、一方で女共同参画やダイバーシティ推進の課題がこれまで十分に共有されてこなかった「フィールドワーク」をテーマとするシンポジウム「フィールドワーク分野のダイバーシティとインクルージョン ～誰もが能力を発揮し輝くために～」を開催する運びとなりました。午前の部では、連絡会加盟学会の男女共同参画に関する取組についての情報共有を行います。男女共同参画の推進に向けたさらなる方策を、参加者のみなさんと共に考えたいと思います。午後の部では、フィールドワーク分野の 3 名の研究者から特徴や魅力、課題や工夫などのお話を伺い、パネル討論を行います。多様なバックグラウンドをもつ研究者が能力を発揮するための、多くのヒントが得られるものと期待しています。

一般社団法人 男女共同参画学協会連絡会は現在、正式加盟学協会 54 団体、オブザーバー 加盟学協会 68 団体、計 122 学協会で構成されており、今後さらなる広がりが見込まれます。幹事学会は 11 月から日本応用数理学会様に交代となります。引き続き、男女共同参画学協会連絡会の活動へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

略歴

1991 年 京都大学 農学部卒業、京都大学大学院農学研究科を経て 1996 年京都大学大学院 理学研究科 博士課程修了、博士(理学)。1996 年 科学技術特別研究員、1997 年 日本学術振興会 特別研究員、1998 年 岡山大学 資源植物科学研究所 助教、2004 年 京都工芸繊維大学 生物資源フィールド科学教育研究センター 准教授、2012 年京都工芸繊維大学応用生物学系 教授 バイオベースマテリアル専攻教授(兼任)、2021 年より同大学男女共同参画センター長。2010-14 年 日本生態学会キャリア支援委員会 委員長、2011 年-14 年 日本学術会議連携会員。



第 21 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム

フィールドワーク分野のダイバーシティとインクルージョン

～誰もが能力を発揮し輝くために～

【日時】 2023 年 10 月 14 日（土）10:00～16:30

【形式】 東京大学弥生講堂一条ホール&オンライン（Zoom webinar）開催

【主催】 一般社団法人男女共同参画学協会連絡会（幹事学会：一般社団法人日本生態学会）

【共催】 東京大学

【後援】 文部科学省、独立行政法人国立女性教育会館、一般社団法人国立大学協会、
一般社団法人日本私立大学連盟、内閣府男女共同参画局、厚生労働省、
経済産業省、国立研究開発法人科学技術振興機構、日本学術会議

【目的】

男女共同参画学協会連絡会が設立されて今年で21年となりました。

連絡会の活動では、およそ5年ごとの科学技術系専門職の男女共同参画実態調査（大規模調査）の合同活動に加え、各学会においては委員会やワーキンググループが中心となり、学会員を対象としたさまざまな取組がなされてきました。現在、加盟学協会はオブザーバー学会を含め、122となっており、今後さらなる広がりが見込まれます。そこで、本シンポジウムの午前の部では、お互いの学会の取組についての情報交換をあらためておこないたいと思います。各学会での取組の好事例や課題についてアンケートにより抽出し、各学会での課題解決のヒントとなる取組をご報告いただきながら、科学技術分野の男女共同参画の推進に向けてさらなる女性研究者支援の方策をみなさんと共に考えたいと思います。

加盟学会を見渡すと、フィールドワークを伴う研究分野も多数みられます。しかし、これまでフィールドワークならではの男女共同参画やダイバーシティ推進の課題は十分に共有されてきませんでした。遠隔地での長期間の調査では、ライフステージによって、研究と家庭生活の両立の課題は異なると考えられます。また学生の教育では、野外実習を行うことから、学生が躊躇せず参加できるような工夫や配慮が必須となります。そこで、本シンポジウムの午後の部では、考古学、地球惑星科学、生態学の方々から研究分野の特徴や魅力、課題や工夫などのお話を伺い、フィールドワーク研究分野で誰もが能力を発揮し輝くための方策について共に考える機会にしたいと思います。フィールドワークの分野以外の方にも、多くのヒントが得られるものと期待します。

■プログラム

【午前の部（10:00～11:30）】

開会挨拶 半場 祐子（男女共同参画学協会連絡会第21期運営委員会 委員長）

「男女共同参画活動のさらなる推進にむけて～加盟学会の好事例共有～」

担当：日本生態学会・日本応用数理学会

趣旨説明・加盟学協会のアンケートの結果

今井 桂子（一般社団法人日本応用数理学会）

加盟学協会の取組紹介

講演1 日本植物学会のダイバーシティー推進への試み

成川 礼（公益社団法人日本植物学会ダイバーシティー推進委員会 委員長）

講演2 日本技術士会の女性向け「技術サロン」紹介

飯島 玲子（公益社団法人日本技術士会男女共同参画推進委員会 委員長）

講演3 誰もが輝ける環境を目指して、～日本生理学会の試み～

志牟田 美佐（一般社団法人日本生理学会男女共同参画推進委員会 委員）

質疑応答・ディスカッション

【昼の部（11:30～13:00）】

ポスターセッション(昼食を含む)

【午後の部（13:00～16:30）】

幹事学会挨拶 宮下 直（一般社団法人日本生態学会 会長）

歓迎の挨拶 林 香里（東京大学 理事・副学長）

ご来賓挨拶

岡田 恵子（内閣府男女共同参画局 局長）

山下 恭徳（文部科学省科学技術・学術政策局 科学技術・学術総括官）

「フィールドワーク分野のダイバーシティーとインクルージョン

～誰もが能力を発揮し輝くために～」

趣旨説明

生態学会員を対象にしたアンケート結果報告

宇野 裕美（北海道大学大学院地球環境科学研究院 学振特別研究員）

講演1 アンデス文明研究と多様性

瀧上 舞（国立科学博物館 研究員）

講演2 激変する極域：多様なアプローチの必要性

猪上 淳（国立極地研究所 准教授）

講演3 米国における女性科学者台頭の半世紀

北島 薫（京都大学農学研究科 教授）

休憩 14:50～15:00

パネル討論 15:00～15:50

パネリスト：瀧上 舞、猪上 淳、北島 薫、宇野 裕美

ファシリテーター：三宅 恵子（名古屋大学 特任講師）

休憩 15:50～16:00

各種報告・挨拶 16:00～16:30

- ・第 21 期活動報告 半場 祐子（男女共同参画学協会連絡会第 21 期運営委員会 委員長）
- ・WG からの報告
- ・次期幹事学会からの挨拶 今井 桂子（一般社団法人日本応用数理学会）

（お名前は敬称を略させていただきました。）

講演・登壇者紹介



【午前の部】

「男女共同参画活動のさらなる推進にむけて～加盟学会の好事例共有～」

・講演 1

成川 礼（日本植物学会 東京都立大学 准教授）

・講演 2

飯島 玲子（日本技術士会 パシフィックコンサルタンツ(株) チーフコンサルタント）

・講演 3

志牟田 美佐（日本生理学会 東京慈恵会医科大学 講師）



講演 1

「日本植物学会のダイバーシティ推進への試み」

成川 礼（なりかわ れい）

東京都立大学大学院理学研究科 准教授

日本植物学会・ダイバーシティ推進委員・委員長

◆略歴◆

1997-2001 年 東京大学教養学部
2001-2003 年 東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻修士課程
2003-2006 年 東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻博士課程
2005-2006 年 学振特別研究員（DC2）
2006-2007 年 学振特別研究員（PD）
2007-2014 年 東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻 助教
2011-2015 年 JST さきがけ兼任研究員
2014-2021 年 静岡大学理学部生物科学科 講師
2021 年-現在 東京都立大学大学院理学研究科生命科学専攻 准教授

◆講演概要◆

日本植物学会では男女共同参画委員会が 2011 年に発足し活動が続いていましたが、2020 年よりダイバーシティ推進委員会へと改称し、ジェンダーだけでなく様々な属性の方々が活躍できる環境を実現すべく活動を行っています。本委員会では、学会大会開催時にセミナーを開催することが主要な活動となっています。改称してから、2020 年には海外留学について、2021 年にはアンコンシャスバイアスについて、2022 年には SNS 活用法について、2023 年には学会大会のあり方について、外部講師による講演やパネルディスカッションを通して、学会員の皆様に話題を提供し意見を交わしてきました。中には答えのない話題もありますが、答えがないからこそ、多様な側面からの意見が可視化され、様々な属性の方々にとって気づきの多い機会であったことが、セミナー後のアンケートから伝わってきました。本話題提供では、このような試みについて簡単に紹介したいと思います。

講演 2



「日本技術士会の女性向け「技術サロン」紹介」

いいじま れいこ

飯島 玲子

公益社団法人日本技術士会男女共同参画推進委員会 委員長
パシフィックコンサルタンツ(株)経営企画部 チーフコンサルタント

◆略 歴◆

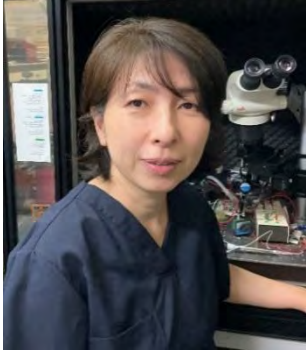
千葉大学大学院修了（園芸学研究科造園学専攻）。メーカーを経て現在の勤務先に転職しコンサルタントとして約 20 年間、国や自治体のまちづくり、健康づくり、子育て支援、男女共同参画等の計画策定を支援。2013 年より本社部門で D&I 経営、グループ人材開発、人材開発の各室長等を務め、2020 年よりコロナ禍での新しい働き方を担当。2022 年より人的資本投資や ESG 経営の観点からの人材戦略・DE&I・健康経営を推進。2023 年 10 月より現職。

技術士（建設部門、総合技術監理部門）、国家資格キャリアコンサルタント。日本技術士会男女共同参画推進委員会で 2017 年より D&I 小委員長、2023 年より委員長。土木学会 D&I 推進委員会委員、女性技術士の会理事。3 児の母。

◆講演概要◆

2008 年に「技術者をめざす女子学生を支援する会 WPETF」が JABEE 課程の女子学生向け懇話会を開始。2011 年に日本技術士会男女共同参画推進委員会が設立され、現在の「技術サロン（技術者・技術士を目指す女子学生・女性社会人向け懇話会）」に発展しました。年 4 回の開催を重ね、2023 年 9 月に第 59 回目を迎えました。技術士に占める女性は 2.4%と大変少なく、女性技術者のキャリアのパイプライン形成支援の一環として、働き方やワークライフバランスについてアドバイスをしたり、技術士取得に向けた意欲を高めたりすることを目的としています。参加者は各回 10 名弱でスタッフ（委員・委員補佐）6～8 名程度の体制で開催し、アイスブレイクと技術士制度の説明後、グループに分かれ質疑応答を行い、個別・具体の質問にその場できめ細かく回答できるよう努めています。参加者アンケートの結果は概ね良好ですが、改善すべき点を毎回確認しています。また、主な質疑応答は「Q&A 集」としてとりまとめ、公表・配布しています。今後の課題は、より多くの方に参加いただけるよう「技術サロン」の開催頻度や開催主体を拡大することです。そのためには関連団体との連携が必要であり、連絡会の皆さまとの情報共有の機会をいただけたことに感謝いたします。

講演 3



「誰もが輝ける環境を目指して
～日本生理学会の試み～」

志牟田 美佐（しむた みさ）

東京慈恵会医科大学薬理学講座 講師

日本生理学会・男女共同参画推進委員

◆略歴◆

東京理科大学卒（理学士・数学）

東京医科歯科大学難治疾患研究所、東京大学大学院・医学系研究科を経て 2000 年神戸大学にて博士を取得（医学博士）。

2001 年東京大学医科学研究所研究員となるが、2003 年出産のため研究活動を中断。2004 年渡英。

2005 年英国で第二子出産を期に現地の保育ボランティア活動を行う。

2006 年ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン非常勤研究員として研究に復帰。

2009 年帰国。保育所難民になり常勤を断念、非常勤研究員として東京慈恵会医科大学に勤務。

2011 年東京慈恵会医科大学・薬理学講座・助教。

2021 年より現職。

2015 年日本生理学会 男女共同参画推進委員

男女共同参加参画学協会連絡会の活動には、2015 年から大規模アンケート設問設定・解析委員、提言・要望 WG 委員として参加

◆講演概要◆

日本生理学会は今年で設立 100 周年を迎えました。1995 年には女性研究者の交流と研究環境の向上を図るために「生理学女性研究者の会（WPJ）」が設立されました。その後、1998 年に若手研究者の支援と交流を目的とした若手の会が設立され、2002 年には 女性研究者の研究環境改善のための各種活動支援を目的とした男女共同参画推進委員会が創設されました。現在では本推進委員会の活動は、性別や年齢を超えた支援へと拡大中です。さらに、2002 年には大会中の託児所支援がスタートし、また男女共同参画学協会連絡会の設立にも携わりました。2010 年には生理学会で女性生理学者奨励賞（入澤彩賞）が創設され、選考に関する運営は WPJ が担っています。

本講演では、WPJ と本推進委員会が行う支援活動の具体例と、最近若手の会と本推進委員会が協力して創設したライフイベント支援についてご紹介いたします。

【午後の部】

「フィールドワーク分野のダイバーシティとインクルージョン
～誰もが能力を発揮し輝くために～」

・ 第 21 期幹事学会挨拶

宮下 直（東京大学 教授）

・ 共催者挨拶

林 香里（東京大学 理事・副学長）

・ 報告

宇野 裕美（北海道大学 学振特別研究員）

・ 講演 1

瀧上 舞（国立科学博物館 研究員）

・ 講演 2

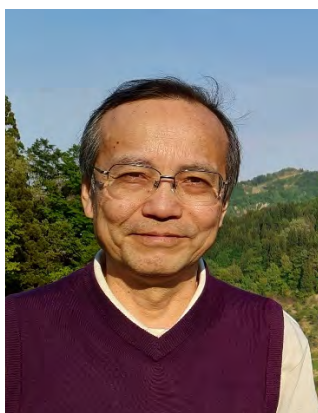
猪上 淳（国立極地研究所 准教授）

・ 講演 3

北島 薫（京都大学 教授）

・ ファシリテーター

三宅 恵子（名古屋大学 特任講師）



第 21 期幹事学会 挨拶

(一般社団法人 日本生態学会 会長)

みやした ただし

宮下 直

東京大学大学院農学生命科学研究科 教授

略 歴

1983 年東京大学農学部林学科卒業、1985 年東京大学農学系研究科修士課程修了、東京大学農学部助手、1998 年東京大学大学院農学生命科学研究科助教授

2007 年東京大学大学院農学生命科学研究科准教授、2012 年東京大学大学院農学生命科学研究科教授。

現在、日本生態学会会長、個体群生態学会会長、中央環境審議会専門委員など。

ご挨拶

第 21 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムの開催にあたり、幹事学会を務めている日本生態学会を代表してご挨拶申し上げます。

当学会は会員約 4000 名で、生物系の学会として大規模な部類です。女性比率は約 24%と比較的高く、理事会では女性が 35%を占めています。また生態学は、生物多様性（バイオ・ダイバーシティ）に関する様々な仕組みを解き明かし、人と地球環境の共存の道を探る学問分野です。その意味からも、当学会が幹事会を引き受けたことは意味があったと感じています。

幹事学会を引き受けるにあたり、まず学会でタスクフォースを立ち上げました。学会員から広く公募を行い、多くの若手中堅の方々に参画いただきました。シンポジウムの内容についてはメンバー間で幾度となく検討を重ね、日本生態学会の特色の一つであるフィールドワークをシンポジウムの主題に取り上げました。野外で動植物を観察する自然史的な調査には、ラボでの実験とは異なる様々なリスク要因をはらんでいます。とくに長期の遠隔地での調査が伴うことが多いため、独自の課題が浮き彫りになるのではないかと思います。フィールドワークとダイバーシティを関連付けたシンポジウムはこれまでほとんどなかったと思いますので、新たな課題の抽出や意識共有ができることを心から期待しています。



共催者挨拶

はやし かおり

林 香里

東京大学理事・副学長

略歴

名古屋市生まれ。ロイター通信東京支局記者、東京大学社会情報研究所助手、ドイツ、バンベルク大学客員研究員（フンボルト財団）を経て、東京大学大学院情報学環教授。2015年度東京大学大学院情報学環副学環長。博士（社会情報学）。

東京大学広報室副室長、東京大学総長特任補佐を経て、2021年4月より、東京大学理事・副学長（国際、ダイバーシティ担当）。

メディア・ジャーナリズム研究者としては、朝日新聞論壇時評筆者、PEP ジャーナリズム大賞選考委員長（一般財団法人アジア・パシフィック・イニシアティブ）、BPO 放送倫理・番組向上機構 放送と人権等権利に関する委員会（放送人権委員会）委員（2012-2015）、日本マス・コミュニケーション学会（現日本メディア学会）理事などを歴任。

近著に「ジェンダーで学ぶメディア論」がある。

ご挨拶

第21回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムの開催にあたり、心よりお慶び申し上げます。本日、御参加の皆様が東京大学にお運びくださったことにお礼を申し上げますとともに、東京大学でこのようなシンポジウムが開催される事を光栄に思っております。幹事学会である日本生態学会の皆様をはじめ、すべての方々の御尽力に敬意を表します。

東京大学では2006年に総長直轄の男女共同参画室を設置し、ポジティブ・アクションの推進、保育園の開設、サポート要員配置支援事業の開始など、東京大学の女性研究者支援および男女共同参画の取組を着実に進めてまいりました。また、2度の「くるみん認定」（2009年、2016年）を取得し、仕事と育児のサポートを推進しています。2021年度には、「部局女性人事加速5カ年計画」を策定し、各部局において女性教員増加およびそれを可能にする環境整備等に関して5カ年に亘る計画を立て人事加速を一層推進しています。

2022年には「東京大学ダイバーシティ&インクルージョン宣言」を制定し、本格的にダイバーシティ&インクルージョンの実現に向け舵を切りました。同年、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（女性リーダー育成型）」の選定を受け、女性リーダー育成に向けた施策「UTokyo 男女+協働改革#WeChange」を始動しています。学生をしっかりと育成する事とともに、女性研究者の育成に、一層力を注いでおります。本日議論される事をしっかりと受け止め、本学でも取組んでまいります。本日のシンポジウムが日本社会のジェンダー平等実現につながることを願い、実り多いものになりますよう、心よりお祈りいたします。



報告

「生態学会員を対象にしたアンケート結果報告」

うの ひろみ

宇野 裕美

北海道大学地球環境科学研究所 学振特別研究員

日本生態学会・男女共同参画学協会連絡会幹事学会 TF・委員

◆略歴◆

2016年にカリフォルニア大学バークレー校統合生物学部博士課程修了(Ph.D.)。京大大学生態学研究センターにて4年間特定准教授として日本・東南アジアの河川生態系について研究。現在は北海道大学受け入れの日本学術振興会国際競争力強化特別研究員としてアメリカのコロラド州立大学・モンタナ大学において在外研究中。日本・アメリカ・インドネシアにおいて国際共同研究を推進している。

日本生態学会、日本応用生態工学会、アメリカ生態学会、世界淡水科学学会に所属。数日から数か月単位の現地野外調査を中心とした研究アプローチで世界の大自然を飛び回り、河川溪畔林生態系についての研究を行う。同業者のパートナーと結婚して7年半のうち一緒に住んだのは1年半。生態学会の男女共同参画タスクフォースのメンバー。

◆講演概要◆

研究者としても特にライフワークバランスが難しそうなフィールドワーク分野。そこで誰もが能力を発揮して輝くためにはどうしたらよいのか。様々な学会の中でも特にフィールドワーカーが多く集う生態学会を対象にしたアンケートの結果を紹介を通じて、フィールドワーク分野におけるダイバーシティの現状と課題についての問題提起をします。



講演 1

「アンデス文明研究と多様性」

たきがみ まい

瀧上 舞

国立科学博物館人類研究部・研究員

◆略 歴◆

2015年に東京大学新領域創成科学研究科生命科学専攻修了（博士）。山形大学や国立歴史民俗博物館でのポスドクを経て、2021年から現所属。2007年からアンデス文明研究に携わり、毎年夏期に一カ月ほど現地に滞在して複数の考古学プロジェクトに参加している。

古代アメリカ学会、日本人類学会、日本文化財科学界、アメリカ考古学協会に所属。地球科学的手法をもちいてアンデス地域におけるヒトの資源獲得戦略の変遷とアンデス文明の発展について研究している。現在は2歳の子を育てながら、国内外の出張を伴う調査研究活動を行う。

◆講演概要◆

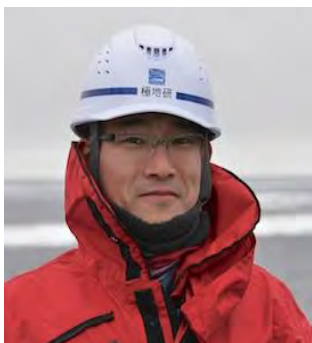
「なぜ日本人の論文は9割が男性なの？」

これは私が6年前に参加した南米のとあるワークショップで投げかけられた質問です。ペルーやチリ、アルゼンチンでは、遺跡調査を行っている考古学者の半数近くが女性であり、ライセンスを持って独立したプロジェクト責任者となっている人も少なくありません。私の携わる広義の考古学分野（考古科学、生物考古学、骨考古学などを含む）でも女性の方が多いくらいであり、その集まりの中で投げかけられた前述の質問には答えるすべがありませんでした。

近年のペルーの遺跡調査は男女入り混じる国際的な現場へと変わりつつあります。様々な課題を抱えながらも調査環境が変わってきている日本のアンデス調査団のこれまでとこれからについてご紹介します。

【キーワード】

アンデス文明、フィールド調査、同位体分析、生物考古学



講演 2

「激変する極域：多様なアプローチの必要性」

いのうえ じゅん

猪上 淳

情報・システム研究機構 国立極地研究所・准教授

◆略 歴◆

2001 年に北海道大学大学院地球環境科学研究科博士課程修了（博士）。コロラド大学やジョージア工科大学での米国での北極研究を経て、2004 年から海洋研究開発機構で北極海の観測研究に従事。2011 年にノルウェーのベルゲン大学で短期在外研究。2012 年に国立極地研究所准教授に着任後、両極の観測研究プロジェクトを推進。

日本気象学会、日本海洋学会等に所属。主に北極域と南極域を対象とした船上気象観測を行い、雲に関する気候変動研究を行う。所内では男女共同参画推進室員として、様々な支援制度の運用を行う。自らも3ヶ月間の育児休業の経験あり。

◆講演概要◆

全球平均よりも速いペースで温暖化が進行する極域では、天候や生態系、そして人間の生活にまで影響が出てきています。アクセスの難しい極域でどのような調査を行っているのか、そして北極域に領土・領海を持たない日本がどのように研究の独自性と国際競争力を維持しているのかを紹介します。また、自身が関与してきた国際共同研究プロジェクトの様子を、多様性の観点で俯瞰します。近年の研究の潮流である北極域の先住民との協働、文理融合のプロジェクトの推進の難しさ、そして国際的な研究動向を踏まえた多様な研究アプローチの必要性についても触れます。女性や外国人が多数活躍する極域科学分野の経験をもとに、共働き世帯における自身の育児・子育てと仕事との両立について考えます。

【キーワード】

気候変動、国際共同研究



講演 3

「米国における女性科学者台頭の半世紀」

きたじま かおる

北島 薫

京都大学農学研究科・教授・男女共同参画担当副研究科長

◆略 歴◆

1985 年に中米パナマのスミソニアン熱帯研究所にて熱帯林でのフィールドワークを開始。1992 年に米国イリノイ大学博士号取得、フロリダ大学にて 1997 年から勤務（子育てしながら同大学でテニユアを取得）、2013 年から現職。熱帯林を中心に植物生態学の研究を、中南米、東南アジア、マダガスカルなどで行う。2017 年以来、IPCC 気候変動「気候変動と土地利用」特別報告書の執筆、国際林業センター(CIFOR)と国際アグロフォレストセンター(ICRAF)の合同理事会（2017-2023）などの国際専門家ネットワークにも参加。

◆講演概要◆

国際的な学術的会合や国際機関の理事会などに参加すると、半数以上が女性研究者というのが普通の昨今である。しかし、私が米国の大学院に留学を開始した 40 年前を振り返ると、1970 年代に博士号を取得して研究者となった世代の女性のパイオニアとしての役割を改めて認識する。私が就職活動を行っていた 1990 年代は就職における女性差別は大きかったが、そのころから交渉・契約文化の米国では女性研究者が大学で活躍できる環境がどんどん整備され、また、女性の絶対数がある程度増えると男女共同参画の環境整備が加速化した。ただし、ハラスメントに対して声をあげることは難しく、この数年ついにその時代に突入した感がある。フィールドワーク環境には、固有の女性にとってのチャレンジやリスクがあることにも言及しつつ、およそ半世紀に渡る米国での女性研究者環境の変遷を紹介したい。

【キーワード】

熱帯林生態学、フィールドステーション



ファシリテーター

みやけ けいこ

三宅 恵子

名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所 (WPI-ITbM)
・特任講師

◆略歴◆

2005 年に九州大学大学院理学研究科修了、博士（理学）。アラスカ大学フェアバンクス校北極生物學研究所 (IARC) にてポスドク研究員を経て、2008 年から新潟大学・岐阜大学・静岡大学の男女共同参画推進室等にて特任助教・特任准教授として文部科学省の女性研究者支援事業に従事。2019 年から名古屋大学トランスフォーマティブ生命分子研究所 (WPI-ITbM) にて特任講師として広報・アウトリーチ活動を担当。

日本生態学会のキャリア支援専門委員会 前委員（現在はオブザーバー）、男女共同参画幹事学会タスクフォース副委員長。

男女共同参画学協会連絡会の提言・要望書 WG・ホームページ検討 WG・大規模アンケート WG に参加。

生態学の分野のパートナーとともに、綱渡りの日々を送りながら、2 人の子どもの育児と野外調査研究をおこなってきた。その経験をもとに、大学や学会での女性や若手研究者の支援および男女共同参画に推進に力を注いでいる。



第 22 期幹事学会 挨拶

(一般社団法人 日本応用数理学会 会長)

はやみ けん

速水 謙

国立情報学研究所 名誉教授

略歴

1979 年 東京大学工学部計数工学科卒業、1981 年 東京大学大学院工学系研究科計数工学専門課程(修士)修了、1981-1993 年 日本電気株式会社研究所、1993-2000 年 東京大学計数工学科 助教授
2001-2021 年 国立国立情報学研究所 教授、2002-2021 年 総合研究大学院大学 教授。
2018 年 日本応用数理学会フェロー。

ご挨拶

日本応用数理学会は、第 22 期男女共同参画学協会連絡会の幹事会を引き受けることになりました。当学会は、日本における応用数理的な研究、産業、教育等に関わる活動を支援し、ともに活動していくために、1990 (平成 2) 年 4 月に発足し、2012 (平成 24) 年 7 月に一般社団法人に移行した学会であります。本学会会員の専門分野は数学、物理、化学、電気・電子、機械、材料、建築、情報処理、通信、計測・制御、システム工学、人間工学、経営、等々極めて多岐にわたっており、学際的に異分野の第一線の研究者や技術者が集まり、応用数理を研究、産業、教育に結び付けるための研究開発と普及、会員相互の連携・親睦、国際的な交流を積極的に行っております。

当学会は現在会員数約 1,400 名で、女性会員は約 90 名 (6.4%) です。個人的な印象ですが、私の研究分野では、欧米 (例えば、米国、イタリア)、中国は女性の研究者が多数活躍されているようです。また、2023 年 8 月 20-25 日の間、当学会他の主催で早稲田大学において開催されました国際応用数理会議(ICIAM 2023 Tokyo)には世界中から 5,500 人あまりの参加がありましたが、女性の参加者も多く、活発な研究発表をされていました。当学会においても女性会員がますます増え、活躍されることを切に願います。それがまた、学会の健全な成長につながると信じます。

当連絡会での活動を通して他学会での取り組みから学び、協力し合いたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。



第 22 期委員長 挨拶

(一般社団法人 日本応用数理学会)

いまい けいこ

今井 桂子

中央大学理工学部情報工学科 教授

略歴

1980 年 津田塾大学学芸学部数学科卒業、1982 年 津田塾大学理学研究科修士課程数学専攻修了、1985 年 津田塾大学理学研究科博士後期課程数学専攻単位取得退学。理学博士。1985 年 東京大学工学部教務職員、1988 年 東京大学工学部助手、1988 年 九州工業大学情報科学センター助手、1990 年 津田塾大学学芸学部研究助手、1992 年 中央大学理工学部情報工学科助教授、1999 年 中央大学理工学部情報工学科教授。2017-2023 年 中央大学高等学校校長。2015 年 電子情報通信学会フェロー、2020 年 日本応用数理学会フェロー。

ご挨拶

一般社団法人 日本応用数理学会は、第 22 期の幹事学会をお引き受けすることになりました。私は、委員長を拝命する予定になっております、今井桂子と申します。この場をお借りしてご挨拶申し上げます。

日本応用数理学会は、日本における応用数理的な研究、産業、教育等に関わる活動を支援し、ともに活動していくために、1990 年 4 月に発足し、2012 年 7 月に一般社団法人に移行した学会です。2014 年に男女共同参画学協会連絡会に正式加盟し、2016 年秋からは、9 月の年会および 3 月の研究連合発表会において、若手・女性研究者を中心としたランチミーティングを行い、情報交換を行ってきました。会員数約 1,400 名で、女性会員は約 90 名であり、会員数も女性会員の数もあまり多いとは言えませんが、2017 秋には、国際応用数理会議(ICIAM)との連携において、11 月に台湾で開かれた Gender gap project にも参加する等、国内外で男女共同参画に積極的に取り組んでいます。

男女共同参画学協会連絡会との関連においては、女子中高生進路選択支援ワーキンググループの行っている活動である「女子中高生夏の学校」(以下夏学)に 2014 年、そのとき日本応用数理学会副会長であった私が実行委員として参加しました。それ以来、日本応用数理学会は毎年ポスター展示を行い、女子中高生のキャリア相談にも対応してきています。また、実験・実習に参加した年もあります。2021 年にオンライン開催となった夏学では私が実行委員長を務め、オンラインでの実験・実習やキャリア相談を行いました。連絡会の多くの皆様に、例年とは異なる環境での開催にご協力頂きましたこと心から感謝申し上げます。社会で、特に科学技術分野において女性が活躍する環境を整え、指導的な役割を担う女性を増やすためには、小学生のころからの生徒たちを取り巻く環境の整備も必要なのではないかと、夏学を通して、また 6 年間高等学校校長を兼務しました経験からも感じております。

皆様のお力添えを頂き、科学技術分野における男女共同参画やダイバーシティ推進のために、幅広い活動を行ってまいりたいと思います。第 21 期幹事学会の日本生態学会様から幹事学会としての任務をしっかりと引継ぎ、第 23 期の幹事学会の日本森林学会様に無事に渡すことができるよう、これから 1 年間第 22 期の幹事学会として努めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

ポスター発表 参加一覧

加盟学協会（学協会 ID 順）

002 化学工学会	024 地球電磁気・地球惑星圏学会
003 高分子学会	030 日本地球惑星科学連合
006 日本化学会	032 生態工学会
007 日本原子力学会	036 日本建築学会
009 日本女性科学者の会	037 種生物学会
010 日本植物生理学会	044 日本技術士会
011 日本数学会	045 日本植物学会
013 日本生態学会	059 日本内分泌学会
014 日本生物物理学会	063 日本熱帯生態学会
014 日本生物物理学会	153 軽金属学会
015 日本生理学会	162 日本水産学会
016 日本蛋白質科学会	
018 日本動物学会	
021 日本物理学会	
023 日本森林学会	

ワーキンググループ

提言・要望書WG（大坪久子先生メモリアル）
女子中高生理系進路選択支援WG

大学等

広島大学
北海道大学ダイバーシティ・インクルージョン推進本部
東京女子医科大学
内閣府原子力委員会

活動報告一覧

加盟学協会（学協会 ID 順）

002 公益社団法人 化学工学会	047 公益社団法人 日本農芸化学会
003 公益社団法人 高分子学会	048 一般社団法人 日本解剖学会
005 一般社団法人 日本宇宙生物科学会	055 一般社団法人 日本熱帯医学会
006 公益社団法人 日本化学会	056 一般社団法人 日本応用数理学会
007 一般社団法人 日本原子力学会	059 一般社団法人 日本内分泌学会
009 一般社団法人 日本女性科学者の会	061 日本海洋学会
010 一般社団法人 日本植物生理学会	062 日本地形学連合
011 一般社団法人 日本数学会	063 日本熱帯生態学会
013 一般社団法人 日本生態学会	064 日本加速器学会
014 一般社団法人 日本生物物理学会	105 公益社団法人 地盤工学会
015 一般社団法人 日本生理学会	115 公益社団法人 日本分析化学会
016 一般社団法人 日本蛋白質科学会	116 公益社団法人 土木学会
018 公益社団法人 日本動物学会	126 日本鳥学会
020 日本比較内分泌学会	133 公益社団法人 日本天文学会
021 一般社団法人 日本物理学会	134 一般社団法人 日本植物バイオテクノロジー学会
023 一般社団法人 日本森林学会	135 日本組織細胞化学会
024 地球電磁気・地球惑星圏学会	137 公益社団法人 応用物理学会
025 日本神経科学学会	141 一般社団法人 日本数式処理学会
026 日本バイオイメージング学会	142 一般社団法人 日本植物病理学会
028 一般社団法人 日本育種学会	147 一般社団法人 日本放射線影響学会
030 日本地球惑星科学連合	148 一般社団法人 日本 DNA 多型学会
031 公益社団法人 日本繁殖生物学会	149 公益社団法人 日本食品科学工学会
032 生態工学会	153 一般社団法人 軽金属学会
033 錯体化学会	162 公益社団法人 日本水産学会
034 一般社団法人 日本進化学会	164 公益社団法人 日本生化学会
035 公益財団法人 遺伝学普及会 日本遺伝学会	165 一般社団法人 日本痛風・尿酸核酸学会
036 一般社団法人 日本建築学会	167 一般社団法人 日本地質学会
037 種生物学会	168 一般社団法人 日本コンピュータ外科学会
041 公益社団法人 日本畜産学会	169 日本大気化学会
044 公益社団法人 日本技術士会	172 公益社団法人 日本気象学会
045 公益社団法人 日本植物学会	

ワーキンググループ

提言・要望書 WG

大規模アンケート解析 WG

ホームページ検討 WG

連絡会女子中高生理系進路選択支援WG

大学等

広島大学

東京女子医科大学

内閣府原子力委員会

化学工学会における男女共同参画の取組

公益社団法人 化学工学会(男女共同参画委員会, future_inquiry@scej.org)

The Promotion of Gender Equality in the Society of Chemical Engineers

The Society of Chemical Engineers, Japan (Gender equality committee, future_inquiry@scej.org)

Abstract:

Our committee has promoted gender equality to develop and improve the research/education environment for women chemical engineers through the following activities. 1) In 2011, the Women's Prize was established and the winners of the prize will act as role models for young chemical engineers. 2) A nursery room is arranged during the autumn and annual meetings which admitted 5 people free. 3) The workshop is provided to develop a network of women chemical engineers. 4) The messages from role models about their research and carrier are introduced in our scholarly journal. 5) We joined the IUPAC Global Women's Breakfast event from 2020.

1. 学会紹介

本学会の一番重要な務めは、化学工学の学術的水準の進展を支え、人材を育成し、それらの成果を有機的に社会へ還元するための中心的学会として活動することです。そのため、日頃から産・学・官が協力できる数多くの場を提供しています。

2003年度に設立された化学工学会男女共同参画委員会は、化学工学の多様化、国際化、複雑化に対応できる人材育成とイノベーションの実現を目指して、「ダイバーシティ促進の側面から」、「女性賞」や「女性技術者ネットワーク」を設立するなど、様々な活動を行っています。

2. 学会員構成 (2023年8月1日現在)

学会の特徴として、正会員に企業会員が多いということが挙げられます。個人会員に対する女性の割合は、この20年間で3%から10.5%に上昇しました。また、理事26名中女性は4名(内1名は副会長、女性割合は15%)、監事2名中1名女性となっております。

	男性	女性
正会員	4401 名	321 名 (6.8%)
学生会員	1047 名	320 名 (23.4%)
法人会員	470 社	

3. 本年度の主な委員会活動状況

1) 女性賞受賞講演とダイバーシティフォーラム開催

2011年に化学工学会女性賞を創設しました。本賞は業績に加えてワーク・ライフ・バランスの実現や男女共同参画推進への貢献を総合的に評価して女性個人を表彰するものです。年会において、受賞講演会と合わせて、著名な女性指導者と意見

交換をする場、及び女性研究者・技術者が研究発表をする場を提供する“ダイバーシティフォーラム”を開催しています。

2) 年会・秋季大会における保育サービスの実施

2013年より、育児中の会員の大会参加をサポートするために、大会期間中の保育サービスを実施しています。2014年からは、一日5名まで費用を学会で全額負担しています。2021年度には新たな試みとしてオンライン学会時における託児サービスの費用補助を行いました。

3) 女性技術者ネットワーク

年に数回、情報交換の機会が少ない女性技術者、研究者を中心に、お互いの貴重な経験や悩みを共有して、問題解決に向けて進んでいけるように情報交換の場を設けています。企業からの参加者が多く、毎回活発な議論が行われています。

4) 学会誌での紹介

学会誌「化学工学」で連載中の「広がれ！ダイバーシティ」において、活躍する女性研究者・技術者の方にご自身の研究生活やキャリアアップについてご執筆頂き、広く会員に紹介しています。

5) Global Women's Breakfastへの参加

応用化学研究に携わる世界中の女性研究者が世界各国で時を同じくしてBreakfast Meetingという形で集い、男女共同参画の重要性を世界的に共有することを目的としたIUPACのイベントに2020年から参加しています。

高分子学会における男女共同参画推進の取り組み

高分子学会 男女共同参画委員会

(委員長・高井まどか・東京大学、赤井日出子・三菱ケミカル、秋山恵里・花王、浅沼浩之・名古屋大、奥村知世・旭化成、織田ゆかり・静岡大、佐藤絵理子・大阪公立大、佐藤春実・神戸大、竹岡裕子・上智大、中園和子・東工大、永野修作・立教大、長谷陽子・豊田中研、星野友・九大)

Activities for Gender Equality in the Society of Polymer Science, Japan

The Society of Polymer Science, Japan

Abstract:

Activities of women network in the Society of Polymer Science, Japan (SPSJ), started more than 20 years ago- in the occasions of annual meetings. A day nursery school in the annual meeting began in 2002 ahead of the times, and the gender equality promotion committee was established in 2006. In order to promote the return to work after some life events, SPSJ introduced the renewed membership system for both women and men. The Seminar for the gender equality has been held each year at the SPSJ annual meeting.

1. 男女共同参画に対する学会の取り組み

高分子学会では、20数年前インフォーマルに開始された高女性研究者の会(WPSJ)のネットワークを中心として、女性研究者が年会や討論会時に交流を図ってきました。年会・討論会での保育室の設置は他学会に先駆け2002年より行い、男女共同参画学協会連絡会にも発足時から参加し、2006年度には男女共同参画委員会を設置しました。男女共同参画委員会は定期的な活動の他、再チャレンジ会員制度の提案など幅広い活動を行っています。

2. 今年度の活動

(1) 第15回高分子学会男女共同参画セミナー

日時:2023年5月24日(水) 11:45~12:45

(第72回高分子学会年次大会併設)

「高分子学会男女共同参画セミナー」は、産官学における研究者・技術者の男女共同参画について学会として何ができるかを考える機会として、高分子年次大会に併設で開催され、学生を含む様々な年齢層や職域から、男女を問わず多くの方々にご参加いただき、活発な意見交換が行われてきました。第15回セミナーでは、大学・企業にご所属の研究者に、ご自身の体験をもとに仕事と子育ての両立に対する取り組み等をご紹介します。3年ぶりに対面での開催ができ、54名(男性31名、女性23名)の方にご参加いただき質問も多く活発なセミナーとなりました。

講演①「ワークライフバランス～ワンオペ研究者の日常～」 佐藤 春実(神戸大学)

講演②「ワークライフインテグレーションの時代へ」 竹下 卓志((株)コーセー)

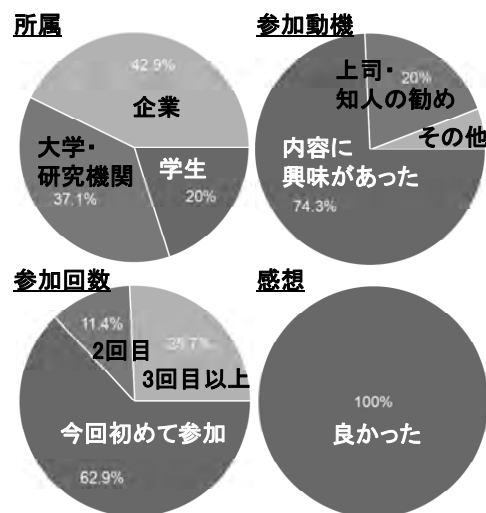


図. セミナー参加者のアンケート結果

(2) ダイバーシティ懇談会

第72回高分子討論会ではランチョン交流会を開催予定です。

(3) 学会誌「高分子」での連載「先輩からのメッセージ—仕事と私事—」

産学官さまざまな機関の幅広い年齢層の先輩から、若手研究者、学生に向けて、男女共同参画の視点を入れた温かいメッセージを送る企画です。2008年6月から掲載を開始し、これまでに約210名の方に寄稿いただきました。掲載記事は学会の男女共同参画ホームページで公開しておりますので、是非ご覧下さい。

(<https://main.spsj.or.jp/danjo/shigoto.html>)

(4) 年会・討論会での保育室の設置

(5) ホームページの運営

高分子学会HP(<http://www.spsj.or.jp/>)から

日本宇宙生物科学会-活動報告2023

日本宇宙生物科学会 (横谷香織・筑波大・yokotani.kaori.fn@u.tsukuba.ac.jp, 加藤浩・三重大・katohiro@gene.mie-u.ac.jp, 清水美穂・帝京大・shimizu.miho.xr@teikyo-u.ac.jp, 跡見綾・農工大・帝京大・aatomi1708@gmail.com・跡見順子・帝京大・atomiyoriko@gmail.com)



Japanese Society for Biological Sciences in Space - Activity report 2023

Japanese Society for Biological Sciences in Space (Kaori Tomita-Yokotani • Univ.

Tsukuba • yokotani.kaori.fn@u.tsukuba.ac.jp, Hiroshi Katoh • Mie Univ • katohiro@gene.mie-u.ac.jp, Miho

Shimizu • Teikyo Univ. • shimizu.miho.xr@teikyo-u.ac.jp, Yoriko Atomi • Teikyo Univ. •

atomiyoriko@gmail.com)

Abstract: Japanese Society for *Biological Science in Space* is including the several study fields, astrobiology, planetary science, biology, eco-engineering and natural ecosystems. We will participate in *Japan Inter-Society Liaison Association Committee for Promoting Equal Participation of Men and Women in Science and Engineering (EPMEWSE)* under the widely scientific knowledge.

＜日本宇宙生物科学会について＞ 日本宇宙生物科学会は、太陽系や地球の歴史の解明と平行して生命の起源を探るアストロバイオロジー、地球という星で進化しその環境に適応してきた多様な生物のありさまを明らかにする惑星生物学、そして人類の宇宙への進出を実現するための生物・生態系工学、そしてそこから分かる“人間の生命・生物特性”といった広い分野を包含する科学領域です。生命がこの地球上に生まれて以来約37億年という長い歳月の間に、生物は次第に進化し様々な種に分かれ、またあるものは滅亡してきました。現存する動物や植物、菌類など様々な生物は、長い間地球上の環境の中でその生命を連続させ、各々の種を維持してきたものです。近年、地球上の重力や磁力、放射線、光、空気の組成など種々の環境要因が生命の維持や発生、生物個体や群の行動など生物の基本的な現象と密接にかかわりあっていることが次第に明らかになりつつあります。生命の持つ奥深さと美しさは、その原理と機構が科学的に解明されていくにつれて、益々深く認識されるようになっていきます。しかしその原理と機構は、地球上での実験のみでは完全に理解することはできません。生物科学の視野を広げ、宇宙環境における生物の環境因子に対する感受性と適応、生活環境の構成等を知ることは、生命の基本原理の解明にとって重要であり、基礎生物学の発展に寄与すると期待されます。また、国際宇宙ステーションの存在意義ときぼうでの科学実験は、人類の平和への寄与という大きな使命があります。

＜日本宇宙生物科学会の男女共同参画学協会連絡会における活動＞ 日本宇宙生物科学会は、男女共同参画社会への意識は高く、連絡会発足時から参加・協力しその内容を実践する努力を行っています。日本宇宙生物科学会の男女共同参画社会への取り組みは、科学を通してこれを当たり前に受け入れる基盤を確立することです。生命科学の視野を宇宙にまで広げて学際的に研究を行ない「生命の存在様式」を明らかにし人類の生命観、宇宙観の確立をめざす学会です。

＜科学者生活委員会の活動として＞ 日本宇宙生物科学会の男女共同参画委員会は、「科学者生活委員会」の中で活動しています。科学者個々の生涯を対象

とし、次世代に科学や技術に携わる中で得てきた知恵の継承を行うことが出来る場を提供することが重要と考えています。今後も宇宙生物科学における多様な生物・生命研究成果のネットワークを大いに活かし、複雑な人間社会の調和を、科学・技術を基盤にして未来の平和社会に向けて貢献していきます。

＜本連絡会における活動として＞ 科学者生活委員会は「男女共同参画に関する勉強会WG」を、生態工学会と協力して開催しています。特に、2018年から発足した「次世代応援シンポジウム」内において、「NAGOMI」会という、常にいつでも誰とでも語り合い知り合える場を、昨年度から発足し、月1度の頻度で提供し活動しています。科学者の一生を通じた話題と世代を超えた語り合いに力を入れています。2022年の年次学会において、「NAGOMI」会の活動報告を行いました。

＜日本宇宙生物科学会の男女共同参画学協会連絡会におけるこれまでの主な活動＞ 2010-2011年は第9期男女共同参画学協会連絡会の幹事としてwithコロナのオンライン時代に先駆けて会議資料の電子化を最初に行った。3.11直後の委員会であったことから、時代の要求を鑑み「いのちと健康」をテーマにしたシンポジウムを開催し、要望書を提出しました。日本学術会議発行の学術の動向に特集記事が掲載されました。プレWGの世話役として第三回大規模アンケート実施に貢献しました。その際に作成した国の政策と連絡会アンケートの関係の対応年表はいまも活用されています。宇宙生物科学会で展開してきた「重力健康科学」をふまえ、学術会議小委員会の活動として第6期科学技術・イノベーション計画に盛り込まれた総合知および健康・社会参加寿命延伸を視野に入れた人間中心の科学と教育についてシンポジウム・会合を開催し、ムーンショット型研究開発事業のプロジェクトディレクター等、国が主導する大型プロジェクトの牽引役に男女比率の偏りがあることを含めて科学技術・イノベーション事務局長とも意見交換を行いました。

＜日本宇宙生物科学会ロゴマーク＞ (右上) 会員から公募で選ばれたロゴマークです。宇宙の中に青い地球が浮き彫りになります。

日本化学会における男女共同参画推進委員会の取り組み

男女が共に働く豊かな多様性社会



公益社団法人日本化学会(男女共同参画推進委員会, info@chemistry.or.jp)

Activity of the Gender Equality Committee (GEC) in the Chemical Society of Japan (CSJ)

The Chemical Society of Japan (Gender Equality Committee, info@chemistry.or.jp)

Abstract: CSJ is a key society for all fields of chemistry. The gender equality committee was established in 2002 and aims to realize a gender-equal society in chemistry field. In 2003, CSJ decided a positive action plan to increase the ratio of female members both on the board and committees up to 20% by 2010, and achieved a female president and vice presidents. The committees have held annual symposium, contributes to encourage not only female chemists, but also young members of the CSJ. The CSJ Award for Young Female Chemist (up to 2 people each year) was established in 2012. This award is granted for significant research results in fundamentals and applications of chemistry and for contribution to gender equality activities.

1 日本化学会とは

日本化学会は明治11年(1878年)に創立され、化学と化学工業の全分野を網羅する基幹学会である。正会員数は16,013名(内女性1,421名9%)、学生会員数は4,693名(内女性1,101名23%)、女性役員4名(理事27名+監事4名)である(2023年3月現在)。

2 男女共同参画推進委員会とその活動

2002年7月に男女共同参画学協会連絡会を発足させた中心学会の一つ。同年9月に本学会内にも男女共同参画推進委員会を発足させ、2003年1月の理事会にて、下記のポジティブアクションが承認、その実現を目指して活動を行ってきた。

- 1)理事会、支部、部会、委員会等における女性役員の比率が2010年までに20% になるように女性の登用に努める。
- 2)日本化学会が主催する学会、講演会等において基調講演や招待講演者の中に 女性科学者を含め、ロールモデルとして示す。
- 3)優れた女性化学者を顕彰する賞を創設する。

そして、2005年度より女性理事の会長指名枠を新設し、女性登用を推進。2018-2019年度会長に川合眞紀氏(分子研所長)が就任し、初めての女性会長が実現した。副会長としても、2019-2020年度に加藤昌子氏(北大)が初めて、2022-2023年度に相田美砂子氏(北大)が就任している。

本委員会の2023年度メンバーは、現在の委員14名(女性7名)、企業から4名、理事1名を含む。現在の委員長は北川尚美(東北大学)。

3 男女共同参画シンポジウム

発足時の2002年度から継続的に年会で開催されてきた。第23回シンポジウム「日本の科学技術力強化の

ためにすべきこと」は、初めて年会と切り離した形でオンラインにて開催した(2023年3月4日)。ここでは、科学技術人材のダイバーシティ推進のためのAffirmative action(積極的格差是正措置)や博士人材支援について、その意義を正しく理解し、化学者のすべきことについて考えることを目的とした。そして、裏出令子氏(京都大学)「なぜ、我が国の女性研究者は増えないのか? 人事の問題」、(2)藤田盟児氏(奈良女子大学)「全国初の女子大学工学部の目指すもの」、(3)北川尚美氏(東北大学)「東北大学工学部のDEI推進プロジェクト」、(4)関根千津氏(住化技術情報センター)「日本の社会・産業をリードする化学系博士人材の未来」の4つの講演が行われた。

4 女性化学者奨励賞

2013年度に創設。学術研究に傑出した業績と貢献があり、社会貢献にも努め、国内外での研究活動・交流を通して、我が国の女性化学者の地位向上に寄与し、科学者・技術者を目指す学生や若手研究者の目標となる若手女性化学者(40歳未満)を表彰。2022年度は、(1)関根由莉奈氏(原子力機構)「マイクロ固液界面を反応場にした高機能環境材料の開発」、(2)福山真央氏(東北大学)「水・ミセル間分子輸送の理解と微量生化学分析への応用」が受賞した。これまでに22名を表彰しており、ロールモデルとして活躍いただいている。

5. 女子中高生夏の学校

本委員会は、学協会連絡会の女子中高生理系進路選択支援WGの世話役団体を長年務めている。本年度夏学2023は、4年ぶり対面開催となり、実験「キッチンサイエンス」とポスター・キャリア相談に参加。

※日本化学会の男女共同参画推進委員会の活動:

<http://www.chemistry.or.jp/activity/cooperation>

日本原子力学会ダイバーシティ推進委員会 ― 活動報告2023

一般社団法人日本原子力学会(ダイバーシティ推進委員会、kaiin@aesj.or.jp)

The AESJ Diversity Promotion Committee - Activity report 2023

Atomic Energy Society of Japan (The AESJ Diversity Promotion Committee、kaiin@aesj.or.jp)

The Society was founded on February 14, 1959. We are pursuing academic and technical progress related to the peaceful use of nuclear energy, contributing to the promotion of R&D in Japan, and working in accordance with the purpose of establishment to strive for mutual awareness among members. Since May 2017, as the current committee, it is not limited to gender equality, but also recognizes the diverse values of a wide range of academic members and builds an environment where further development is possible.

1. 学会紹介

本会は1959年2月14日に創立され、原子力の平和利用に関する学術および技術の進歩を図り、我が国の研究開発の振興に寄与するとともに、会員相互の啓発に努めていくという設立の趣旨に沿って活動しています。2022年10月には、政府のGX実行会議の方針発表を踏まえ、本会の理事会声明として、「GXに向けた社会への貢献について」を発信しました(<http://www.aesj.net/gx>)。ダイバーシティ&インクルージョンの推進に取り組むことで、GXに関する多様な視点やアイデアを生み出す創造性・適応性を高めることができ、GXに関する多様なニーズや要望に応える柔軟性・適応性を高めることも可能であると考えられます。ダイバーシティ&インクルージョンの推進は、当会全体で取り組んでいく課題としています。

2. 学会員の構成(2023年9月6日現在)

本会には19部会、5連絡会があり、原子力・放射線分野の多くの専門領域から構成され、また、全国8地方支部においても独自の活動を展開しています。会員種別及び総数については下表に示す通りです。2019年2月に創立60周年を迎えるにあたり、小・中・高等学校の先生方を対象に、広く原子力や放射線の理解を深めていただくことを目的に新たな会員区分として「教育会員」を設けました(2018年6月発足)。女性比率の向上や教育会員数の増加を目指し、引き続き、あらゆる方に参加いただける学会としての活動・体制づくりを進めていきます。

会員種別		女性比率
正会員	5,488名	317名(5.8%)
学生会員	374名	57名(15.2%)
推薦会員	19名	1名(5.3%)
教育会員	6名	1名(16.7%)
総数	5,887名	342名(6.4%)

3. 主な活動状況

本会ダイバーシティ推進委員会は、2003年1月に男女共同参画ワーキンググループとして発足して以来、本会の中での男女共同参画に関する啓発活動、提言を行ってきました。2007年6月には委員会に昇格し、2017年5月よりダイバーシティ推進委員会に名称を変更して、女性会員の比率向上、委員会での活躍促進、若手研究者のキャリア・サポート等、効果的なダイバーシティ&インクルージョンについて検討を行っています。

また、発足から20年経った2023年1月、「ダイバーシティ&インクルージョン推進のためのアクションプラン」を策定しました。このアクションプランに沿って、新たなステージの活動を進めていきたいと考えています。

このほか、主な活動について紹介します。

1) 年会・大会でのポスターセッション

2013年春の年会から、ダイバーシティ推進に関する様々なテーマに着目した企画セッションを実施しています。

2) 女子中高生夏の学校

「ポスターとキャリア相談」と「実験・実習」という形で出展し、原子力・放射線の面白さを中高生に伝えています。

3) ロールモデル集の制作

原子力・放射線分野について具体的に仕事のイメージを持ってもらうことを目的として、「ロールモデル集」を制作しています(2017年第3版)。

4) 情報発信

ホームページのほかにFacebookを利用した情報発信を始めています。ぜひご覧ください。

<http://www.aesj.or.jp/~gender/>

<https://www.facebook.com/aesj.diversity/>



自然放射線の測定から入る地球・太陽・宇宙への誘い

日本女性科学者の会(中山榮子(昭和女子大学)・荒谷美智(六ヶ所村文化協会)・宮本霧子(海洋生物環境研究所)・石川稚佳子(東邦大学))

Invitation to the Earth, the Sun & the Universe opened by means of measurements of natural radiations

The Society of Japanese Women Scientists (Eiko Nakayama(Showa Women University), Michi Aratani(Rokkasho Cultural Association), Kiriko Miyamoto(Marine Ecology Research Institute), Chikako Ishikawa(Toho University))

Nuclear allergy due to Hiroshima and Nagasaki should be replaced to understand natural radiations. The Summer School for High and Middle School Girls have been performed since 2006 by the Society of Japanese Women Scientist (SJWS later) – Science, technology, and people-to-people interaction at NVEC. They have learned from the low-level substances around us to the high-level ones from the localized regions. Great East Japan Earthquake stopped the 2011 School. Energy learned from the Sun – Study from foundation of the Fukushima Accident on 2012 to 2015. Try to challenge to know and make full use of Grace of the Universe on 2016. Energy $E=mc^2$ is fantastic! on 2017. We thank late Yoshie Inomata for her early participation.

【活動内容】06年8月18日、女子高校生夏の学校(以下、夏学)、SJWSブース「女性科学者・研究者～日本の明るい未来を切り拓く～」が開催、自然放射線の測定から地球・太陽・宇宙へ眼を向けさせることに努めた。当時は広島・長崎の核アレルギー一色で、放射線教育フォーラム(理事長有馬朗人博士)は学習指導要領で義務教育から放射線・エネルギーの教育が出来るよう毎年提言を行った。09年まで身の周りの低レベルの自然放射線や、地球上で局所的に高レベル自然放射線も学んだ。10年に猪俣(2010夏学委員長)から宮本に替わり、11年は東日本大震災で夏学無し。12年、13年「宇宙の星から学ぶエネルギー―基礎から学ぶ福島事故―」。この間、12年5月26日(土)、荒谷は、お茶の水女子大学化学科桜化会講演会で「福島第一原子力発電所で起こった事象は、人工原子炉が千年に一度級の大地震で自然熱源炉に先祖還りした現象であり、黒田和夫博士が述べた自然熱源炉が福島に出現、温度が下がってきたら必要最小限の中性子で発熱させれば、半永久的平和利用熱源となる」と述べた。会場からの質問「原子炉工学者たちはどのように考えていますか」に対し「廃炉について考えています」と答えています。14年は「宇宙の星から学ぶエネルギー～福島から広がる科学の世界～」

NVEC夏学2014～科学・技術・人との出会い～中・高生が対象なり、ブース開催が実験室開催に。15年も同様、16年「挑戦してみませんか？宇宙の恵みを知ること、使いこなすこと」。17年「自然放射線の測定から入るエネルギー $E=mc^2$ と宇宙の神秘」。

【活動の過程で明らかになったこと】NVEC夏学は、全国の教育委員会から通知が各学校長宛に送られ、毎年120名が参加した。二泊三日、現役の科学者・技術者と接する非日常的体験は将来の進路決定にも有効で、NVECでは進路の追跡調査も行われると聞いた。しかし、この国家的事業が、校長の段階で拒否された事例があったことが、ある生徒の「自分の学校では応募が無く、友達の学校で応募があったのを知って参加できた」との発言で明らかになった。地方ではあり得る事態である。男子生徒に対しては、毎年ノーベル賞受賞者による有馬朗人博士記念講演会が行われており、NVEC夏学は逆差別ではない。父母、教師共に参加可能で、教師単独の参加も多かった。ある年、沖縄の竹富島から母と子が参加して話題になった。少数精鋭主義的教育が可能であり、SJWSは様々な専門の科学者が所属していて同時に多面的教育も可能だった。今後の一層の事業の発展を願って止まない。2023年8月28日記す。

日本植物生理学会 2023年活動報告

日本植物生理学会(大谷美沙都・東京大学・misato@edu.k.u-tokyo.ac.jp)

Activity Report 2023 of JSPP

The Japanese Society of Plant Physiologists; JSPP (Misato Ohtani • The University of Tokyo)

Abstract: The Gender Equality Committee of the Japanese Society of Plant Physiologist (JSPP) was established in 2011, in order to foster female researchers and improve the research environment. This year 2023, we held a luncheon seminar at the annual meeting in March 2023. We also conducted a user survey about the annual meeting nursery, which was first set after the COVID-19 disaster. Both of these events provided good opportunities for JSPP members to think about gender equality activities.

1. 男女共同参画委員会セミナーの開催

2023年3月15日～17日に行われた第64回仙台年会において、『私たちはどう雇い、どう雇われるべきか～大規模調査データから研究の現場を考える～』と題した男女共同参画委員会主催のランチョンセミナーを行いました。講師として、男女共同参画学協会連絡会の第20期幹事学会副委員長として「第5回科学技術系専門職の男女共同参画実態調査」の分析取りまとめの総括を担当されました須藤 雄気先生(岡山大学 教授/日本生物物理学会)を迎え、分析結果に関するご講演をお願いいたしました。さらにご講演の後には、須藤先生に加えて河内会長と濱田男女共同参画委員の3名をパネラー、大谷男女共同参画委員長をファシリテーターとしたパネルディスカッションを行い、日本植物生理学会の取り組みや今後期待される活動などについて議論しました。ランチョンセミナー開催日は年会最終日だったにも関わらず、100人以上の方にご参加いただき、大変盛況なセミナーとなりました。



写真。ランチョンセミナーの様子。

須藤先生からは大規模調査によって得られた「男・女」間や「任期なし・任期付き」の間に生じている様々な格差について具体的な数値を元に、その問題点について解説していただきました。こ

の結果については、セミナー参加者アンケートでも、「データが衝撃的。自分のキャリアを振り返って実感することも多い(女性; 助教)」 「しっかりしたデータに基づくご講演で大変参考になった(男性; 教授; 55-59歳)」 「数字で現状がリアルに感じられた。男性の多くに聞いて欲しい(男性; 教授; 60-64歳)」と大反響がありました。今回のランチョンセミナーによって、多くの学会員が男女共同参画実態を数字として認識できたのは大きな前進だと思います。今回の成果を基盤に、世代間の背景・認識や立場のギャップを乗り越え学会ダイバーシティを推進する活動を続けていきます。

2. 年会保育室の利用者調査

コロナ禍明け、3年ぶりの年会対面開催となり、保育室も併せて3年ぶりに設置されました。今回は3日間に亘り外部事業者による保育サービスが実施され、最終的には9名が保育室を利用し、3名の保育士が保育にあたりました。久しぶりの保育室設置でしたが、大きな混乱もなくスムーズに利用者を受け入れることができました。

今回の仙台年会では、経塚淳子年会委員長の強いリーダーシップのもと、「だれ一人取り残さない年会」を目指したことから、保育サービスが無料で実施されました。年会後に実施した利用者アンケートでは、保育室に対して利用者の高い満足度を示す結果が得られており、次回の年会でも引き続き保育室利用を希望する声が寄せられていました。保育サービスの保育料、保育時間、昼食時の対応など、次回以降の年会でも継続して議論を深めながら、今後も多くの利用者が気軽に利用できる環境を整えることに尽力します。

日本数学会の男女共同参画社会推進への取り組み

日本数学会 男女共同参画社会推進委員長(坂内健一・慶應義塾大学/理化学研究所)

Activities for the Promotion of Gender Equality in Mathematics

The Mathematical Society of Japan (Kenichi Bannai・Keio University/RIKEN)

Abstract: This report gives a summary of activities conducted by the Committee on Gender Equality of the Mathematical Society of Japan. In order to allow researchers with young children to attend, the committee was involved in setting up the nursery room at the annual meeting of the MSJ. As a regular outreach activity of the MSJ to convey that mathematics is exciting, we helped with the annual summer school for middle and high-school girls, especially with experiments, practice sessions and poster presentations. In addition, we also organized a networking and information sharing session at the annual meeting of the MSJ in which any female researchers and students in mathematics could join and share their opinions and experiences.

◆男女共同参画社会推進委員会の歴史と現状

1877年設立の東京数学会に始まり、日本数学会は140年余の長い歴史を有しています。2023年4月現在、会員総数は約5000名を数え、その内の女性会員比率は約7%です。

2002年の日本数学会による男女共同参画学協会連絡会準備会への連携・参加が、同学会内の男女共同参画への意識を高める大きな契機となりました。2004年9月に、「男女共同参画社会推進委員会」の名称で日本数学会の正規委員会として昇格設置されました。しかしながら委員会は現状として、主に保育室の開設と女子中高生夏の学校への参加、懇談会の開催と学協会シンポジウムへの参加など限定された役割しか果たしておらず、会員全体に男女共同参画の重要性を周知し推進するための方法やハラスメントの防止を研修するという観点において、他学会と比較して十分な方策を取っているとは言い難い状況にあります。資料「日本の数学界における男女共同参画の現状と提案」でも示されている通り、日本の数学界は男女共同参画という観点から他分野と比較しても大きな課題を抱えており、各種相談や懇談会などで得られる会員の声を考慮すると、状況を改善するために数学会がより積極的な役割を果たすことが期待されていると考えられます。

◆男女共同参画学協会連絡会における活動

日本数学会は、男女共同参画学協会連絡会設立時から正式加盟学会として参加しています。学協会連絡会では2021年に実施した「第5回科学技術系専門職の男女共同参画実態調査」の内容をもとに、政府各所への要望書提出を進めています。今後も、要望書や基本計画の理念が結実するよう、学協会の一員として積極的に活動を継続していきたいと考えています。

◆学会開催時の保育室開設

例年、学会開催時(3月、9月)に、会場大学の一室を借用した保育室の設置を行ってきました。2022年度9月にはコロナ禍後初めて、保育室を設置できました。

◆学会開催時の懇談会の開催

学会開催時(3月、9月)に女性研究者の交流・情報交換を目的とした「女性だれでも懇談会」、秋の学会(9月)では子育て世代の数学者等が交流・情報交換を行う目的の「数学者の、研究と子育て懇談会」を開催しています。

◆「女子中高生夏の学校」への参加

日本数学会は、女子中高生夏の学校を主催するNPO法人女子中高生理工系キャリアパスプロジェクトの賛助会員になっています。2023年は久しぶりの対面開催となり、委員会の夏学担当者が夏学実行委員として運営に携わり、日本数学会として実験「目に見えないちょっと先を予測してみよう!」、ポスター展示「 $1+1$ が0になる!? ~モジュールで広がる数字の世界~」、そして進学・キャリア相談の「数学」「苦手科目の勉強法」「部活との両立」等のブースに参加し女子中高生へ数学の魅力を伝えました。

◆統計データについて

数学の研究・教育における男女共同参画社会の推進に関する状況推移を分野として把握するために、数学会の講演者や国立10大学における大学院生や博士号取得者の人数、男女その他の割合など、最低限の統計データの収集について委員会では準備を進めて来ましたが、今後これが実現する方向で議論が進むことを願っています。

日本生態学会 男女共同参画活動報告

日本生態学会キャリア支援専門委員会

Recent activities for the gender equality and encouraging young scientist career in Ecological Society of Japan (ESJ).

Committee of supporting career, Ecological Society of Japan

Abstract: Ecological Society of Japan (ESJ), founded in 1953 to promote researches in ecological areas, has been concerned with gender equality and support for young scientists. At the annual meeting of the society, a nursery has been set up since 1999, and forums that focus on supporting gender equality and young scientist careers have been held since 2008. The society has also participated in the summer science educational programs for female high school students since 2008. The Committee of Supporting Career was established in October 2010 and acts for supporting both gender equality and young scientist careers.

日本生態学会は、1953年に設立され、生態学の進歩と普及をはかることを目的とし、学術雑誌の発行や年次大会の開催の他、自然保護に関する内閣への要望書の提出など、さまざまな活動を展開している。2019年現在における会員総数は4023人（うち女性995人、比率24.7%）である。男女共同参画に関する活動としては、2007年の第5回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムから学会として参加し、男女共同参画学協会連絡会の主催する大規模アンケートに協力している。2010年3月には、男女共同参画や若手研究者のキャリアパスの問題に特化した専門委員会を新設し、その活動を強化することが総会で決議され、2010年10月にキャリア支援専門委員会が発足した。男女共同参画および若手研究者のキャリア支援に関する活動を一体的に行っている。

◆**全国大会開催時における託児所の設置**。日本生態学会では全国大会を年1回開催しており、毎年約2000人の参加がある。大会開催時における託児所の設置は、1999年から始まった。当初は有志により設置であったが、続く2000年では大会本部により設置され、2001年では学会として継続して託児所を設置するという方針が全国委員会と総会で確認された。以後、毎年開設されており、利用者数も増加傾向にある。2023年のオンライン学会では、学会参加者の居住地域で利用した託児料金の一部を補助した。

◆**全国大会開催時におけるファミリー休憩室の設置**。2013年より全国大会時に子連れの大会参加者が予約なし・無料で利用できる「ファミリー休憩室」を設置している。オムツ替えや授乳の他、親子での昼ごはんや、おもちゃや絵本で遊ぶこと等ができる。

◆**「女子中高生夏の学校～科学・技術・人との出会い～」への参加**。2008年より、野外観察を中心とした実習を提供している。河川敷や開催地である国立女性教育会館敷地内などで、身近な自然の生物・生態の観察をテーマとして実施してきた。2023年はポスターキャ

リア相談、進学&キャリア相談カフェ、実習「ミニ科学者になろう」に参加した。

◆**男女共同参画と若手キャリア支援のためのフォーラムの開催**。2008年より毎年、全国大会時に男女共同参画と若手支援をテーマにしたフォーラムを開催している。2023年は以下の2つのフォーラムをオンラインで開催した。

1) キャリア支援フォーラム「研究職を天職に！ 情熱とキャリアアップと、そして、ワークライフ・バランス」：各方面で活躍している4名の研究者から、研究や社会的な活動における苦労や醍醐味について講演頂き、研究者の道を目指す学生に情報や話題を提供した。

2) キャリア支援フォーラム「私たちの考える理想のキャリアパス：会員アンケート調査」：学会員を対象に理想のキャリアパスについてのアンケート調査を行い、関心の高かった業種の情報提供や、キャリア支援において学会が果たすべき役割などを議論した。

◆**キャリア支援相談室の設置及び CPD 認定プログラム参加・受講証明書の発行**。キャリアパス多様化促進の一環として、2012年より全国大会において学会員向けの就職相談会や企業パンフレットの展示を行っている。2022年の大会では、キャリア支援ランチセッションを開催した。また2022年からいくつかの集会を建設コンサルタンツ協会(JCCA)のCPD認定プログラムとし、希望者に参加・受講証明書を発行した。

日本生物物理学会における男女共同参画および若手支援の取り組み

日本生物物理学会(須藤雄気・岡山大学・sudo@okayama-u.ac.jp)

Efforts for Promoting Equal Participation of Men and Women and for Encouraging Young Scientists in the Biophysical Society of Japan

The Biophysical Society of Japan (Yuki Sudo · Okayama Univ. · sudo@okayama-u. ac. jp)

The Biophysical Society of Japan (BSJ) forms a committee to plan and organize the activities of the society related to the promotion of equal participation of men and women and for encouraging young scientists. This year, the committee will 1) organize the symposium to discuss equal participation of men and women and support young researchers, 2) organize the briefing session to support job hunting for young researchers, 3) select winners of the early career award in biophysics, and 4) participated in the summer school for girls at high school presenting a poster.

日本生物物理学会では、男女共同参画と若手研究者の次世代人材育成を重要課題とし、男女共同参画・若手支援委員会を組織し、学会としての活動を実施している。男女共同参画において指摘される問題の多くは、男女を問わない若手研究者全体の研究環境に関する問題であるという認識から、委員会名に「若手支援」を入れ、若手全体を支援することに力を注いでいる。令和5年度には、以下の4点の活動を計画している。

- 1) 男女共同参画・若手支援シンポジウム開催
- 2) キャリア支援説明会の開催
- 3) 学会年会における若手奨励賞の実施
- 4) 女子中高生夏の学校における展示

1) 男女共同参画・若手支援シンポジウムの開催

当学会では、毎年年会でシンポジウムを開催している。シンポジウムは、通常、学会の費用負担によるランチョンセミナー形式を取り、毎回多数の参加者を集めている。昨年度の年会(2022年9月28-30日)では、「ありったけの夢をかきあつめ、いざふたたび世界へ!」というタイトルでシンポジウムを開催し、海外で研究室を主宰されている3名の発表者に、「どのようにして海外で研究室を運営するにいったか」や「海外で研究室を運営することの利点・欠点」などを紹介してもらい、生活とキャリアの両立などについて討論を行った。

2) キャリア支援説明会の開催

昨年度の年会では、若手研究者や学生の今後のキャリア形成の一助となるように、キャリアコンサルタントとして(株)アカリクの方を迎えて、博士課程の大学院生、ポスドクの就活ガ

イダンス、及び就職相談を行った。多くの参加者から概ね好評を得ており、今年度も引き続き同様の説明会を開催する予定である。

3) 年会における若手奨励賞・学生発表賞の実施

当学会では、平成17年度より優れた研究発表を行った35歳以下の研究者に対して若手奨励賞を授与する取り組みを行っている。平成28年度からは、若手招待講演で選考された特に優秀な研究者に授与する若手奨励賞5名に加え、それ以外の優秀な若手招待講演者に授与する「若手招待講演賞」を新設し、5名に授与している。また、応募資格を改訂し、出産等のライフイベントを経験した方の応募条件を緩和している。さらに、平成28年度の年会から「学生発表賞」の表彰も行っている。昨年度の年会(2022年9月28-30日)でも若手奨励賞(応募56名・うち女性20名、受賞者10名・うち女性3名)・学生発表賞(応募239名・うち女性87名、受賞者34名・うち女性13名)の募集と表彰を行った。

4) 女子中高生夏の学校における展示

本学会は、例年“女子中高生夏の学校(夏学)”にポスターを出展し、女子高校生、高校の先生などに対して、学会の活動を紹介している。ポスター作成には、「生物物理若手の会」メンバーの協力を得て、大学院学生会員による説明も行っている。本ポスター説明により、生物物理の研究分野の紹介やタンパク質や細胞の働き等の具体的な研究テーマに触れ、理解を深めてもらっている。また、職業としての研究者や、理系への進路相談など、今後の進路を考えるきっかけになっている。

活動報告：日本生理学会男女共同参画推進委員会

日本生理学会男女共同参画推進委員会(西谷 友重・和歌山県立医科大学・073-441-0629))

The activity reports of “Promotion of Gender Equality” Committee and “Women in Physiology of Japan (WPJ)” in the Physiological Society of Japan (PSJ)

The Physiological Society of Japan (Tomoe Nishitani・Wakayama Med. Univ./073-441-0629)

Abstract: In the 100th PSJ, we and WPJ presented three commemorative display panels introducing the histories, activities and concerns to promote gender equality. We held a luncheon symposium entitled "Innovation for the future society based on the changes in the researcher environment over the past 20 years. – what we need now is a Changing of consciousness - ". The contents of the seminar, particularly "Unconscious Bias," were published by our committee member in "Experimental Medicine." Starting in 2021, we have been implementing a "Life Event Support" program to encourage researchers facing various life events to attend the annual meeting of PSJ, and one application was accepted this year. WPJ organized the symposium of five women presenters entitled "Physiological approach to elucidate the behavioral basis- toward the next century of physiology" in the 100th PSJ.

(1行あける)

男女共同参画推進委員会活動報告

第100回日本生理学会大会 記念展示パネル：「女性研究者の活躍推進に向けて (1)男女共同参画推進への取り組み、(2)ジェンダーギャップの20年間の経年変化と課題、(3)生理学女性研究者の会(WPJ)のとりくみ」と題し、計3枚のパネルをWPJと共同で作成し、大会会場で展示した。(2)は、男女共同参画学協会連絡会(以下、連絡会)の理工系科学技術研究者の実態調査結果(以下、大規模アンケート)をもとに作成した。これらは大会終了後、学会HPでアーカイブ化された。

ランチョンシンポジウム報告：本シンポジウムは、連絡会が継続して実施している大規模アンケートが20年目を迎えたことから企画された。「この20年の研究者環境の変遷から考える 未来社会へのイノベーションー今我々に必要な意識改革ー」と題して、未だ改善されないジェンダーギャップ問題について志牟田委員から、課題解決の提案として、大坪久子氏、裏出令子氏(京都大学・特任教授)から無意識のバイアスについてご講演いただいた。会場には約90名が参加した。

ライフイベント支援事業：2021年より、様々なライフイベントを迎えている研究者に大会への参加を促すために、「ライフイベント支援」事業を実施

している。学会参加時に託児及び介護利用費の支援を必要とする会員に対し、本年度も学会終了後からオンデマンド配信終了期間までを申請期間とし、学会HPから案内した。本年度は居住地のみならず学会開催地での利用にも拡大募集した。その結果、1名応募があり、部分的支援として採択された。

羊土社執筆：第100回大会ランチョンシンポジウムの内容について羊土社から執筆依頼を受けた。タイトルは“研究者の多様性を阻む「無意識のバイアス」を意識的に外してみよう”(西谷(中村)友重著)で、実験医学2023年9月号に掲載された。

生理学女性研究者の会(WPJ)の活動：記録編集、記念展示パネル、大会シンポジウム、入澤彩賞：WPJの28年に及ぶ歴史の記録作業と並行して第100回大会では記念展示パネル「(3)生理学女性研究者の会(WPJ)のとりくみ」を作成した。大会では、「行動基盤を解明する生理学的アプローチ」として女性5名の講演者によるシンポジウムを企画し、講演前には会員と演者との交流会を持った。

男女共同参画活動報告

日本蛋白質科学会

(担当役員：谷中冴子(九大), 村田武士(千葉大), 日本蛋白質科学会男女共同参画ワーキンググループ)

Activity Report of Working Group on Gender Equality

Protein Science Society of Japan

Saeko Yanaka (Kyushu Univ.), Takeshi Murata (Chiba Univ.), Working Group on Gender Equality of Protein Science Society of Japan

Protein Science Society of Japan, PSSJ, was established on April 1st, 2001 based on the three organizations of Protein Engineering Society of Japan, Forums on Protein Structures and Principles of Protein Architecture. The society are with about 1260 members. We have invited lecturers who are active in various places to give lectures and panel discussions in line with the annual conference every year since 2003. PSSJ has established a nursery school with the annual conference since 2005. We have joined poster presentations at high school girls' high school, and create opportunities for faculty members and graduate students to share the fun of protein research.

日本蛋白質科学会は、2001年4月に設立した現在会員約1260名の学会です。2023年度は学生会員と一般会員の女性の割合は、それぞれ約33%と13%です。男女共同参画学協会連絡会には、2003年11月から参画しています。

2003年に、男女共同参画ワーキンググループ(後藤祐児(阪大)、白木賢太郎(筑波大)、田口英樹(東工大)、長野希美(産総研)、山縣ゆり子(熊本大))で、年会を中心とした活動に取り組んで、その後メンバーが増えてきました。現在は下記のメンバーで活動しています。

赤澤陽子(産総研)、河合(野間)繁子(千葉大)、北尾彰朗(東工大)、栗栖源嗣(阪大)、清水敏之(東大)、白木賢太郎(筑波大学)、鈴木智香子(第一三共)、茶谷絵理(神戸大)、禾晃和(横浜市大)、光武亜代理(明治大)、本野千恵(産総研)、姚関(北大, R3/R4年度担当役員)、村田武士(千葉大)、谷中冴子(九大, R4/R5年度担当役員)、養王田正文(東京農工大)(五十音順・敬称略)

1. 第23回年会(2023年)での男女共同参画活動

ワーキンググループでは、学会の年会にあわせて、2003年から毎年、学会内外で活躍する講師を招き、男女共同参画や若手の活躍などに関する講演やパネルディスカッションを主催しています。昼のランチョンセミナーとして開催しており、2016年からは若手育成との共催で行っています。例年100名以上の参加者があります。2023年度年会はハイブリッド開催となり、若手育成と共催で

ワークショップ(ランチョンセミナー)を行いました。

日程：7月7日(金) 11時15分-12時05分

司会：谷中冴子(九大)

話題提供：三田村圭祐(協和キリン)

中山典子(阪大・蛋白質研究所)

概要：「アカデミアの研究者以外から見る博士の魅力について」のタイトルで、《企業における学位取得の意義とは》や、《近年広がる博士の多様なキャリアパス》について教育・研究・組織運営などに奮闘されている方に、企業及びアカデミックから男女各1名にそれぞれの進路や、これまでの経験、ノウハウなどをご紹介いただきました。その後、質疑応答、総合討論を行いました。

* 年会に保育室(2005年年会から設置)を設置していません。

2. 男女共同参画学協会連絡会活動への参加

A) 運営委員会への参加：担当役員が主に参加

B) 第20回シンポジウムへの参加

日時：令和5年10月14日(土)

千葉大の河合(野間)繁子先生、九大の谷中が参加しました。

C) 「女子中高生夏の学校2023」への参加

日程：令和5年8月6日(日)

午後のポスターセッションに千葉大の河合(野間)繁子先生の研究室および東工大田口研究室のメンバーが参加しました。大学生・大学院生が研究および大学生活の紹介動画などを準備し、紹介・質問等に対応しました。

公益社団法人日本動物学会 男女共同参画活動報告

日本動物学会男女共同参画委員会 担当理事&委員長: 黒岩 麻里・北海道大
委員(第11期): 矢澤 隆志・旭川医大、佐藤 陽子・鳥取大、中内 祐二・山形大、伊藤 篤子・東京高専、
小柴 和子・東洋大、柴 小菊・筑波大、広瀬 慎美子・東海大、吉田 薫・桐蔭横浜大、佐倉 緑・神戸大、
杉浦 真由美・奈良女子大、吉川 朋子・富山大、関口 俊男・金沢大、長田 洋輔・岡山理科大、
定本 久世・徳島文理大、光永-中坪敬子・広島大、山口 陽子・島根大、金子 たかね・九州産業大、
荻野 由紀子・九州大 事務局: zsj-society@zoology.or.jp

Annual report on the activity of the Zoological Society of Japan for equal participation of men and women in science

The Zoological Society of Japan

The Zoological Society of Japan (ZSJ) is an academic society whose purpose is to contribute to the development and dissemination of a wide range of zoological studies. It has been 22 years since ZSJ held the 1st annual meeting to discuss diverse issues facing women scientists. The annual meeting is now called “ZSJ Meeting on Equal Participation of Men and Women in Science”, providing a forum to discuss wider issues concerning work life balance and research activity of scientists irrespective of gender.

<公益社団法人日本動物学会(ZSJ)について>

本学会は2012年に公益社団法人となり、2018年に140周年を迎えた。動物科学研究の発展と普及を目的とし、すべての動物を対象に、すべてのアプローチを包含しつつ「生物の共通原理と多様性を理解する」ことを目指す学術団体である。

<男女共同参画の活動>

女性研究者奨励OM賞の公募

2001年に女性会員の動物科学研究を奨励する賞を設立して表彰してきたが、2012年から対象を「動物科学を研究するすべての女性研究者」に拡大した。

【2023年度の受賞者】

徳岡(小林) 三紀

日本学術振興会 特別研究員 RPD

「動物初期胚において発生運命決定をおこなう遺伝子発現調節システム」

石井 悠(いしい ゆう)

日本学術振興会特別研究員 PD

「刺胞動物と共生藻の細胞内共生に関わる遺伝子の機能解析」

学会組織

2001年に将来計画委員会で男女共同参画事業

を開始し、第1回女性研究者懇談会を開催した。2003年から男女共同参画委員会が独立し、2008年より男女共同参画担当理事を配置し、2013年から大会時の企画は男女共同参画懇談会となった。

動物学会男女共同参画委員会の活動

① 年次大会時の男女共同参画懇談会の開催

2001年より年次大会において男女共同参画懇談会を実施してきたが、本年度で23回目を数える。COVID-19の感染拡大以来3年ぶりのオンラインでの開催となった昨年度の早稲田大会に引き続き、今年度の山形大会でも懇談会は対面でランチョンセミナーとグループディスカッション形式で実施することになった。グループディスカッションはこれまでの具体的なテーマからより拡大したテーマとして、昨年同様【働き方と日々の生活(キーワード:テレワーク, 育児, 介護)】【勤務地(キャリアパス)と日々の生活(キーワード:単身赴任・共働き, 育児, 介護)】【研究と日々の生活(キーワード:研究, 授業, 家事, アルバイト)】の3グループにわかれて行う予定である。

② 男女共同参画学協会連絡会活動への協力

第5回大規模アンケートの結果を受けて、「科学技術系分野における任期付き研究者の雇用問題解決に向けての要望書」の、内閣総理大臣および各省の担当大臣等、関係各位への提出について、賛同した。

日本比較内分泌学会・男女共同参画活動報告
日本比較内分泌学会 ダイバーシティ&インクルージョン委員会
(岡田令子・静岡大学・okada.reiko@shizuoka.ac.jp)

Activity Report of Gender Equality in the Japan Society for Comparative
Endocrinology

*The Japan Society for Comparative Endocrinology (Reiko Okada, Shizuoka University,
okada.reiko@shizuoka.ac.jp)*

The Japan Society for Comparative Endocrinology aims to elucidate the evolution of animals by comparing the endocrinological mechanisms of various animals. At the 46th Annual Meeting held at the University of Tokyo, the Gender Equality Committee organized a seminar on "How to overcome the 'Unconscious Bias'". Unconscious bias affects many situations such as education, job selection, promotion, and research presentation. In this seminar, two speakers presented the true state of unconscious bias and the way to solve the problem.

日本比較内分泌学会は1975年に創立された学会で、内分泌学的な生体調節機構の比較という観点から動物の進化を解き明かすことを目指す研究者、学生などから構成されています。各会員の研究分野は生物学・農学・医学・薬学などであり、2023年8月現在の会員数は約370名です。

本学会では毎年、大会とシンポジウムを開催しており、2022年度は10月28日～30日に東京大学において第46回大会及びシンポジウム東京大会が開催されました。

2017年より、日本比較内分泌学会の年次大会において男女共同参画委員会(2023年度からはダイバーシティ&インクルージョン委員会として活動)主催のランチンセミナーを行なっています。第46回大会では下記のセミナーを実施しました。

2022年 男女共同参画セミナー 無意識のバイアスを克服するために

10月29日(土)13:30～14:30

「外してみませんか！ 無意識のバイアスの色眼鏡」

大坪久子(元日本大学・薬学部薬学研究科)
裏出令子(京都大学・複合原子力科学研究所)

どのような人であっても全ての人が等しく機

会を得られる社会であるのが当たり前ですが、残念ながら現実はそのようになっていません。本セミナーでは長年にわたり男女共同参画に関する問題の解決に向けて活動されているお二人の演者に、機会均等を妨げている要因である「無意識のバイアス」についてお話しいただきました。参加した会員からは、「『無意識のバイアス』の実態について理解できた」、「科学技術の発展には若手研究者の育成と研究の活性化が必須であり、そのためには女性参画の推進が重要であると再認識した」等の声がありました。

とても情報量の多いご講演であったため質疑応答の時間が十分取れませんでした。寄せられた質問全てに対して後日文章で丁寧なご回答をいただきました。その内容は、参考資料とともに学会ウェブサイトに掲載させていただきます。

<https://www.jsce1975.jp/sankaku.html>

本委員会では引き続き女性の学生や若手会員を増やすこと、また性別や国籍など全ての属性にかかわらず研究を続け、活躍できるための環境づくりに取り組んでいきたいと考えています。

日本物理学会ダイバーシティ推進委員会活動報告

日本物理学会

(小林 夏野・岡山大学・kayakobayashi77@okayama-u.ac.jp

濱口 幸一・東京大学・hamaguchi@phys.s.u-tokyo.ac.jp

成木 恵・京都大学・m.naruki@scphys.kyoto-u.ac.jp

所 裕子・筑波大学・tokoro@ims.tsukuba.ac.jp

斉藤 準・帯広畜産大学・jsaito@obihiro.ac.jp)

Recent Activities of Diversity, Equity, & Inclusion Committee in the Physical Society of Japan

The Physical Society of Japan

(Kaya KOBAYASHI, Okayama University, kayakobayashi77@okayama-u.ac.jp

Koichi HAMAGUCHI, University of Tokyo, hamaguchi@phys.s.u-tokyo.ac.jp

Megumi NARUKI, Kyoto University, m.naruki@scphys.kyoto-u.ac.jp

Yuko TOKORO, Tsukuba University, tokoro@ims.tsukuba.ac.jp

Jun SAITO, Obihiro University of Agriculture & Veterinary Medicine, jsaito@obihiro.ac.jp)

Abstract: We report on the recent activities of the Diversity, Equity, & Inclusion Committee, in the Physical Society of Japan (JPS). The 4th (2023) Fumiko Yonezawa Memorial Award was given to three winners. As an educational activity, the committee members have joined the summer camp for junior-high and high-school girls.

日本物理学会は1877年に東京数学会社として発足したのち、1946年に設立された。現在の会員数は約15,000人である。会員の女性比率は増加し続けているものの、現在も6~7%程度であり、世界的に見て低い。2002年7月に発足した男女共同参画推進委員会は、2023年1月よりダイバーシティ推進委員会と名称を改め、物理学において女性はもとよりさまざまな研究者の多様性を尊重し、各人が能力を発揮できるための活動を行っている。以下、この1年間の主な活動を報告する。

【1】米沢富美子記念賞 第4回受賞者決定

本会では女性会員の活躍を讃え奨励するため、2019年度に米沢富美子記念賞を設立し、毎年の受賞者を年次大会で表彰している。2023年度は第4回受賞者として、女性会員3名を表彰した。

【2】次世代教育支援

2005年度より本学会員を「女子中高生夏の学校」に実行委員および企画担当委員として派遣している。2023年度は4年ぶりの対面形式で8月5-7日の3日間開催され、本委員会委員が実験やポスターの企画に参加した。また、2006年度より継続的に支援している「女子中高生のための関西科学塾」は、2021年度からは賛助会員として協賛し、2022年3月にはブース参加した。2023年度も

現時点で7月29日のA日程が開催済みである。

【3】学協会連絡会活動

学協会連絡会運営委員会、大規模アンケート解析WG、シンポジウムに参加している。

【4】国際交流

International Conference on Women in Physics (2023年7月10-14日)やFall Meeting of the Division of Nuclear Physics of APS&JPS(2023年11-12月)での本委員会委員による本会活動の発表、AAPPS Women in Physics WGへの本委員会委員の派遣(Char&Vice Chair)等を行っている。

【5】秋季・年次大会での託児室の開設

本会では毎年春と秋に全国大会を開催しており、いずれも約5,000名の研究者が参加している。秋の年次大会には本委員会主体で託児室を設置し、事前申込みにより誰でも利用できる。利用者アンケートにより一層の改善を目指している。

【6】全国大会でのミーティング開催

全国大会にて、本委員会主催のミーティングを開催してきた。2023年は春季大会でオンラインのランチョンミーティングを開催し、年次大会では理事会企画インフォーマルミーティングに協力する。

【7】広報活動

本会会誌やHP(danjo.jps.or.jp)に掲載している。

日本森林学会 ダイバーシティ推進活動報告

日本森林学会(久保田多余子^{1*}・長谷川陽一^{1**}・小田智基¹・木村 恵²・久米朋宣³・志賀 薫¹・陣川雅樹¹・鈴木智之⁴・高田乃倫予⁵・田中 浩⁶・新田響平⁷・宗岡寛子¹・山川博美¹・山下詠子⁸ ¹森林総合研究所 ²秋田県立大学 ³九州大学 ⁴東京大学 ⁵岩手大学 ⁶国際緑化推進センター ⁷秋田県林業研究研修センター ⁸東京農業大学
*ktayoko@ffpri.affrc.go.jp, **yohase@ffpri.affrc.go.jp)

Annual report of diversity promotion at the Japanese Forest Society

The Japanese Forest Society (Tayoko KUBOTA¹ Yoichi HASEGAWA^{2 1,2} Forestry and Forest Products Research Institute ¹ktayoko@ffpri.affrc.go.jp, ²yohase@ffpri.affrc.go.jp)

Abstract: Founded in 1914, the Japanese Forest Society (JFS) is the only academic society in Japan that deals comprehensively with forests and forestry. Our activities began in 2002 with the establishment of a nursery at the time of the conference, and in 2003 a Director of Gender Equality was placed on the Board of Directors. We became an official member of EPMEWSE in 2004. In 2018, the name was changed from Director of Gender Equality to Director of Diversity Promotion, with the aim of creating an environment that facilitates the participation of various members with attributes such as women, foreigners, people with disabilities, LGBT, etc. in the activities of the Society. At the time of the conference in March 2023, a symposium and an information exchanging meeting were held online.

1. 一般社団法人日本森林学会について

日本森林学会は、1914(大正3)年に創立された、森林・林業を総合的に扱う日本で唯一の学会です。環境の維持増進と林産物の供給など森林の価値や機能に関する研究の発展に努め、国民ひいては人類の生活・文化の向上に貢献しています。男女共同参画学協会連絡会には2004年1月に正式に加盟しました。2023年3月1日時点で、学生を含む正会員数は2,220名で、そのうち465名(20.9%)が女性です。学生会員では36.7%が女性となっています。2020-2021年度の全役員(理事+主事)および代議員に占める女性の割合は19.4%と22.9%でしたが、2022-2023年度ではそれぞれ33.3%と29.2%に増加しました。

2. 男女共同参画・ダイバーシティ推進活動の経過

2002年度の大会時に保育室を設置する試みから始まり、2003年4月に男女共同参画理事が設置され、2003年11月に男女共同参画主事が設置されました。その後、2014年の日本森林学会100周年記念事業(第125回大会)で「森林分野におけるダイバーシティ宣言」を採択しました。2018年5月には「男女共同参画」を「ダイバーシティ推進」に変更し、同年12月に、女性、外国人、障がい者、LGBT等の属性を有する様々な会員が円滑に学会活動に参画できる環境を整えていくことを目指し、学会内に臨時委員会を設置しました。この委員会は2020年5月に常任委員会であるダイバーシティ推進委員会となり、現在、理事と主事の他13名の委員を置き、活動を行っています。

3. 学会大会におけるダイバーシティ推進活動

2023年3月27-29日に開催された第134回大会期間中にシンポジウムと交流会を開催しました。シンポジウムは留学などに挑戦する学会員を後押しするとともに、多様性・平等・受容について考えてみるきっかけとすることを目的に、「留学・研修を通じて見えてくる多様な価値観や考え方」と題して行いました。いつもと異なる環境に身を置くことで、今まで常識と思っていたことがそうではなく、多様な価値観や考え方の違いに気づくことがあることから、留学、研修、休暇制度などで、外の世界を経験したことによる気づきや意識の変化、その後のキャリア形成への影響について、4名の学会員からご講演いただきました。講演タイトルは「ダイバーシティを活用して適応力を発揮できる森林と社会」、「ダブル・ディグリー・プログラム、日本の大学の国際化のために有効な手段として」、「森林総合研究所の受託研修に参加して」、「サバティカルが多様な目的や効果」です。そして、録画動画を学会ウェブサイトにて会員限定で公開しています。

交流会は、同じ分野を志す者ならではの情報交換や相談が気軽にでき、つながることのできる場を目指して、バーチャルオフィス oVice を利用して行いました。①育児や共働きの悩み、②育児と研究・仕事のバランスのとり方、③進学や留学、④ポストク・就職や転職、⑤キャリア形成のグループに分かれて、仲間や先輩たちと楽しく交流しました。

地球電磁気・地球惑星圏学会活動報告

地球電磁気・地球惑星圏学会

(男女共同参画担当運営委員 中溝葵(情報通信研究機構)、大矢浩代(千葉大学)

ダイバーシティ推進ワーキンググループ diversity@sgepss.org)

Annual report for promoting equal participation of men and women in SGEPS

Society of Geomagnetism and Earth, Planetary and Space Sciences (SGEPSS)

(Aoi Nakamizo (NICT), Hiroyo Ohya (Chiba University), and SGEPS Diversity Promotion Working Group

diversity@sgepss.org)

Abstract: Society of Geomagnetism and Earth, Planetary and Space Sciences (SGEPSS) covers Atmospheric Sciences, Space electricity, Earth and Planetary surface physics, and Solid earth geodynamics fields. 724 members are involved with 11 % female members in SGEPS (as of September 2023). Since July 2003, SGEPS had belonged to EPMEWSE as an observer committee, to establish a working group for promoting equal participation of men and women in SGEPS before SGEPS was formally affiliated with EPMEWSE in April 2005. This is an annual report of SGEPS activities related to the promotion of equal participation during the year from September 2022 to September 2023.

【2022年9月～2023年9月の活動について】

地球電磁気・地球惑星圏学会(SGEPSS)は、超高層物理学、プラズマ物理学、大気力学・化学、固体地球科学、惑星科学、宇宙科学など多様な専門領域の会員(2023年9月時点での会員数: 724名、女性比率: 約11%)で構成されている。2003年7月に男女共同参画学協会連絡会にオブザーバー加盟した直後、これに対応する形で男女共同参画検討・提言WGを設置し、2005年4月に正式加盟した。本学会の2022年9月から2023年9月までの活動について、下記に報告する。

【ダイバーシティ推進ワーキンググループ活動】

上記WGが発展し、2020年5月に発足したダイバーシティ推進WGの大きな成果として、2021年10-11月のダイバーシティ関連アンケートの実施・分析、報告書の公開(2022年9月)がある。このアンケート結果を参考にしながら、ダイバーシティ推進に関する方策を定期打合せにて検討するとともに、2023年度秋季年会ではその一つとしてダイバーシティ推進懇談会を開催する予定である。

【秋季年会中の保育室設置および利用料補助】

2005年の秋季年会で初めて保育室を設置して以来、毎年各地で開催される秋季年会において、保育室の設置・斡旋、利用料金補助を実施している(利用料金補助: 学会会員の場合全額補助、非会員の場合500円/1時間となるように補助。食事や保険料などは除く)。2020、2021年度とオンラ

イン開催が続き、ハイブリッド開催となった2022年度では利用希望は無かったが、今年度(2023年9月23-27日、ハイブリッド開催、現地会場: 仙台市)は、2家族3名の乳幼児の利用希望があり、「一般社団法人にこにこサポート」を利用したサービスを提供する予定である。

【女子中高校生夏の学校 ～科学・技術者・人との出会い～】

今年度の「女子中高校生夏の学校」(2023年8月5～7日)は、4年ぶりに国立女性教育会館にてオンライン開催され、当学会の若手アウトリーチ活動STEPLEと共同で、以下を実施した。

実験・実習「作って・見て・測って知る、地球と宇宙の『波』のふしぎ」では、ストローとゴムひもを使った「ウェーブマシン」を作成し、様々な条件で波の伝搬速度を測定するなどして、波の性質を学んでもらった。さらに、自然界に存在する波について紹介するとともに、惑星や衛星の地下構造探査に用いられるレーダー探査の原理や最先端研究について紹介し、波(電波)が宇宙探査にも利用されていることを学んでもらった。ポスター発表では、当学会の研究テーマの一つであるオーロラについて、オーロラ発生装置を用いながらその発光原理を学んでもらうとともに、大学院生のロールモデルについて紹介した。また、女子中高校生からの進路・キャリア相談に応じた。

日本神経科学学会 2023 年度の活動報告

日本神経科学学会（渡部文子・東京慈恵会医科大学・awatabe@jikei.ac.jp）

Activity Report in 2023, The Japan Neuroscience Society

The Japan Neuroscience Society

(Ayako M. Watabe, Jikei University School of Medicine, awatabe@jikei.ac.jp)

日本神経科学学会は、脳神経系研究の推進を目的に1991年に設立された団体であり、現在約6000名の会員で構成されています。2017年より旧男女共同参画委員会を発展的に解消し、ダイバーシティ対応委員会が発足しました。今年度の大会は2023年度8月に仙台において4年ぶりの現地開催という形式で開催されました。今後の課題を含め同委員会の活動について報告致します。

1. 現地開催学会と今後の課題

本学会における過去 10 年間の大会参加者数を調べたところ、女性比率は 2014 年度の 24%から毎年着実に増加し、2020 年度の web 開催では 28%、2021、2022 年度のハイブリッド開催では 30%を超え、今年度は現地開催のみの開催でしたが、女性比率は過去最高の 30.8%となったのが大きな特徴です。参加人数自体は昨年度のハイブリッド大会が最大で 3500 人越えだったのに対し、現地開催の今年度は 2500 人となりました。また年代別に見てみると、10 代は女性比率が 50%、20 代も 40%であり、20 代の女性参加者はこの 10 年間で倍増しています。詳細な分析は専門委員会の報告を待ちますが、参加が増えている若手女性研究者が年次大会に参加しやすい環境を整備することは、女性研究者が継続して研究活動に従事するために必須であると考えられます。また、30 代、40 代の参加者女性比率は 30%、27%と 10 年前に比べてわずかに増えているものの、中間管理職にあたるこの世代は、家庭でも子供の受験や親の介護など、出張を伴う活動が困難なワークライフバランス状況を反映するのかもしれません。未就学児

を抱える世代への支援に加えて、今後はこうした世代への対策も必要であると考えます。

2. 子育て中の研究者の活動支援

本学会では 2004 年以来、継続して大会中の託児室を設営しており、子供と一緒に利用できる休憩室も設置しています。今年度は、託児所利用者は延べ 51 名、1 日平均 12.8 人の利用があり、昨年度から大きく利用者が増加しました。今後はポスター会場等における親子スペース設置等を含め、次年度以降も積極的な取り組みを継続する予定です。

3. 大会中のダイバーシティ対応委員会企画

今年度は、ランチョンセミナー「持続可能な神経科学のための IDBE（アイドビー）」が UC Irvine の五十嵐啓先生、RIKEN BDR/NYU Abu Dhabi の王丹先生企画のもと開催されました。本年度はダイバーシティに取り組む姿勢をより明確に、Stanford 大学の井上さやか先生、RIKEN BDR の播磨有希子先生、筑波大学の Qi Zhang 先生より話題提供があり、今後の課題を議論しました。フロアからは大学院生から活発な質問もあり、特に若手研究者からの熱意が感じられる会となりました。

ダイバーシティ対応委員会としての活動も7年目に入り、さらに今後は日本神経科学会の法人化という大きな節目もあるため、学会としてのダイバーシティ対応の活性化とその可視化を今後さらに高めて行きたいと考えております。

日本バイオイメーjing学会 活動報告(2022年10月～2023年9月)

日本バイオイメーjing学会男女共同参画委員会

(洲崎悦子・就実大学、朽津和幸・東京理科大学、田中直子・大妻女子大学、橋本香保子・千葉工業大学、樋口ゆり子・京都大学、加藤有介・東京薬科大学)

Activity Report of the Bioimaging Society (October, 2022 - September, 2023)

Gender Equality Committee in the Bioimaging Society (Etsuko Suzaki, Shujitsu Univ.; Kazuyuki Kuchitsu, Tokyo Univ. of Sci.; Naoko Tanaka, Otsuma Women's Univ.; Kahoko Hashimoto, Chiba Inst. of Tech.; Yuriko Higuchi, Kyoto Univ.; Yusuke Kato, Tokyo Univ. of Pharm. Life Sci.)

Gender Equality Committee in the Bioimaging Society runs the activities to become conscious of “Gender Equality” to the members of the society. As an annual event, the members participated in the poster session of “Summer School for Female Students”. The Committee tries to keep promoting “Gender Equality” to the society under the environment of “After Corona”.

<学会の紹介>

日本バイオイメーjing学会(1991年10月設立)は、「生命現象に関わるイメーjing」をテーマとして掲げ、イメーjing手法の開発からイメーjingによって得られた新知見の紹介等まで、極めて幅広い研究領域に関わる研究者の学際的交流の場である。常に進歩しているイメーjing手法に関する最新の知見を得ることのできる学会である。学会誌として、国際英文誌「bioimages」と、邦文誌「バイオイメーjing」を刊行している。学術集会では、4つのベストイメーjing賞を設けており、受賞者の画像は、邦文誌の表紙に用いたり、女子中高生夏の学校でのポスターに利用させてもらったりしている。学会として若い研究者を対象とした奨励賞を設けており、また、若手を対象とした研究助成の新設も検討中である等、女性も含む若い研究者の活躍を期したサポートに力を入れている。

会員数は総数227名で、昨年(284名)より約2割減となっている。その内訳は一般会員数182名(うち女性28名 比率15%)、学生会員数45名(うち女性16名 比率36%)である。女性の会員比率は、昨年と比べて一般会員が1%の微減、学生会員は3%増加で、全体の会員比率は1%の減少である。また、理事および評議員の女性比率は昨年と変わらず、各々13%(15名中2名)、19%(37名中7名)であった。会員の女性比率が19%であることを考えると、評議員に占める女性比率はほぼ妥当な値と言える。また、女性評議員7名中の4名は男女共同参

画委員であり、男女共同参画活動を通じて学会内で認知され、他の委員会でも活躍している。

<男女共同参画への取り組み>

2005年2月に男女共同参画学協会連絡会に正式加盟し、学会内の一委員会として6名(男性2名、女性4名)の委員で活動している。コロナ禍以降、活動が十分にできておらず、また定型化してきていることは反省点である。その中で、4年ぶりに対面開催された「女子中高生夏の学校」に田中委員を中心としてポスター及び進路・キャリア相談カフェに参加できたことは貴重な成果であった(下図)。



今後は、委員会名やメンバーの刷新を検討し、Afterコロナにふさわしい男女共同参画活動やダイバーシティの実現、さらに雇用格差の解消を進めていくための活動ができる体制を整備していく予定である。

日本育種学会 男女共同参画推進委員会活動報告

日本育種学会(溝淵律子・農研機構作物研究部門, 三村真生・東京大学)

Activity report of gender equality in the Japanese Society of Breeding

Japanese Society of Breeding

(Ritsuko MIZOBUCHI・National Agriculture and Food Research Organization,

Manaki MIMURA・The University of Tokyo)

Abstract: Japanese Society of Breeding has been established in 1951 for aiming at the progress of the research and the technology, interchanges and cooperation of the researchers, and the spread of knowledge on breeding science. We publish two journals quarterly, "Breeding Science" in English and "Breeding Research" in Japanese and hold a meeting twice in a year. Percentages of women are 17% of the general member, and 31% of the student member in 2023. The activities for gender equality in the society are reported here.

日本育種学会は、品種改良の科学である育種に関する研究および技術の進歩、研究者の交流および知識の普及をはかることを目的として1951年に設立された。当学会は年2回の講演会の開催、シンポジウム等の開催および講演協賛、英文/和文学会誌(Breeding Science/育種学研究)の刊行、学会賞、奨励賞および論文賞の授与、国際交流の推進を行っている。会員数は2023年現在1,356名であり、一般会員989名(男性796名, 女性173名, 未回答20名), 学生会員304名(男性148名, 女性93名, 未回答63名), その他の会員63名となっている。女性会員の占める割合は、一般会員で17%, 学生会員で31%であり、昨年とほぼ同じである。

<男女共同参画のあゆみ>

日本育種学会は2006年4月に男女共同参画学協会連絡会に正式加盟し、2007年4月に「男女共同参画推進委員会」を発足した。2019年度から学会運営委員会の幹事長が委員長を担当することになり、現在、委員会は男性3名、女性3名で構成されている。

<活動状況>

1. 男女共同参画セミナー等の開催

講演会会期中に育種学会における男女共同参画を目指したテーマのランチタイムセミナー・ワークショップを企画している(これまでに計14回開催)。2022年秋季大会講演会のセミナーでは、御興久美子先生に「ハラスメントのない良好な研究環境をつくるために ~学会のできるごとく」として、

会場およびオンラインのハイブリッド形式でご講演頂き、実りあるセミナーとなった。当日はオンラインを含め101名の学会員の出席があり、研究現場におけるハラスメント問題への関心の高さを実感するセミナーとなった。2023年秋季大会講演会のセミナーでは、深尾武司先生に「米国での妊娠、出産、育児や大学での支援体制について」として、ご講演いただく予定である(8月31日現在)。

2. 講演会会期中の保育室の設置

状況により設置形態は異なるが、講演会会期中の保育室の設置を継続している。2011年からは、大会運営マニュアルに組み込むよう保育室の利用規定や申請書等を整備した。

3. 女性の登用

会員全体の女性比率を踏まえ、学会役員等の女性比率10%以上を目標に女性登用に努力するよう要望している。2010-2011年には学会役員における女性比率は目標の10%を達成したが、その後は減少し2018-2019年は5%(73名中4名)となったが、2023年は8%(69名中5名)とやや回復傾向にある。

4. ホームページの開設

学会ホームページ内に男女共同参画推進委員会のページを開設し、活動報告やアンケート調査結果、ランチョンセミナーの資料等、内閣府男女共同参画局等へのリンクを掲載している(<https://jsbreeding.jp/activity/gender-equality/>)。

2022-2023年度 日本地球惑星科学連合 男女共同参画活動報告

日本地球惑星科学連合ダイバーシティ推進委員会 e-mail: office@jpgu.org

Activity Report of the JpGU Committee for Diversity Management and Talent Pool for FY2022-2023

Committee for Diversity Management and Talent Pool, Japan Geoscience Union (JpGU)

Promoting equality, diversity and inclusion (EDI) is an urgent issue that needs to be addressed for all JpGU members to use their abilities and individuality to the fullest and to develop Earth and planetary sciences soundly. For this purpose, we regularly survey the career pathways of early career geoscientists, which will provide a basis for discussing how to promote EDI in our community. We also hold PR events to motivate the younger generations, especially female students, to specialize in Earth and planetary sciences. In order to perform such activities, we work in solid cooperation with our 49 member associations, international geoscience communities, and domestic academic communities of broad disciplines such as the Science Council of Japan and the EPMEWSE.

<委員会の概要>

日本地球惑星科学連合 (JpGU) は、地球惑星科学を構成する全分野をカバーする学術団体である (2023年7月26日現在、個人会員約1万名、団体会員49学協会)。その下に設置されたダイバーシティ推進委員会では、地球惑星科学分野における男女共同参画、多様な人材が能力を発揮できる環境作り、および学生・キャリア初期研究者のキャリア支援に関する様々な取り組みを行っている。毎年5月に開催されるJpGU大会においてダイバーシティに関するセッションの開催、保育ルームの開室支援、キャリア相談ブースの開設を行っている。そのほか、キャリアパスアンケートの実施、「女子中高生夏の学校」への協力、男女共同参画学協会連絡会への参加・協力などの活動を行っている。2021-2022年度に実施・解析が行われた第5回科学技術系専門職の男女共同参画実態調査 (大規模アンケート) では、JpGUダイバーシティ推進委員延べ7名がアンケートの実施WGと解析WGにメンバーとして参加し、引き続き英文抄訳の作成 (2023年内に発行予定) にも携わっている。

<活動報告>

2023年5月21日 (日) ~ 26日 (金)

JpGU2023年大会は、5月21日 (日) ~ 26日 (金) に、幕張メッセでの対面形式とオンライン形式を併用したハイブリッド形式で開催された。大会期間中、JpGUダイバーシティ推進委員会が主体となる中高生向けパブリックセッション「博士の生活をのぞいてみよう」 (5月21日) が開催された。博士の毎日の研究生活や、そこに至る経緯について、4人の招待講演者にざっくばらんに語っていただいた。また、JpGUトークスタジオ3 (5月26日) では4人の中堅研究者がジェンダー、多様性、

包摂性といったテーマで語り合った。大会期間中、キャリア初期研究者に対するキャリア相談会を実施した。

若手研究者国際アンケートの実施への協力

JpGUは海外の地球惑星科学分野の12学協会と共同して、若手研究者国際アンケートを実施している。このアンケートの目的は、地球惑星科学分野の若手研究者の要求や課題を国際比較を通じて把握し、若手研究者の研究環境の向上や、学会による若手研究者支援活動の改善のために役立てることである。アンケートの回答期限は2023年12月31日までであり、以下のリンクから回答できる。

<https://www.jpgu.org/news/2023/6778/>

2023年8月5日 (土) ~ 7日 (月)

2023年度の「女子中高生夏の学校」は4年ぶりの現地開催となった。JpGUは他の学協会と共同でこのイベントを後援した。全国から98名の生徒が参加し、盛況であった。JpGUはポスターの展示 (タイトル「奇跡の惑星『地球』の誕生、歴史、現在、未来を解き明かす!」)、実験実習 (テーマ: 「地球、衛星、惑星の物質と表面を調べよう」)、進路・キャリアカフェの相談員を行った。実験の感想では「興味のある分野についてみっちり学べた」といった概ね好意的な意見であったが、「もう少し実験のような実際に手を使う作業があればいいと思った」といった意見もあった。ポスターでは、昨年度、受けた質問がきっかけとなって作成した「地球惑星科学が学べる大学・研究室」の一覧に関心、興味をもつ生徒が多かった。今後も参加生徒らの意見を参考にしつつ、実験やポスターの内容を検討、更新していきたいと考えている。

一般社団法人日本繁殖生物学会 男女共同参画推進活動報告

日本繁殖生物学会・男女共同参画推進委員会（越後貴成美・理化学研究所バイオリソース研究センター）

Report on Promotion Activity for Gender Equality in Society for Reproduction and Development (SRD)

*Society for Reproduction and Development (Narumi Ogonuki,
RIKEN BioResource Research Center)*

Abstract: In order to increase female board members, chairpersons, and invited speakers in the annual meeting, we are addressing to the SRD members through a luncheon seminar at the annual meeting. Also, the list of female regular members was prepared according to their special study.

<日本繁殖生物学会(SRD)について>

日本繁殖生物学会は、飼育動物や野生動物などを主とした脊椎動物の繁殖に関する学術研究を振興し、その成果の普及を図ることを目的に、1948年に設立された70年以上の歴史をもつ学術団体です(会員数2023年7月、約700名)。現在は、性と生殖に関わる様々な現象とメカニズムに関する研究、基礎的知見を応用した人工繁殖に関する技術開発、農学・理学・医学分野等との融合による複合領域研究などを包括する学会に発展しています。年に1回開催される学術集会では、一般講演とともに学会内外からの講演者を招いたシンポジウムを行い、活発な議論が交わされています。また、学会誌Journal of Reproduction and Development は、Institute for Scientific Information (ISI) に2003年に登録され、国際誌に発展し、2023年には第69巻が刊行され、最先端のバイオサイエンス研究の一部を担う学術雑誌として先導的役割を果たしています。

<SRD男女共同参画推進委員会について>

2007年の男女共同参画学協会連絡会への加盟を起点として、本会に男女共同参画推進委員会が設置され、「会員の多様性を尊重し、老若男女問わず活躍できる学会」を目指して活動を行っています。学術集会では託児室もしくは託児室補助金が設けられ、男女共同参画推進の意義や女性研究者、子育て中の研究者等、様々なロールモデルを紹介するランチオンセミナーの開催(2010年大会～、2017および2020年は休止)、理事会へ「学会役員会(理事会、評議員会、各委員会)に

おける女性会員比率の一定以上確保に関する提案」(2011年)などを行ってきました。現在までに本学会では、学会員全体に占める女性比率(2007年度15.3% →2019年度31.2%)、正会員に占める女性比率(2007年度11.5% →2019年度18.7%)は、いずれも増加傾向にあります。これに比例して女性の役員比率も伸び、2019年には初めての女性理事長が誕生し、男女共同参画は着実に推進しています。一方で、学生会員に対して正会員における女性比率は低く、役員の重複率も男性会員より女性会員の方が高いという課題もあります。多様な人材を育成すべく、今後もさらなる活動が必要と考えます。

<2022年度の活動について>

2022年度115回大会が現地/オンラインのハイブリッド形式にて開催され、当委員会主催セミナー(後援:男女共同参画学協会連絡会)『共働き研究者夫婦の育児奮闘記』を開催しました。男性女性それぞれの立場での育児の取り組み、協力方法、悩みなど、参加者とともに議論しました。

<2023年度の活動について> 2023年度116回大会(2023年9月25-27日)は現地開催を予定しています。当委員会主催セミナー(後援:男女共同参画学協会連絡会)「インクルーシブな大学に向けて～麻布大学・神戸大学の取り組みを中心に～」を企画しています。

生態工学会の活動と報告(2023)

生態工学会(横谷香織・筑波大学・yokotani.kaori.fn@u.tsukuba.ac.jp, 加藤浩・三重大学・katohiro@gene.mie-u.ac.jp,
清水美穂・帝京大学・shimizu.miho.xr@teikyo-u.ac.jp, 跡見順子・帝京大学・atomiyoriko@gmail.com)

The Society of Eco-Engineering, 2023

The Society of Eco-Engineering (<http://www.see.gr.jp/>)

Abstract: Our society is “The Society of Eco-Engineering”. We are interesting in environmental research and engineering. In our society, we try to promote the gender equality in the committee of the activation of scientific social communication for the next generation. We established “Young researcher’s committee for Eco-Engineering, YRC-Eco” six years ago. We are continuing to have a chance to exchange the several opinions in individual way of life and discussed in a wide generation at the annual conference. We regard the human harmony with the natural environment. We will promote the percentage of women member in our society.

<生態工学会の紹介>

生態工学会は、工学的手法を駆使して、物質循環の仕組みを解明し、人類が共存できる生態系を維持していくためにはどのような行動指針を持たなければならないかの追求を目指す学協会である。将来の有人宇宙活動や月面・火星基地などにおける生命維持に使われるであろう小規模な閉鎖生態系も研究の対象としている。

<生態工学会の理念>

地球はその重力によって物質的に閉鎖された空間を形作っている。その環境は、数十億年という長い年月を経て、発生、進化、消滅を繰り返してきた生物たちによって作られ、数多くの生物種からなる生態系の働きで維持されてきている。昨今、人間のあまりにも急激な経済活動の発展に起因する資源の乱用と大量の廃棄物の放出によって、調和の取れた生態系の存続が危うくなってきたことから、生態工学会は、このかけがえのない地球で人類が継続して生存するために、人類の活動が自然生態系に調和することが不可欠であると考え、自然生態系に調和した持続可能な循環型社会はどうあるべきか日々追究している。

<生態工学会が目指す循環社会>

生態工学会が目指す循環型社会は、食糧や資源などの安全で有効な生産と活用そして再利用による自然環境に負荷を与えない物質循環がなされている社会で、温室効果ガスや環境ホルモンなどの有害ガスを排出・蓄積しない再生可能なエネルギーの生産と活用がなされている社会である。そしてこれを可能とする社会システムの機能による自然と調和した安全・安心な人間社会である。

<男女共同参画社会推進の取り組み, 2023>

”次世代科学社会活性化委員会”の中の“若手の会”は、2016年に発足し、まる8年目を迎えた。若手組織を安定して継続するシステムも構築した。今年は次世代科学社会活性化委員会

で、次世代科学社会応援シンポジウム「NAGOMI会の活動現状と新たな企画」をオンラインで開催した。今回、NAGOMI会の活動報告に加え、次世代協力隊の発足として全世代の博士や修士人材活用のために、何が必要で何をすべきか、また、男女共同参画に関する問題洗い出しとして、これからの高齢者の増加と若者の減少の時代を考慮した対策が必要であること等に焦点をあてる。若手からシニアまでの幅広い年代層で議論を行うことが必須である。

日本宇宙生物学会と協力して、「男女共同参画に関する勉強WG」を継続している。2018年から発足した「次世代応援シンポジウム」内から発展したNAGOMI会は、幅広い年代層の中で、いつでも誰とでも語り合い知り合う場となるよう、2021年度から発足した。日本宇宙生物学会と協力し、月1度の頻度で話題を提供し活動している。「NAGOMI」は、科学者の生涯を通じた話題を、世代を超えて語り合いの場として、「研究者の生活 - 世代を超え伝えたいこと・知りたいこと」をオーガナイズしてきている。生態工学会の男女共同参画社会に対する貢献と意識は、なお一層高まってきていると受け止めている。

<生態工学会のロゴマーク>

生態工学会のロゴマークは、人間を中心におき、エネルギー源である太陽と技術を象徴する歯車が描かれ、その周囲に生態系を構成する動物と植物が配置されている。人間社会の豊かさを常に考え追究している。調和を重んじて、次世代の男女共同参画社会確立にも強く促進したいと考え、実行しようと試みる学術団体である。



生態工学会のロゴマーク

錯体化学会 ダイバーシティ推進委員会 活動報告

ダイバーシティ推進委員会 牧浦理恵 (委員長, 大阪公立大学, rie.makiura@omu.ac.jp)
長谷川靖哉 (北海道大学), 堀頭子 (芝浦工業大学), 張中岳 (熊本大学),
大久保将史 (早稲田大学), 石井あゆみ (早稲田大学), 島崎優一 (茨城大学)

Activity report of Diversity committee, Japan Society of Coordination Chemistry (JSCC)

Diversity committee, Rie Makiura (Chair, Osaka Metropolitan Univ., rie.makiura@omu.ac.jp)
Yasuchika Hasegawa (Hokkaido Univ.), Akiko Hori (Shibaura Inst. Tech.), Zhongyue Zhang (Kumamoto Univ.),
Masashi Okubo (Waseda Univ.), Ayumi Ishii (Waseda Univ.), Yuichi Shimazaki (Ibaraki Univ.)

Abstract: JSCC established Gender-Equality committee in 2006 and changed to Diversity committee in 2020, to act widely related to diversity from a broader perspective. We hold a lunch-on seminar to share and learn recent diversity activities, and offer child-care services during the annual meeting of JSCC.

【錯体化学会におけるダイバーシティ推進委員会】

錯体化学会では、2006年に男女共同参画委員会が設置された。性別の違いに限らず、より広い視点でダイバーシティに関する活動を進めるべく、2020年にダイバーシティ推進委員会と改名した。2023年9月時点での会員数1020名のうち、女性会員数は121名 (12%)である。本学会におけるダイバーシティに対する現状や意識状況の調査や、今後どのような方向に向かうべきかという共通認識のあり方を検討することから始め、毎年セミナーを企画し、会員および学生会員への問題提起と啓蒙活動を行っている。近年は、外国人等のマイノリティにも幅を広げ、多様な人材が参加しやすい学会活動とはどのようなものかを議論している。

【2022年主催のセミナー】

錯体化学会第72回討論会の3日目の昼食時間 (2022年9月28日 (水) 11:50-13:00) に、ダイバーシティ推進委員会企画の恒例イベントとして、「企業が求める大学院生像 進学の前にある働き方と今できること」と題し、対面でのランチョンセミナーを開催した。学生を対象に、企業で働く方からこれからの学び方や将来に向けた研究及び技術職のイメージを膨らませてもらう話題を提供した。セミナーでは、学校基本統計に基づく大学院の進学

率の変化や、事前アンケートに記載された学生の進学に対する期待や不安を紹介した上で、(1) 企業での働き方、(2) 修士と博士の相違、(3) 学生の間に身につけてほしいこと、の3つのトピックに関して、下記4名の方にご登壇頂いてパネルディスカッションを行った。

尾崎悠介氏 (DIC株式会社)

並木康佑氏 (三菱ガス化学株式会社)

堀幹子氏 (キオクシア株式会社)

森圭太氏 (東京大学大学院理学研究科)

パネルディスカッションでは、自分の考えを伝える力が必要であること、博士課程で専門性を高めるのか、社会で実践的な仕事を行うのかは、いつでも違う道を選択できること、「課題発見力」が求められていること、などの意見が出され、企業とアカデミアに共通して必要なのは自立した思考や他者との協働であることが共有された。

【託児所の設置】

錯体化学会では、第65回討論会時 (2015年) に初めて託児所を設置し、以降継続して討論会会期中に、託児所を開設している。2018年度より、英語での案内も実施している。

【理事会への要望提出】

学会全体として取り組むべき内容、例えば女性理事を増やすための施策や、学会HPの英語ページの充実化、年齢制限が設けられている奨励賞への応募者に対してライフイベント等の休業期間を考慮する、討論会のハイブリッド開催など、ダイバーシティ推進に向けた要望書を本学会の理事会に提出し、迅速なアクションを促している。



日本進化学会の活動報告

日本進化学会(榊原恵子・立教大学・理学部)

Activity Report

Society of Evolutionary Studies, Japan (Keiko Sakakibara・Rikkyo University)

Abstract: Our society is highly motivated in promoting gender equality in science. In 2017, we conducted a questionnaire survey for members about childcare support during the annual meeting. As the result that 90 % of respondents answered that childcare support was necessary, we started the childcare supports during the annual meeting since 2018 with the financial support. In annual meeting in 2023, the childcare support service, including care for sick children and nursery room for all participants, was well-prepared. The symposium “We deliver our best research talks with little ones in the venue” was held in the annual meeting.

日本進化学会では、多くの会員が男女共同参画に対する意識を持っている。2017年に会員に向けて年大会中の託児支援サービス設置に関するアンケート調査を実施したところ、90%の回答者から設置した方がよいとの回答があった。その結果を受けて、2018年より年大会での男女共同参画予算枠を設置し、年大会開催中の託児支援のための予算確保を開始した。2019年の北海道大会において、就学児を含めた託児支援を実施し、のべ15名の利用があった。2020年、および2021年の年大会は、コロナ禍のため、オンライン開催となり、保育支援は実施されなかったが、子育て世代からオンライン開催となったことで参加しやすくなったとの意見もあり、今後の年大会の開催様式について考えさせられる出来事となった。2022年の沼津でのハイブリッド大会を経て、2023年に対面での沖縄大会での開催の運びとなった。沖縄大会の準備期間中に、早くから託児支援設置の要望があった。大会事務局の尽力により、託児室の開設のみならず、利用児の急な発熱などにも対応できるよう、病児保育についても対応の準備がされており、懇親会中にも託児室を開設しており、利用者に寄り添った支援が企画されていた。また、申し込みなしで利用可能なキッズスペース付き休憩室の設置や家族連れを含めた幅広い世代で参加しやすいような懇親会の企画と家族同伴が可能であるとあらかじめアナウンスするなど、託児支援を利用していない子ども連れの参加者にも配慮した大会運営であった。このような手厚い託児支援の継続のために、引き継ぎが今後の課題となる。

また、2023年年大会では、シンポジウム企画と

して「進化学者が子を抱えてガッツリ研究発表する。果たして無事終えることができるのか?!」という意欲的かつ試験的な試みもあり、おおむね好意的な感想が寄せられている。

2023年の沖縄大会の託児支援に関するアンケート調査結果は満足度の高いものであり、2023年の年大会が今後の幅広い世代、立場の学会員に開かれた年大会としての成功例となったのみならず、他の学会においてもぜひ取り入れていただきたい取り組みを多く含む年大会であった。

日本遺伝学会 2022年度男女共同参画活動報告

日本遺伝学会(男女共同参画推進担当幹事:名古屋大学・一柳健司、九州大学・大野みずき、東京都立大・高橋文、大阪大学・古郡麻子、東北大学・恩山郁、東京工業大学・藤泰子、メルボルン大学・福田溪)

Annual report on the activities for gender equality in the Genetics Society of Japan

The Genetics Society of Japan (Kenji Ichiiyanagi (Nagoya Univ), Mizuki Ohno (Nagoya Univ), Aya Takahashi (Tokyo Metro. Univ), Asako Furukoori (Osaka Univ), Kaoru Yoshiyama (Tohoku Univ), Taiko Toh (Tokyo Inst Tech), and Kei Fukuda (Melbourne Univ))
<http://gsj3.jp/index.html>

The Genetics Society of Japan was established in 1920, and has members from various fields of genetics. Whereas 17% of general members are women, 20% of the secretaries and 27% of the council members are women. The main aim of our society in gender equality activity is to support students and young researchers for the continuation of their research under the slogan of “Supporting the developing buds of talented scientists”. The society has made every effort for maintaining a policy of gender equality and conducted its actual practice in various activities. In the following, we report the activities conducted by the Committee for Promotion for Gender Equality of the society during last year.

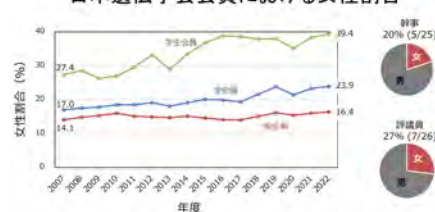
(1) 男女共同参画推進フォーラムの開催

日本遺伝学会第94回大会(札幌)の初日、2022年9月14日に「男も女も無意識のバイアスだらけ。あなたの何気ない認識、それでいいですか?」と題して男女共同参画フォーラムを主催した(現地42名、オンライン25名が参加)。男女共同参画委員長の一柳から会員全体における女性割合の推移や幹事や評議員の女性割合について報告がありました。

女性割合は伸びているものの、学会に参加する30代の研究者が男女を問わず、減少傾向にあり、その原因を調査して対応する必要があるとの問題が提起されました。また、大会に参加した一般会員の女性比率が29%なのに対し、ワークショップのオーガナイザーの女性比率が9%と低く、女性研究者が積極的に手を挙げて活動する必要性と、それを促す学会側の施策の必要性が指摘されました。

続いて、日本遺伝学会の大坪久子会員とともに無意識のバイアスについて取り組んでこられた京都大学・裏出令子特任教授をお招きし、「男女共同参画を妨げる見えない壁—無意識のバイアス—を知る」と題した基調講演を行って頂きました。

日本遺伝学会会員における女性割合



無意識のバイアスとは自分自身が気づいていない、ものの見方や捉え方の歪みや偏り」のことで、例えば、性別や人種など、特定の属性を持つ人たちの平均的な特徴をその属性の全ての人に当てはめて考えたり、逆に本人もそのようなステレオタイプを立証してしまうことを恐れて普段の力が発揮できないことがあるとのことでした。さらに、特定の属性の人を軽視してしまうマイクロアグレッションも問題になることが指摘されました。一つ一つは些細なことだったとしても、それが積み重なって人格が形成されていきますのでその解決が求められます。また、遺伝学会は例外的であり、大半の学会では、幹事や評議員の女性比率がいまだに10%にも満たない現状を紹介して頂きました。講演後、参加者から子育てをしながら研究者を続けることに対する不安、女子高校生の理系進学に対する外圧、学会ワークショップにおけるクォータ制の導入などの意見を頂きました。

(2) 女子中高生夏の学校への参加

2022年8月にオンラインで開催された夏学に4名(男1、女3)が参加しました。ポスターや動画を作り、当日は遺伝学が様々な生命現象を理解する鍵となるという説明とともに、大学での学部選択などについてアドバイスを行ないました。参加者の中にSSHで遺伝学の実験をしている高校生おり、実験結果の解釈などについて、アドバイスしました。

日本建築学会における男女共同参画活動報告

一般社団法人日本建築学会 男女共同参画推進委員会(委員長 小野島 一・(株)大林組)

Annual report on the activities for gender equality in the Architectural Institute of Japan: AIJ

Architectural Institute of Japan (Hajime ONOJIMA, OBAYASHI CORPORATION)

Abstract:

The number of women members in the Architectural Institute of Japan: AIJ accounts for 16.4% of 34,228 all members as of 2023. We set up a Committee of Promotion for Gender Equality in AIJ in 2007. Then announced the Principle and the Action Plan for Gender Equality in AIJ and the field of architecture in 2008.

In 2018, over 10 years after set up committee, we have formulated a new action plan for next 10 years. In addition, after we have held the "Women's Members Meeting" at each branch of AIJ, we declared to set up a "Nationwide Architectural Gender Equality Network Meeting" as a platform to consolidate and share the activity.

日本建築学会は、正会員 34,228 人(2023 年 3 月時点)、産学官一体の大規模学会です。うち女性会員比率は 16.4%で、2009 年の 12.2%に比べて 4.2 ポイント、上昇しています。若い年代ほど女性比率が高い傾向があり、学部学生を主とする準会員では、1,246 人のうち女性準会員比率は 37.2%と 1/3 を超えて、年々増加しています。建築分野では今後ますます女性が増え、活躍する場がひろがっていくと予想されます。

そうしたなか、男女共同参画推進委員会を設置し、本会理事あるいは委員会において女性が登用される体制づくりに努めるとともに、業界における男女共同参画にかかわる実態調査、情報発信、交流活動を行っています。学会運営においても、理事会を始めとして表彰、総務、各専門分野の学術推進に関わる各種委員会の委員における女性の人数には常に留意し、学会として様々な議論の場における多様性が確保されるよう働きかけを行っています。

<沿革>

- 2005年：「男女共同参画社会における建築学に関する特別研究委員会」を発足。
- 2007年：男女共同参画推進委員会を常置委員会として設置し、平行して男女共同参画学協会連絡会に正式加入
- 2008年：「男女共同参画推進行動計画」策定
- 2018年：「男女共同参画推進新行動計画」策定
- 2019年：「全国建築男女共同参画ネットワーク宣言2019」

<基本理念>

日本建築学会における男女共同参画の推進

により、建築の多様で広範な分野における両性の自由で平等な参画と、ワーク・ライフ・バランスを実現し、持続可能な多様で豊かな生活空間の創造と改善を目指す。

これまで、3回にわたるアンケート調査を実施し、建築分野における民間企業、大学、それぞれの男女共同参画の現状や課題を探ってきました。

さらに、2016年度より全国の九つの支部において「建築学会女性会員の会」を組織し、建築業界で働く女性の間での情報交換・交流や男性の育休取得の促進など、男女共同参画促進のための様々なイベントを行ってきました。2016年から現在に至るまで、開催されたイベントは45件、延べ参加人数は1500名を超えています。2022年度は、関東・東海・北陸・中国・九州の各支部においてオンラインで開催し、各地域の特色を活かしながらも、地域を越えた交流が進められています。

2023年度大会では2年ぶりに男女共同参画推進をテーマとして、オンラインパネルディスカッション「パリテ」で考える、これからのワークライフバランス”を開催しました。ここでは、学協会連絡会で実施されたアンケート報告のうち本会会員の最近の状況について分析した結果を公表しました。また、ハウスメーカー、ゼネコン、設計事務所での最新の取り組みを紹介いただき、参加者を交えた活発なディスカッションが行われました。参加者からも今回の内容を学会HPや学会誌において広く共有していくべきとの意見をいただいております。

今後の建築界を担う若手社会人や学生らが男女を問わず、自らの能力を活かして存分に働くことの出来る環境の醸成を目指し、本会は引き続き様々な取り組みを行って行く予定です。

種生物学会 男女共同参画活動報告

種生物学会男女共同参画担当（新田 梢・麻布大学・kozue.nitta@gmail.com）

Recent activities for gender equality in the Society for the Study of Species Biology (SSSB)

Society for the Study of Species Biology (SSSB) (Kozue Nitta・Azabu University・kozue.nitta@gmail.com)

Abstract: The Society for the Study of Species Biology (SSSB), founded in 1980 to promote studies related to species biology of plants. Number of society member in 2023 is 321 of which 22.4% are females. The society contributed the Large-Scale Survey of Actual Conditions of Gender Equality in Scientific and Technological Professions conducted by the Japan Inter-Society Liaison Association Committee in 2007 and joined the Liaison Association in January 2008. At the annual symposium of the society, a nursery was provided for three days in or near the symposium venue since 2013. The total numbers of children joined the nursery were 6 (2013), 9 (2014), 9 (2015), 4 (2016), 10 (2017), 11 (2018) and 6 (2019).

<種生物学会について>

<http://www.speciesbiology.org/>

種生物学会は、植物実験分類学シンポジウム準備会として発足した。1968年に「生物科学第1回春の学校」を開催し、1980年に種生物学会に移行した。進化生物学、植物分類学、生態学、育種学、林学、農学、保全生物学など様々な分野の研究者が交流・議論する場となっている。1986年に学術雑誌Plant Species Biologyを創刊し、1999年～2018年まではBlackwell社/Wiley-Blackwell社により、2019年からは日本生態学会が発行する英文学術誌のひとつとしてWiley社により発行されている。今日的なトピックスを選び、毎年開催してきた「種生物学シンポジウム」は、2023年12月で55回を数える。第29回からシンポジウムの内容は、和文学会誌として出版されおり、「花生態学の最前線」(2000年)以後、「植物の超階層生物学」(2023年)まで、単行本(種生物学研究シリーズ)として文一総合出版から発行されており、大学院生を中心に若手研究者の手引き書としても活用されている。2023年8月における個人会員総数は321人(うち女性72人、比率22.4%)である。内訳は一般会員265人(うち女性69人、比率26.0%)、学生会員56人(うち女性23人、比率41.0%)である。2008年1月から同連絡

会に正式加盟した。2021年の第5回大規模アンケートでは、学会員数に対する回答者比率が31.9%となり、参加学協会の中でトップだった。

<男女共同参画の状況>

特にポジティブアクションは実施していないが、2007年から2022年までの学会賞(若手奨励賞)の受賞者27名のうち10名が、論文賞受賞者26名のうち16名が女性であった。2022年の種生物学シンポジウムの企画者・招待講演者(7名)とコメントータ(3名)のうち、招待講演者1名とコメントータ1名が女性であった。

また、学会運営には、4名の女性会員が役員として参画しており、学会員の選挙により選出される幹事14名のうち6名が女性である。

<シンポジウムにおける託児サービスの提供>

毎年12月に種生物学シンポジウムを開催しており、2010年から託児室を設置した。2013年以降は、合宿形式となり、会場近くの保育所か会場内に託児室を設置している。2013年は2日間で延べ6名、2014年と2015年は3日間で延べ9名、2016年は3日間で延べ4名、2017年は3日間で延べ10名、2018年は3日間で延べ11名、2019年は3日間で延べ6名の利用があった。2020年度と2021年度はオンライン開催、2022年度はハイブリッド形式で開催し、託児室は開設されなかった。

日本畜産学会 男女共同参画活動報告

日本畜産学会 若手奨励・男女共同参画推進委員会
(学会事務局 TEL.: 03-3828-8409 E-mail: info@jsas-org.jp)

Japanese Society of Animal Science - Activity Report of gender equality

Japanese Society of Animal Science (URL: www.jsas-org.jp)

Japanese Society of Animal Science (JSAS) was established in 1924 for all the people who are involved in the animal industry in a variety of ways, directly or indirectly. The objective of JSAS is to contribute to advance and growth of animal science and the animal industry of Japan. In addition, JSAS is releasing updates on animal science to the world, building up closer links with organizations concerned in Japan and abroad. As of Jul 2023, the society has 1,598 members and supporting groups in all. The members are attached to a wide range of fields such as industries, governmental agencies and organizations of higher education. JSAS has been promoting gender equality by holding symposiums/seminars, providing childcare services at the annual meeting, etc.

<日本畜産学会について>

日本畜産学会は、畜産及び社会と動物のかかわりに関する学術研究の発表、情報交換の場としてその進歩普及を図り、わが国における畜産学および畜産業の進歩・発展に資することを目的として1924年に設立された。現在は公益社団法人日本畜産学会として、国内だけでなく海外の関連組織との交流・連携を深めて広く世界へ最新の学術情報を発信するよう努めている。研究発表会(年1回)および学術講演会を開催し、機関誌(英文誌 Animal Science Journal; 和文誌 日本畜産学会報)を発行している。

2023年7月現在の総会員数は1,598名(うち正会員1,240名、学生会員147名)で、正会員に占める女性会員の割合は18.4%、学生会員に占める女子学生の割合は51.0%である。全体的に会員数は減少しているが、正会員・学生会員共に女性比率は微増である。

<畜産学会における男女共同参画の歩み>

日本畜産学会では、2009年に「若手・女性のための委員会」を設立し、2011年からは委員会の名称を「若手奨励・男女共同参画推進委員会」に変更して、学会大会開催時の保育室常設、シンポジウムの開催、男女共同参画学協会連絡会への正式加盟などを行ってきた。学生会員の女性比率が高いことから、2013年度からは、若手会員有志による活動組織(若手企画委員会)をこの委員会の内部組織として位置づけ、男女共同参画に関わる活動を学生・若手研究者のキャリア形成

支援活動と連携して行っている。また2021年よりコロナ禍対策として、リモート学会大会開催中の託児費用補助を実施している。

<2022-2023年度活動状況>

(1) シンポジウム・セミナー開催

第130回日本畜産学会大会(2022年9月14-17日: オンライン大会)の開催期間中に以下を開催した。
☆シンポジウム「外国人留学生のニッポン体験記」(ライブ配信: 視聴者数91, 希望者にマッサマンカレーを事前配布)

☆若手企画委員会主催シンポジウム「少女マンガが教えてくれる科研費の書き方」(ライブ配信: 視聴者数146名)およびサイエンスナイトシンポジウム「こんな時だからこそ、つながろう!」(ライブ配信: 視聴者数35名)。

(2) ホームページ等での情報発信

学会 HP 内男女共同参画および若手企画のページより、大会企画の案内・報告、イベントへの参加報告、読み物等の情報を発信している。

(3) その他

学会役員・委員への女性の登用について、現在、理事会および機関誌編集委員会等に参画する女性会員は8.1%である。近年、女性会員が功労賞(2013年度)および学会賞(2014, 2017年度)を受賞し、また、学会大会会長(2015年度)となった他、2021年度、初めて女性会員が名誉会員に推戴された。

日本技術士会の活動紹介

公益社団法人日本技術士会(飯島玲子・男女共同参画推進委員会委員長・reiko.iijima@tk.pacific.co.jp)

Introduction to the activities of The Institution of Professional Engineers, Japan

The Institution of Professional Engineers, Japan (IPEJ)

(Reiko Iijima・Chairperson of Gender Equality Committee・reiko.iijima@tk.pacific.co.jp)

Gender Equality Committee of the Institution of Professional Engineers was established with the following objectives. (1) Developing active public relations activities to increase the number of female professional engineers. (2) Clarify the superiority of the professional engineer qualification in the career path of female engineers, improve the visibility of the professional engineer qualification and cooperate in promoting gender equality in companies. (3) Develop support activities for the formation of a prosperous society through science and technology and for the promotion of the formation of a gender-equal society. D&I activities are also carried out.

1. 委員会の目的

委員会は以下の目的で2011年5月に設置された。

- (1) 女性技術士の増加を図るための積極的な広報活動の展開
 - (2) 女性技術者のキャリアパスにおける技術士資格の優位性を明確化し、技術士の知名度向上を図ると共に企業における男女共同参画推進に協力
 - (3) 科学技術による豊かな社会の形成、および男女共同参画社会形成推進に向けた支援活動の展開
- 2023年9月現在、委員18名(男性7名、女性11名)、委員補佐14名(男性4名、女性10名)で構成、女子学生・女性技術者支援、Diversity & Inclusion、広報を軸とした種々の活動を展開している。

2. 2022年度の主な活動

◆女子学生・女性技術者支援

JABEE課程並びに技術者を目指す理工系女子学生、女性技術者との懇話会である「技術サロン」を、6月、9月、12月、3月の4回開催した(3月は久しぶりのリアル開催)。



◆Webキャリアモデル発信

当委員会Webサイトにて、技術士のロールモデルとしてキャリア形成の事例(男性・女性)を紹介している。また、イクボスや男性技術士のイクメン・イクボスモデルも掲載し、男性女性問わず多様なキャリア形成、ワーク・ライフ・バランスを発信している。

◆第5回D&Iフォーラム

「D&IからDE&Iへ～Equity(公平性)の意義を考える～」をテーマに開催。中条薫氏((株)SoW Insight)のご講演後、グループ討議では講演を受けて現状や課題を共有し、参加者が次のアクションを起こすための気づきやこれからやっていきたいことなどを話し合った。約80名の参加を得て密度の濃いフォーラムとなった。

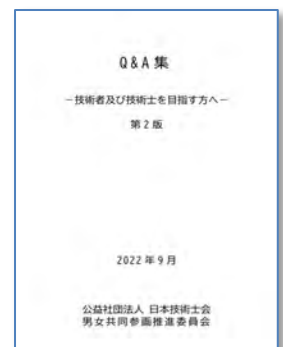


◆冊子「Q&A 集」の発行

「Q&A集ー技術者及び技術士を目指す方へー第2版」を2022年9月に発行した。当委員会ウェブサイトでも公開している。

過去の技術サロンで参加者から寄せられた質問に対し、当委員会からの回答をまとめたもので、技術者を目指す女性のみならず、男性の同僚や上司、トップの方にも参考となる冊子となっている。

関連団体のイベント等で配布いただくなど連携したく、ご希望があればお知らせいただきたい。



3. 男女共同参画推進委員会Webサイト

http://www.engineer.or.jp/c_cmt/danjyo/

学協会日本植物学会におけるダイバーシティ推進の取り組み

(公社)日本植物学会 (ダイバーシティ推進委員会委員長 成川礼・東京都立大学・大学院理学研究科)

The Approaches to the Diversity in the Botanical Society of Japan

The Botanical Society of Japan (Rei Narikawa, Tokyo Metropol. Univ.)

Abstract: The Botanical Society of Japan was established in 1882 to promote researches in wide range of plant biology. The Society publishes a *Journal of Plant Research* for international distribution, as well as organizes an annual meeting with oral and poster presentations, symposia and public lectures. In our society, women represent about 30% of 1800 members. For promoting gender equality, we set up the committee on gender equality on 2011. To promote the diversities in not only gender but also career and lifestyle, the committee was renamed to “diversity promotion committee” in 2020. Through the planning of special lectures in the annual meeting, we will promote the awareness of diversity in the society. (<https://bsj.or.jp/jpn/members/kyodosankaku.php>)

1. 日本植物学会について

日本植物学会は 1882 年に発足、2012 年に公益社団法人となった。学会誌「植物学雑誌(現在は Journal of Plant Research)」は明治 20 年発刊以来 130 年以上続く伝統ある学術誌である。2023 年 9 月現在で、総会員数 1800 名強のうち、女性会員が 30% 程度の高割合を占めている。2005 年より男女共同参画学協会連絡会にオブザーバー加盟、2012 年に正式に加盟した。学会内では 2010 年に男女共同参画 WG を設置すると共に第 1 回の男女共同参画ランチョンセミナーを開催、翌 2011 年には男女共同参画委員会が正式に発足した。更に性別のみならずキャリアパスやライフスタイルの多様性を推進するため、2020 年に委員会名をダイバーシティ推進委員会に改称した。毎年 9 月の日本植物学会大会においてセミナーを開催し、継続的なダイバーシティ推進活動を進めている。

2. 活動報告

2022 年 9 月 18 日、日本植物学会第 86 回大会(京都大会)の 2 日目において、ダイバーシティ推進セミナー「SNS の光と影～植物科学研究における活用を考える～」を Zoom ウェビナーによるオンラインで開催した。まず寺島一郎・東京大学教授・日本植物学会会長は冒頭の挨拶において、SNS で自らの研究について言及されていた経験に触れつつ、SNS の可能性に期待をもっているとのメッセージを述べた。続いて成川礼・東京都立大学准教授・ダイバーシティ推進委員会委員長が本テーマを取り上げた経緯を簡単に紹介した。その後、池田陽子氏(岡山大学・准

教授)、土松隆志氏(東京大学・准教授)の司会のもと、講演とパネルディスカッションが進行した。講演では、東京大学の横山広美・東京大学教授から「研究者と SNS」をご発表いただいた。研究者としてどう SNS を活用していくかについて、ご自身の体験も踏まえつつ、出版されている文献も紹介しつつ、多様な側面から話題を提供いただいた。特に、学会などの単位で推薦された研究者集団による「グループボイス」として発信するという提案は、学会として非常に参考になった。

パネルディスカッションでは横山広美氏、成川礼氏、稲田のりこ氏(大阪公立大学・教授)、小林康一氏(大阪公立大学・准教授)、宮本通氏(東京大学・大学院生)にパネリストとして登壇いただいた。学生から教員まで幅広い方に登壇いただき、SNS として Twitter を主に使用している方が多い中、YouTube をチームで利用されている方(宮本氏)にも登壇いただいた。また、稲田氏は日本植物学会の公式 Twitter の「中の人」であるため、主にその立場からの見解をいただいた。現在において、研究者が全く SNS を活用せずにいるのは難しいといえる。そのような状況で、どのように SNS と向き合うかがますます重要となる。パネルディスカッションの中で、SNS のメリット・デメリット、「受信側」と「発信側」のどちらの立ち位置でいるか、研究内容について発信する際の注意点なども議論になった。セミナー後アンケートの自由記載欄には多くの意見を頂戴し、反響の大きさを感じた。今回のセミナーが会員の皆さまが今後 SNS と向き合っていく上で参考になれば幸いである。

公益社団法人 日本農芸化学会の男女共同参画活動報告

日本農芸化学会(ダイバーシティ推進委員会・〒113-0032 東京都文京区弥生2丁目4番16号 学会センタービル2F)

Activity Report of Japan Society for Bioscience, Biotechnology, and Agrochemistry

Japan Society for Bioscience, Biotechnology, and Agrochemistry

(Committee on Promotion of Diversity and Equality)

Gakkai Center Building, 2-4-16 Yayoi, Bunkyo-ku, Tokyo 113-0032, Japan)

Agricultural Chemistry (農芸化学) covers a wide range of bioscience, biotechnology, and agrochemistry, being based on the study of living things in general and agricultural organisms in particular. The Japan Society for Bioscience, Biotechnology, and Agrochemistry (JSBBA) was founded in 1924 as an academic organization called the Agricultural Chemical Society of Japan, with the objective of contributing to scientific, technological and industrial developments. Approximately 8,850 members belong to JSBBA and about 25% of them are women. For promoting gender equality, Committee on Gender Equality was founded in 2015 and renamed Committee on Promotion of Diversity and Equality in 2019.

1: 沿革

農芸化学は、あらゆる生物と生産物を研究対象とし、生命・食・環境といったキーワードで代表されるバイオサイエンスとバイオテクノロジーを中心とする多彩な領域の総合科学分野です。本学会は農芸化学分野の基礎および応用研究の進歩・普及、及び同分野の教育の推進を図り、それを通じて科学、技術、文化の発展に寄与することにより人類の福祉の向上に資することを目的として、1924年に設立され、2012年に公益社団法人へ移行しました。会員数は2023年2月28日現在で8,851名(女性2,203名:25%)であり、このうち一般会員は6,751名(女性1,346名:20%)、学生会員は2,100名(女性857名:41%)です。

男女共同参画学協会連絡会には2012年に加入し、男女共同参画に関する担当者会議を学術活動強化委員会の中に設けました。2015年度には学術活動強化委員会から独立して男女共同参画委員会を設置するとともに、担当理事1名(2016年度からは2名)を配置することで体制を強化し、2019年度にダイバーシティ推進委員会と改称しました。現在の委員は15名で、このうち7名が女性です。

2: 男女共同参画活動について

2014年度から年次大会で男女共同参画ランチョンシンポジウムを開催してきました。2023年度は年次大会とは独立して、オンライン形式による講演会も開催する予定です。また支部例会においても、女性研究者賞受賞者による講演やダイバーシティ推進に関する講演セッションを設けました。

年次大会での女性発表者の割合は、一般講演では上昇傾向にあり、最近では30%台後半で推移しています(右表)。一方、シンポジウムでは女性比率が低いことが課題でしたが、2022年度大会に比べ2023年度はオーガナイザー比率が18%から20%、講演者

比率は昨年度とほぼ同率の16%を維持しております。2003年度大会から託児ルームを設置し、2015年度から無料化しました。2015～2019年度大会では、各年度平均30名の参加者が利用しました。

女性の理系進路選択支援のため、2016年度からはJST後援事業「女子中高生夏の学校」に参加し、生化学・微生物学実験やキャリア相談を行っています。2006年度からは「ジュニア農芸化学会」を年次大会中に開催し、高校生に研究発表の場を提供しています。また農芸化学関連分野で活躍する女性研究者を紹介するロールモデル集を2017年に刊行し、様々な機会に配布しています。

こうした取り組みは、学会HPで公開しています(https://www.jsbba.or.jp/science_edu/gender/)。

年次大会での一般講演発表者数と女性比率

	発 表 数		
	男性	女性	女性比率(%)
2019 年	1,135	541	32.3
2020 年	1,033	565	35.4
2021 年	823	476	36.6
2022 年	858	488	36.3
2023 年	749	444	37.2

3: 女性研究者の表彰・助成

優れた女性研究者を表彰しその研究を奨励するため、「農芸化学女性研究者賞」、「農芸化学若手女性研究者賞」、「農芸化学女性企業研究者賞」の3賞を2016年度に創設しました。2023年度は、それぞれ1名、2名、1名、計4名の女性研究者を表彰しました。

2021年から農芸化学女性研究者チャレンジ研究助成、農芸化学若手女性研究者チャレンジ研究助成を開始しており、現在第3回を募集中です。

一般社団法人日本解剖学会 活動報告

一般社団法人日本解剖学会 理事長 寺田純雄(東京医科歯科大学・教授)

事務局 170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9 駒込TSビル4F 一般財団法人口腔保健協会内

Tel : 03-3947-8891 FAX : 03-3947-8341 e-mail: gakkai24@kokuhoken.or.jp

Activity report in The Japanese Association of Anatomists (JAA)

The Japanese Association of Anatomists (JAA)

Abstract:

We made the first great step by setting up the committee on promotion of gender equality in the JAA in March, 2011. In 2012, the JAA officially became a member of Japan Inter-Society Liaison Association Committee for Promoting Equal Participation of Men and Women in Science and Engineering (EPMEWSE). We held the 10th Luncheon Seminar to promote gender equality in the JAA at the 128th annual meeting (Held in Sendai on March 20, 2023, by Ms. R.Kino (Hokkaido Univ.)). The name of the committee was changed to the Diversity Promotion Committee in June 2021 in order to promote various activities that take into account the diversity of members.

1. 解剖学会における男女共同参画の現状

最新の実態調査では日本解剖学会全会員のうち女性は20.28%を占めている。年代毎における女性の割合は20代:43.54%(女性54/男性70名)をピークに、30代:30.17%(105/243名)、40代:21.77%(113/406名)、50代:17.50%(87/410名)、60代:12.41%(41/285名)と若年層ほど女性の割合が高まっているが、会員数は年々減少傾向である。なお、学生会員106名における男女の内訳は62名:44名と拮抗しており、ここ数年はそのような状況である。

理事会の中では、2015年3月の解剖学会総会で女性の理事が2人誕生し、2023-24年度の理事19名中、女性は4名選任された。各委員会においては、15の全ての委員会(若手研究者の会含む)のうち女性委員が含まれ、2つの委員会で女性が委員長を務めている。2011年に男女共同参画推進委員会を発足したが、会員の多様性に配慮した様々な活動を推進するべく、2021年6月には委員会名称をダイバーシティ推進委員会へ改称した。引き続き、解剖学と学会の発展を支えていくことを目指している。

2. 第128回全国学術集会でのダイバーシティ推進委員会企画開催について

2023年3月の第128回日本解剖学会全国学術集会は4年ぶりに現地開催で実施した。

第10回男女共同参画推進企画として城野理佳子(北海道大学)先生によるランチョンセミナー「研究者のキャリア形成に潜む『透明な足かせ』」を実施した。また、子育てをしている研究者の方から、他の研究者の方々との情報交換や交流の場が欲しいとの意見を受け、若手研究者の会と共同で「ティータイム研究者交流会(男女年齢不問、子連れOK交流会)」を

現地開催の形で初めて開催した。

3. 次年度全国学術集会でのダイバーシティ推進委員会企画開催について

次年度の第129回全国学術集会は第11回男女共同参画推進企画として企画シンポジウム「解剖学におけるダイバーシティの取り組み」を実施する予定である。また、若手研究者の会との共同開催「ティータイム研究者交流会」も準備を進めている。

4. 変革に向けての今後の取り組み

今期の委員会も若手や男性会員を迎え、会員の多様性に配慮して組織した。全国学術集会時シンポジウムの開催費用については、学会本部より財政的・人的支援を得て、学会全体の取り組みとして継続していく。若手研究者の会との連携も同様である。

今後も委員会活動を通じて、会員の意識を高め、学会運営の改革とともに大学や研究室などの現場での実践に結び付けて行くことが重要である。

日本熱帯医学会におけるダイバーシティ&インクルージョン推進

一般社団法人 日本熱帯医学会（齊藤（小畑）麻理子・東北大学大学院医学系研究科）

Initiatives to Promote Diversity and Inclusion in the Japanese Society of Tropical Medicine

The Japanese Society of Tropical Medicine
(Mariko Saito-Obata, Tohoku University Graduate School of Medicine)

The Japanese Society of Tropical Medicine established the Gender Equality Committee in 2013. Since then, we have worked on promoting gender equality. Considering the increase of foreign members and overseas members, we have renamed the "Gender Equality Promoting Committee" to the "Diversity and Inclusion Promoting Committee". We will work on contributing to achieving a "society where everyone can shine".

<日本熱帯医学会について>

一般社団法人 日本熱帯医学会の主な目的は、熱帯医学分野の学術的研究の推進、および熱帯医学研究の進展を国内外に広く知らせることである。本学会の特徴として、学会員の多くが世界の熱帯・亜熱帯地域に研究フィールドを持っている点が挙げられる。

2023年度の本学会会員数は706名、うち女性は190名（26.9%）である。また本学会には医学部生を中心とした学生部会があり、独自に活動を行っている。2023年度の学生部会会員数は83名で、そのうち女子学生数は41名（49.3%）である。

<男女共同参画推進の歩み>

本学会における男女共同参画への具体的な取り組みは、2012年の男女共同参画担当理事の設置に始まる。その後、2013年に日本熱帯医学会男女共同参画推進委員会が正式に発足した。2018年度には熱帯医学の分野で国際的な業績を上げている女性を表彰する「日本熱帯医学会女性賞」を設立した。さらに2022年度以降は全理事16名のうち女性枠3名を設け、学会運営に女性会員の意見がより反映されやすい体制を整備している。

また、本学会は海外に研究フィールドを持つ研究者が多く、在外会員や外国人研究者が一定数在籍している。彼らが参加しやすい仕組み（Inclusion）をさらに整備し、学会員にもその意識を高めていく必要があること、性別のみならず組織の多様性を高めるためには国籍や障害の差異

といった観点をさらに積極的にとり入れる必要があること等を鑑み、この度委員会名を「ダイバーシティ&インクルージョン推進委員会」と改称した。本委員会の構成員は男女比を同程度とし外国籍会員もおくこととしている。

<シンポジウム開催>

本学会の男女共同参画／ダイバーシティ&インクルージョン推進委員会の主な活動に学術集会での男女共同参画シンポジウムの開催がある。2014年に第1回目となるシンポジウムを開催して以来、学術集会の開催に合わせて毎年シンポジウムを行っている。2022年の第9回熱帯医学男女共同参画シンポジウムは本学会の学生部会との共催とし、海外赴任と家族、特に子育てに焦点を当て、若い世代が海外で働くことを応援する内容とした。

2023年の第10回目となるシンポジウムは、日本国際保健医療学会、国際臨床医学会、日本渡航医学会と合同で開催するグローバルヘルス合同大会内で行う。本シンポジウムでは日本にいる外国人研究者が活躍しやすい環境改善をテーマとし、外国人留学生・研究者に当事者の目線で感じたことをお話しいただき、誰もが輝ける社会の構築を目指すことを目的としている。

<まとめ>

本学会では今後もDiversity, Equity, Inclusionを踏まえた活動を推進していきたい。

日本応用数学会の男女共同参画への取り組み

日本応用数学会(森山園子・日本大学・moriyama.sonoko@nihon-u.ac.jp)

Activity Report on Gender Equality in the Japan Society for Industrial and Applied Mathematics

*The Japan Society for Industrial and Applied Mathematics
(Sonoko Moriyama · Nihon University · moriyama.sonoko@nihon-u.ac.jp)*

Abstract: The Japan Society for Industrial and Applied Mathematics (JSIAM) is the central organization for industrial and applied mathematicians in Japan. The JSIAM's objective is to foster the mathematical sciences and engineering mathematics which contribute to the innovation of science and technology. It is a cross-disciplinary society consisting of people researching mathematical phenomena (in mathematics as well as in other sciences), those who apply mathematics (engineering, technology), and those who develop methods of analysis (computer science, experimental science). This is an annual report on JSIAM activities related to promotion of gender equality.

日本応用数学会について

一般社団法人 日本応用数学会は、最近の研究、産業、教育における数理的イノベーションに因るために、1990年4月に発足し、その後2012年7月に一般社団法人に移行した学会です。2017年度には初めての女性会長が誕生する等、男女共同参画にも積極的に取り組んでいます。本学会会員の専門分野は理論から応用まで極めて多岐にわたっており、学際的に異分野の第一線の研究者や技術者が集まり、応用数理を研究、産業、教育に結び付けるための研究開発と普及、会員相互の連携・親睦、国際的な交流を積極的に行っています。国際機関 ICIAM (International Council for Industrial and Applied Mathematics) が4年に一度開催する国際研究集会が2023年8月20日-25日、早稲田大学で行われました。

男女共同参画への取り組み

2014年に男女共同参画学協会連絡会に正式加盟し、2015年から年会で属性調査などを目的にアンケート調査を行っています。また、2016年秋からは、年会および研究連合発表会において、若手・女性研究者を中心としたランチミーティングを行い、情報交換を行ってきました。メーリングリストの整備に伴い少しずつ参加者も増え、若手や女性研究者間のネットワークができつつあります。2017年秋には、ICIAMとの連携において、11月に台湾で開かれる Gender gap project にも参加する等、国内外で男女共同参画に積極的に取り組

んでいます。

男女共同参画への取り組みの一環として、女子中高生理系選択支援ワーキンググループによる「女子中高生夏の学校2023」にも参加しました。8月5、6、7日の3日間にわたり国立女性教育会館(NWEC)で開催されました。コロナ禍を経てNWECでの対面開催は4年ぶりとなり、98名の女子中高生が全国から参加し、各分野の学生TAと一緒に2泊3日の合宿研修を行いました。何年にもわたり同学校の実行委員(2020年度は実行委員長)をつとめてきた今井桂子元理事(代表会員)が2023年度も実行委員として準備を進め、今井桂子元理事の他、齊藤宣一理事、井手貴範理事、中口悦史元理事(代表会員)、森山園子元理事(代表会員)が参加しました。本学会は「菱形多面体を作ろう!」と題してポスター展示を行い、超立方体の紹介とともに、紙工作を通じて菱形多面体作成を行いました。また、進学・キャリア相談カフェでは情報系ブースを担当し、生徒の質問に幅広く対応しました。

今後の取り組み

コロナ禍により2020年度以降中断している、年会等でのランチミーティング開催、アンケート実施などを順次再開し継続して参ります。また、男女共同参画学協会連絡会に加盟して10年目である第22期(2023年10月~)に、今井桂子元理事を委員長として同連絡会幹事学会を務めます。今後も男女共同参画に積極的に取り組んで参ります。

男女共同参画推進委員会 (Japan Endocrine Society Women Endocrinologists Association; JES We Can) の活動報告-2023-

日本内分泌学会 (委員長 浅原 哲子・京都医療センター・nsatoh@kuhp.kyoto-u.ac.jp)

Report of the Japan Endocrine Society Women Endocrinologists Association (JES We Can) from the Japan Endocrine Society (JES)

Japan Endocrine Society (Noriko-Satoh Asahara, MD, PhD, Kyoto Medical Center, nsatoh@kuhp.kyoto-u.ac.jp)

Abstract: In 2009, Japan Endocrine Society (JES) organized a committee to promote women's careers, with the nickname "JES We Can (Japan Endocrine Society Women Endocrinologists Association)." In various scientific meetings, JES We Can sessions were conducted by JES We Can members based on women's demands and showing the role models for women's career. The exchange activity with WE (Women in Endocrinology) of Endocrine Society (ENDO) has been conducted. ENDO is a global community of physicians and scientists dedicated to accelerating scientific breakthroughs and improving patient health and well-being. JES We Can invited an outstanding-speakers from WE and developed friendship between two associations. Now JES has a percentage of women membership in 20s and 30s of around 50%. The acquisition rate as board-certified endocrinologists of women aged <50 years is as same as that of men.

本学会は、内分泌代謝学に関する学理及び応用の研究についての発表及び連絡、知識の交換、情報の提供等を行うことにより、内分泌代謝学に関する研究の進歩普及を図り、もって我が国における学術の発展と人類の福祉に寄与することを目的としており、2026年に100周年を迎えます。広い領域から多様な研究者や臨床医が会員となっています。2009年に「女性医師専門医育成・再教育委員会」が発足し、「男女共同参画推進委員会」と改名し、学会内では当時のオバマ大統領選のキャッチフレーズに因み JES We Can (Japan Endocrine Society Women Endocrinologists Association) というニックネームが定着しました。本稿では本委員会における二つの特徴的活動を紹介します。

【1】JES We Can 企画: 全国および各支部の研究集会で JES We Can 企画を展開しています。女性会員のニーズを反映した多様な企画は、参加者満足度を増し、参加者数増加に寄与しています。女性会員に企画発案、準備、運営に携わる経験を積んでもらい、学会活動を積極的に担う会員育成にも寄与しています。講演者やシンポジストに多様な人材を登用することで、様々なロールモデルを示すこともできました。この JES We Can 企画は各方面から高く評価され、毎年の全国集会における定番プログラムになっています。

【2】WE (Women in Endocrinology) との交流: WE は 1975 年に米国内分泌学会 (ENDO) の女性会員支援を目的として発足した組織で、2015 年に 40 周年を迎えました。1975 年当時 10% 未満であった ENDO の女性会員割合を 2015 年には 50% とした実績に加え、各種研究助成や褒賞、交流会などの活動は大いに参考になるため、交流を深めてきました。2017 年次学術総会 (京都) では当時の WE 会長 Dr. Dana Gaddy を招聘し、特別講演と夕食会で交流を深めました。2019 年次学術総会 (仙台) では、当時 ENDO 会長だった Dr. Susan Mandel らの外国人招聘講演者を囲み交流パーティを開催しました。2018 年には前委員長が ENDO の Governance Task Force の一員として 1 年間参加し、アジアの女性会員を代表する責任を果たしました。

本学会の女性会員比率は 2012 年から 2022 年の 10 年間で約 27% → 34% と増加し、特に 20-30 代では約半数が女性です。また、専門医取得率も男女同等程度となりました (Endocr J 66: 359-368, 2019. doi:10.1507/endocrj.EJ18-0501)。女性役員数も内科系 14 学会の中で最も高い水準です。関連ある日本小児内分泌学会からも男女格差が解消されていることが報告されています (Clin Pediatric Endocrinology 30: 121-126, 2021. doi:10.1297/cpe.30.121)。

日本海洋学会における男女共同参画関連の活動報告

日本海洋学会 男女共同参画担当 野口真希(海洋研究開発機構)・岡英太郎(東京大学)

Activity Report for Gender Equality in the Oceanographic Society of Japan

The Oceanographic Society of Japan (Maki Noguchi Aita, JAMSTEC; Eitaro Oka, Univ. Tokyo)

The Oceanographic Society of Japan was established in 1941 to advance and promote oceanography in Japan. The ratio of women regular members has averaged 11% over the last seven years, while the number of students increased from 26.5 % in 2017 to 38.6 % in 2023. Another major accomplishment was the election of the Society's first woman vice president in the 2023-2024 board election, and the number of women officers increased from the previous three to seven out of 18.

日本海洋学会は、海洋学の進歩普及を図ることを目的として1941年に設立されました。本学会はその目的を達するため、年2回の研究発表大会(5月のJpGUの中で行われる春季大会と、本学会単独による秋季大会)を開催、英文・和文の学術誌の発行、研究業績の表彰や研究の奨励、若手研究助成などを行なっています。日本海洋学会の会員総数は1,386名、男女の比率は男性会員80.4%、女性会員13.1%、回答なし6.5%(2023年3月時点、図1)です。日本海洋学会の男女共同参画の現状をみてみると、直近7年間の一般会員の女性比率は11%を推移しておりますが、学生会員では2017年の26.5%から2023年には38.6%まで増えており、これは、世界の女性研究者の割合33%(UNESCO Science Report 2021)を越えた数値です。

日本海洋学会では、これまでに様々な男女共同参画に関する啓発活動を行ってきました。中でも、2023-2024年度の役員の選挙において、学会

初の女性副会長の就任と、役員18名中、女性役員が前回の3名から7名に増えたことは大きな成果です。学会執行部が率先して実行することにより、海洋学分野における男女共同参画社会の実現が促進され、結果として、女性に限らず、次世代を担う若手研究者の育成にまで波及できると期待しております。また、当学会では、学生会員やEarly career会員(メンティー)が、助言・相談役となる先輩女性会員(メンター)と気軽に対話できる場として「Inclusion海かふえ」を2022年6月から開催してきました。これまでの「海かふえ」では、対象をメンティー・メンターともに女性会員のみとしておりましたが、2023年9月の秋季大会中に開催する「海かふえ」では、対象を男性にも広げ、対面形式で個別相談会を行う予定です。

日本海洋学会では、今後もさまざまな取り組みを積極的に進めることで、女性のみならず全ての会員の方が活動しやすいInclusiveな学会環境を作りたいと考えています。

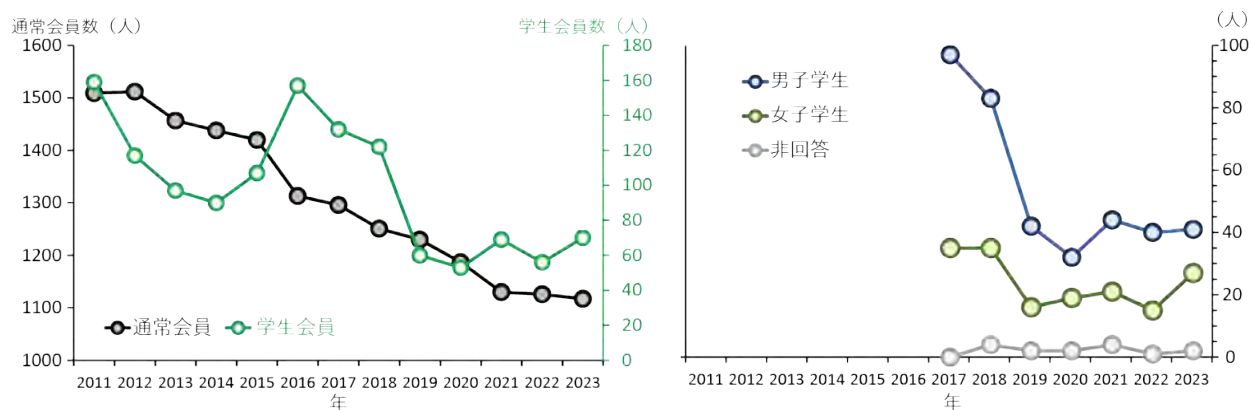


図1 (左図)2011年～2023年間の通常会員数と学生会員数の推移、(右図)2017年～2023年間の学生会員数の推移(男子、女子、非回答別)。各年の3月時点での集計値。

日本地形学連合 活動報告

日本地形学連合

Proportion of women activities in the Japanese Geomorphological Union

Japanese Geomorphological Union

Abstract:

Japanese Geomorphological Union (JGU) established in October 1979. The purpose of JGU is to elucidate and discuss issues that are closely related to the geomorphology itself or the terrain. It belongs to Japan Geoscience Union and corroborate each other. Main activities are publication, JGU summer school for encouraging young researchers, annual meeting or symposium, Natsugaku (summer school for high school girls), etc. This term saw the first female chairperson. The percentage of women on the Board of Directors has also increased from 0% to 30%.

<日本地形学連合とは>

日本地形学連合は、地形学及びこれに関連する学問の進歩と普及のための事業を行う学術組織で、大学、研究所、民間企業、公的機関などに所属する様々な会員が参加しています。1979年10月に設立され、地形を共通の対象として、講演、討論、論文集の刊行などを行っています。

<おもな学会活動>

通常の学会活動としては、学術雑誌の発行、学術大会、シンポジウム、JGU夏の学校(若手支援企画)などを行っており、日本地球惑星科学連合とも団体会員として相互に協力しています。男女共同参画の観点からは、2013年度より「女子中高生夏の学校」に参加しています。2018年度まではアクティブラーニングを意識し、現地見学会を積極的に取り入れた実験企画を行っていました。2019年度には開催時期の猛暑を鑑み、マイクラフトを用いた地形と地盤に関する室内実験を行いました。2020年度はコロナ禍で見送ったものの、2021年度よりオンライン地形実験にて、地形模型の工作を行っています(図1)。



図1 2023年度の女子中高夏の学校の様子

<女性割合の基礎データ>

JGUにおける一般会員の女性割合は10.2%、学生会員の女性割合は6%です。2019年の法人化に伴い組織改編がなされ、一時的に役員に占める女性割合がゼロとなりました。2023年度には初の女性会長が誕生し、理事に占める女性割合も30%ほどとなりました。

JGUは小規模な学術団体であるため、女性を対象とした賞はとくに設けられていません。これまでの受賞者における女性割合は、若手研究員を対象とした「研究奨励賞」(2009年度より実施)では9%、「ベストポスター賞」(2016年度より実施)では25%でした。

<今後の展望と課題>

JGUでは、若手の起用を意識して諸活動が進められてきました。しかし、その若手研究者の割合が低くなっていることから、若手や女子学生に魅力ある活動を意識して進めていくことが喫緊の課題です。

日本地形学連合が
刊行する機関紙「地
形」のバックナンバー
は左のQRコードか
ら閲覧できます。



日本熱帯生態学会 ダイバーシティ推進活動報告

日本熱帯生態学会(四方籌(京大)・佐々木綾子(日大)・保坂哲朗(広大)、事務局: jaste.adm@gmail.com)

Recent Activities for Promoting Diversity in The Japan Society of Tropical Ecology

The Japan Society of Tropical Ecology (JASTE) (URL: <https://www.jaste.website/>)

Abstract: The Japanese Society of Tropical Ecology (JASTE) was established in 1990 to promote the advancement of ecological research in the tropics, and the exchange and dissemination of research results. To promote gender equality and diversity, JASTE has been involved in various activities such as providing childcare services and organizing events. In 2023, JASTE Young Member's Innovation Committee organized an online social event and a hybrid forum as a satellite event of JASTE33 (annual meeting 2023). These social events provided opportunities with participants to generate interest in different areas of research and to exchange their opinions actively between various generations.

【日本熱帯生態学会について】

日本熱帯生態学会は、熱帯地域の生態学的研究の進歩および研究成果の交流と普及を図ることを目的として1990年に設立されました。自然科学系・人文社会系を問わず、熱帯地域の自然と社会に関心をもつ幅広い分野の研究者が所属し、会員の多くは国内外におけるフィールドワークに依拠した研究活動を展開しているのが特徴です。英文誌“TROPICS”や和文ニューズレター“Tropical Ecology Letters”の発行・年次大会・学会ウェブサイト等を通じて、熱帯の自然と社会に関連した最新の研究成果や速報、関連分野のニュース、学会記事などの情報発信・交流をおこなっています。

【ダイバーシティ推進に向けた取組】

2023年3月現在の総会員数は349名(正会員238名(シニア会員25名含)、学生会員98名、外国正会員9名、機関会員4名)で、ここ数年は学生会員数が増加しているものの正会員数は減少傾向にあり、総会員数は横ばいで推移しています。ジェンダー比については学生・ポスドク等の若手研究者層において女性会員数が増加傾向にあります。こうした状況から、本学会ではダイバーシティ推進に向けてさまざまな取組(ダイバーシティ推進費の設置、若手イノベーション委員会の設置、若手研究者を対象とした表彰制度・研究助成の設置、学会発信情報の英語併記、外国人会員の選挙参加の推進等)を進めています。

男女共同参画を促進する取組として、2018年度より年次大会期間中の託児補助を実施していますが、補助の内容・形式は大会会場の設備や開催形式に応じて柔軟に対応しています(学内保育所の利用、

会場内での出張託児の提供、会場近隣の民間託児施設利用、ファミリー休憩室の設置等)。コロナ以後は、オンライン参加者への対応として、託児補助の範囲を会場周辺や利用者の自宅周辺(シッター利用や保育園の一時保育、ファミリーサポート利用等)でも認めることとし、対象者が利用した託児料金の一部負担というかたちで託児補助を実施しています。

【ダイバーシティ推進イベントの開催】

JASTEでは、多様なニーズをもつ会員が参加しやすく魅力的な学会環境となるよう、さまざまなイベントを企画しています。2023年度は、若手研究者が学会の支援を受け以下のイベントを企画・実施しました。

★第1回 若手交流セミナー(オンライン開催)

中米パナマで調査・研究している若手会員2名(藤澤奈都穂氏、中村亮介氏)による研究紹介と参加者交流を実施しました。熱帯研究に関心をもつ非学会員の学部生・大学院生も参加し、異なる分野の研究に知見を広げるとともに、熱帯に関するさまざまな話題にふれ、幅広い世代の参加者間で交流を深める機会となりました。

★年次大会(JASTE33)サテライト企画

「“研究と社会をつなぐ”をリアルに！～生態学者がアプリをつくる～」(ハイブリッド開催)

株式会社BIOMEの藤木庄五郎氏(CEO)に、種同定アプリBIOMEの開発裏側や現在の事業内容についてご講演いただき、熱帯生態学の新たな可能性やキャリアデザインを展望する機会となりました。

(詳細: <https://jastewakateinnovation.weebly.com/>)

日本加速器学会 活動報告 2023

日本加速器学会(会長 栗木雅夫・広島大学大学院先進理工系科学研究科・mkuriki@hiroshima-u.ac.jp)

Activity Report 2023 of Particle Accelerator Society of Japan

Particle Accelerator Society of Japan (President, Masao Kuriki, Hiroshima University)

Particle Accelerator Society of Japan has decided to start working toward the realization of a gender-equal society. Since we became a regular member of EPMEWSE in August 2021, we decided to start activities for the realization of a gender-equal society as soon as possible while promoting communication with other societies.

1. 日本加速器学会について

日本加速器学会は、加速器科学、加速器技術およびこれ等に密接に関連する学問の進歩発展を図り、もって社会に貢献することを目的として、2009年に設立されて以来、会誌「加速器」の発行(年4回)、学術会合としての年会の開催(8月)を中心に活動しています。学生会員を含む総会員数949名のうち、女性会員は42名(2023年9月時点)と少数ですが増加傾向あります。(35名、2022年9月時点)

本学会では、2021年より男女共同参画社会の実現に向けた取り組みを学会として開始しました(2021年7月、評議員会承認)。2022年には学会の将来的なあり方についての課題を担当する執行部役員(学会活性化担当)を新設し、若手育成とともに男女共同参画への取り組みを強めていくことを目指しています。本連絡会を通じ他学会の皆様との交流を進めながら、具体的な活動を検討しています。

2. 男女共同参画に関連する事項

本学会の意思決定における男女参画について検証するため、学会の意思決定機関である評議員会の構成を調べた結果を表1に示します。会員総数に占める女性の割合(2023年9月)は4.4%です。期待される評議員数は1.3名であることから、少数ではあるものの会員比率に比べて女性の評議員数は多い傾向にあります。

毎年8月に開催される年会は、400名を超える会員が参加し、それぞれの研究成果を発表するイベントです。年会では、研究活動・研究者生活の初期段階にある、学生および若手研究者を奨励することを目的として、年会賞(口頭発表部門、ポスター部門)が設けられています。年会賞の受賞者について、直近の年会の実績を調べた結果を表2に示します。女性の受賞者が少ないのは、女性会員が少ないことを反映していますが、こちらも女性比率に比べれば高い傾向があります。

年会では託児室を設置し、費用の一部を学会が負担しています。2020年から2022年の年会はオンラ

インだったため託児所は設けていません。2018年、2019年、それぞれ1件ずつの利用実績があり、2023年の年会では1件2名の利用がありました。年会における託児室の設置は、女性評議員の発案で2015年に始めたものです。女性会員の利用に加えて、男性会員の利用もあり、男女共同参画に直接的、間接的に貢献しています。今後の年会でも託児室の設置を継続する予定です。

内閣府の男女共同参画白書(令和3年版)では、専門分野別研究者数として、理学、工学分野における女性研究者の割合が、それぞれ、14%、6.9%と報告されています。米国の類似した研究分野であるビーム物理領域においては、女性比率は12.6%であり、米国における他の領域にくらべてプラズマ物理11.7%とならび低い数字となっており、領域のなんらかの特性が関与している可能性があります。

2023年に学会の将来的なあり方を議論する会員のフォーラムを創設しました。今後議題の一つとして男女共同参画をとりあげる予定です。

表1: 評議員30名中の女性の数

期間	女性	期間	女性
2004-2005	1名	2014-2015	2名
2006-2007	0名	2016-2017	2名
2008-2009	1名	2018-2019	0名
2010-2011	1名	2020-2021	2名
2012-2013	0名	2022-2023	3名

表2: 年会賞受賞者(女性/総数)

	口頭発表	ポスター発表
2019年	0 / 3	2 / 5
2020年	0 / 5	0 / 5
2021年	0 / 3	1 / 6
2022年	0 / 3	1 / 5
2023年	1 / 4	0 / 8

ダイバーシティ委員会 活動報告

公益社団法人 地盤工学会

Equality and Diversity Annual Report 2022/2023

The Japanese Geotechnical Society

Abstract: The Japanese Geotechnical Society (JGS) is an association of engineers from various fields such as civil engineering, architecture, agriculture, and geology. The Equality and Diversity Committee is working to spread and establish an awareness of diversity in the JGS and to support engineers in various positions to play an active role. This report describes the activities of Equality and Diversity Committee in this year.

1. はじめに

(公社)地盤工学会は、日本において地盤工学を担う専門家の集まりであり、土木、建築、農業、地質など多くの分野の技術者・研究者が横断的に集うことができる学会である。2023年3月末時点で正会員(31歳以上)6351名、若手会員(30歳以下)1304名が所属している。

ダイバーシティ委員会は、2010年に会員・支部内に常設委員会として発足した。現在は①ダイバーシティに関する意識の浸透・定着、②会員同士の交流の場の提供、を主な責務とし、活動が続けている。

2. ダイバーシティに関する活動

2.1 技術者・研究者紹介

地盤工学会誌の2015年7月号にダイバーシティの特集が組まれたことを機に、学会員のワークライフバランスや、ダイバーシティへの取組みを学会誌および学会ホームページで紹介する取組みを継続的に行っている。2023年3月では、国立研究開発法人に勤める研究者から「コロナ禍が仕事に与えた影響」について寄稿いただき、多くの反響を集めた。今後も年2回の頻度で、様々な環境やバックグラウンドを持つ学会員の記事を掲載する予定である。

2.2 「サロン・土・カフェW」の開催

サロン・土・カフェWは地盤工学会の会員・非会員に関わらず、誰でも参加できる情報交換の場として、毎年、地盤工学研究発表会で開催されている。2023年1月からは、より多くの方に参加して

もらえるよう、サロン・土・カフェW@オンラインも定期開催することとなった。今年は1月に「思い込みだり、決めつけたりしていませんか? ~アンコンシャス・バイアスの視点から~」、4月に「働き方」、7月に「ダイバーシティの推進と働き方改革」をテーマに3回開催しており、各業界および官、民、大学から幅広い年齢層の参加者が集い、情報発信や意見交換を行った。

2.3 地盤工学研究発表会におけるダイバーシティ関連セッションの開催

今後の少子高齢化、生産年齢人口の減少が見込まれる中、「多様な人材活躍で学会・業界を盛り上げよう! ~ダイバーシティ推進と働き方改革待ったなし~」をテーマとする特別セッションを第58回地盤工学研究発表会で開催した(2023.7.12)。特別セッションでは基調講演として、人事労務管理、労使関係の研究に長年従事してきた東京大学名誉教授の佐藤博樹氏と、大成建設(株)人事管理本部の塩入徹弥氏にダイバーシティ経営のあり方や働き方改革への取り組みについて講演いただいた。また異なるバックグラウンドを持つ3人のパネリストをお迎えし、今の日本が抱えるダイバーシティ推進と働き方改革の課題に関するパネルディスカッションを開催した。

3. おわりに

コロナ禍によって、多くの人の働き方や生活スタイルが変化した。社会情勢の変化を正確にとらえつつ、今後も多様な人材活躍に資する活動を考え、実行していきたい。

公益社団法人日本分析化学会 活動報告

(公社)日本分析化学会 女性研究者ネットワーク代表(吉田裕美・京都工芸繊維大学・yyoshida@kit.ac.jp)

Activity Report of the Women Scientist Network

Japan Society for Analytical Chemistry (Yumi Yoshida, Kyoto Institute of Technology)

The Japan Society for Analytical Chemistry (JSAC) was established in 1952. Analytical chemistry is a multidisciplinary field encompassing science, engineering, agriculture, medicine, dentistry, and pharmaceuticals. JSAC has initiated a "Women Scientist Network" aimed at supporting female scientists within the organization, and this program has been in operation since 2013.

公益社団法人日本分析化学会は、分析に関する情報のならびに分析化学の進歩発展を図り、それを通じて科学、技術、文化の進展、人類の福祉に寄与することを目的として、1952年に設立された学術団体である。その中で、女性研究者ネットワークは、次世代を担う若い女性研究者を応援し、女性が活躍しやすい学会とすることを目的として設立された。2013年から具体的な活動を開始し、今年度で10周年を迎えている。女性研究者ネットワーク担当理事として、上野祐子(中央大学)、保倉明子(東京電機大学)、吉田裕美(京都工芸繊維大学)が担当し、幹事として企業・大学から19名の女性研究者が参画している。

1. 女性研究者ネットワークセミナー

2013年に女性研究者ネットワークが設立されて以来、年2回の学会中に、「女性研究者ネットワークセミナー」を開催している。2023年は、5月20日に第83回分析化学討論会(富山)にて第17回女性研究者ネットワークカフェを、9月15日に日本分析化学会第72年会(熊本)にて第18回女性研究者ネットワークセミナーを開催した。それぞれ、企業からの支援を得てランチョンセミナー形式で開催し、おおよそ40名の男女研究者が参加した。セミナーでは、企業からのショートプレゼンテーションの後に、ワークライフバランスに関わる講演、小グループに分かれた情報交換を行っている。当初は、女性ならではの苦労を分かち合い、本音で情報交換できる交流の場の提供という目的もあり、参加者は女性に限っていたが、女性が多い組織の上司や子育てに苦労する男性からの参加希望者も増えてきたため、2015年からは、女性会員のみならず男性会員をも含めた情報交換の場として開催するようになった。

2. Analytical Sciences 誌の女性研究者特集号

2015年に、学会の国際英文誌 Analytical Sciences 誌で初の女性研究者の特集号 "Cutting-Edge Analytical Chemistry Research by Women Scientists" が発行された。筆頭著者(もしくは責任著者)が女性である論文を募集したところ、国内外から多くの応募があった。科学の領域で、このような女性研究者の特集号は、女性の研究実績構築の支援につながる重要な取り組みの一つであると考えられる。

3. 日本分析化学会 女性 Analyst 賞の設立

2017年には、女性 Analyst 賞が設立され、女性研究者の活躍を強くサポートする学会の方針が明確に示された。女性のみを対象とした賞については、逆差別につながるなどの批判もあるが、一般的に顕著な業績が必要な学会賞や奨励賞などの研究賞は、女性の受賞者は非常に少ないのが現状である。例えば、会員の中で女性会員の割合が18%と科学系の学会の中でも比較的多い本学会であっても、2005年~2022年までの学会賞の受賞者は54名中3名と少なく、奨励賞でも85名中8名と1割にも満たない。尚、本学会では、育児など女性のライフイベントを考慮し、また論文を出しにくい環境である企業研究者については、奨励賞の対象年齢を通常の38歳以下から引き上げて45歳以下としている。

4. 女性理事の増員

日本分析化学会では、2022度から定款変更を行い、理事が増員され、新たに女性理事が3名加わった。現在では理事24名中女性の理事は4名(約18%)であり、特に2名は副会長として学会運営でも中心的な役割を果たしている。

土木学会におけるダイバーシティ・インクルージョン推進の取り組み

土木学会 ダイバーシティ・アンド・インクルージョン(D&I)推進委員会
(米山 賢 建設技術研究所 <http://www.committees.jsce.or.jp/diversity>)

Promotion of Diversity and Inclusion at JSCE in the 10th term

*Japan Society of Civil Engineers (Ken YONEYAMA, CTI Engineering,
<http://www.committees.jsce.or.jp/diversity>)*

Abstract: Diversity and Inclusion Committee of Japan Society of Civil Engineers (JSCE) works in a two-year term, proposing various activities while developing a stable foundation within committee. In this article, the achievements in the 10th term are introduced. They include: (1) JSCE Diversity and Inclusion Action Statement, (2) promotion of JSCE 2020 Project.

1. 土木学会の概要

土木学会には38,000余名の個人会員(正会員、学生会員)が所属し、女性会員の比率は5.9%となっている。1998年を基準とした最近20年余りの経過では男性会員数がほぼ横ばいで推移しているのに対し、女性会員数は約4倍と大きく増加している。

土木学会ダイバーシティ・アンド・インクルージョン推進委員会(略称:D&I推進委員会)は、2004年に教育企画・人材育成委員会のジェンダー問題特別小委員会として発足後、2006年に男女共同参画小委員会、2010年にダイバーシティ推進小委員会と名称を変更し、2014年にダイバーシティ推進委員会に格上げされ、さらに2020年に「インクルージョン」を加えた現在の名称に変更し、今日に至るものである。

当委員会は、2年一期を単位として現在第10期の活動を行っているところである。

2. ダイバーシティ推進に関わる活動状況

(1)ダイバーシティ&インクルージョン行動宣言

多様な人材の活躍を推進する活動に取り組むという宣言である「ダイバーシティ&インクルージョン行動宣言」(以下、「D&I行動宣言」という)は、将来にわたる継続的かつ発展的な社会資本整備の推進とそれを実現する人材の育成を目的として、2015年に策定された未来志向の宣言である。

D&I行動宣言はその策定・発表にとどまることなく、宣言に基づいた具体的な行動に結びつけることが重要と考え、宣言の周知と意識向上の一助とすることなどを目指して、以降の活動を行ってきた。

これまで、参加者がさまざまな視点からD&Iや働き方を考えるきっかけとなることを目指した「D&Iウィーク」という集約型イベントを開催し、期間中に、シンポジウム、各団体や職場のD&Iポスターの展示、D&Iカフェの開設、D&I関連の図書展示などを行った。

(2)JSCE2020 プロジェクトの推進

土木学会の2020年度からの5か年計画である「JSCE2020-2024(略称:JSCE2020)」における4つのプロジェクトの一つとして、「土木D&I2.0にむけた活動の場とツールをつくる」が位置づけられた。本プロジェクトは20~30年後に達成すべき中期重点目標の「目標4:次世代の土木技術者の育成と多様な人材が活躍できる社会の実現」に該当し、プロジェクトは大きく2つの目的をもって推進している。

一つは、これまで推進してきた土木学会のD&Iの成果と活動実態をふまえ、「(A)女性に限定しない対象の拡大と、取り組みの裾野の拡大をはかるためのアクティブなプラットフォームを構築すること」であり、もう一つはD&Iを広く推進するために、「(B)それぞれの職場でD&Iの進捗状況、成果を意識化することで土木界のD&I進展をはかるための土木界向けツールを作成すること」である。

実施期間は、2020~2023年度の4か年としており、目的(A)については、すでに世の中に存在しているさまざまなD&Iを定期的に開催する30分程度のトークを通じてとりあげる「D&Iカフェトーク」(2023年9月までに46回開催し、現在も継続中)と、外国出身技術者の活躍をテーマに土木学会国際センターや他の委員会、支部などと連携し、情報交換機会として全国大会における研究討論会を主催するなどの活動を展開している。

目的(B)については、土木界向けツール開発を行うことを視野に、すでに存在するツールや指標を調査してこれらを参考としながら、実際の利用者や利用場面を想定することにより、ツールの要件定義や内容を具体化する形で進めている。さらに各企業・団体等におけるD&I推進の取り組みを発信・共有するため、「土木D&Iポスターコレクション」として、D&Iに関するポスターをオンラインで常設展示している。

日本鳥学会 2022-2023年度の男女共同参画活動報告

日本鳥学会企画委員会(山本麻希(長岡技術科学大学))

Report on the activities of the Ornithological Society of Japan for equal participation of men and women in science in 2022-2023

The Ornithological Society of Japan (Maki Yamamoto, Nagaoka Univ. of Tech)

Abstract: The Ornithological Society of Japan was established in 1912, and currently has approximately 1,000 members. The main purpose of the Society is to contribute to the development of a wide range of ornithological studies. In 2023, the report written about the 19th symposium will be reported in Chougaku-tsushin(<http://ornithology-japan.sblo.jp/article/188950555.html>).

<日本鳥学会について>

日本鳥学会は、1912年(明治45年)に発足し、創立以来、鳥学の発展および鳥類保護への学術的貢献を目的として、様々な活動を行っている。

2023年の調査では、一般会員数は1,090名(うち女性は186名、17.1%)、学生会員は188名(うち女性は92名、48.9%)。学生の男女比はほぼ1:1であるのに対し、一般会員には女性が少ない。女性の監事への就任はあるものの、評議員15名のうち女性は3名である。

<日本鳥学会における現状と課題>

一般会員の女性比率は13%(2013年)、12%(2015年)、14%(2017年)、22%(2019年)と、2019年には多少改善されたものの(図)、17.1%(2023年)に減少した、いまだ十分ではない(いずれも「連絡会加盟学協会における女性比率に関する調査」(男女共同参画学協会連絡会)より引用)。

シンポジウム等で得られた情報は、毎年、学会員へ周知しているものの、今後はより踏み込んだ活動が求められる。2023年には、学会HPにダイバーシティに関する情報をまとめたページの作成や女性会員の交流会などの企画を行う予定である。

<2022-23年度の男女共同参画の取り組み>

1. 第20回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム参加報告を学会誌等へ掲載

2022年10月8日に開催された第20回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムに、日本鳥学会企画委員3名が参加し、2023年度中に学会員向けのブログ「鳥学通信」に参加報告を掲載する予定である。

また、男女共同参画学協会連絡会運営委員会に日本鳥学会企画委員がオブザーバーとして参加した。

<男女共同参画学協会連絡会と日本鳥学会>

2007 連絡会にオブザーバー加盟

第5回連絡会シンポジウムに参加(以後、毎年参加)

2008 大会において託児所開設(以後、毎年設置)

2012 第3回大規模アンケート調査実施

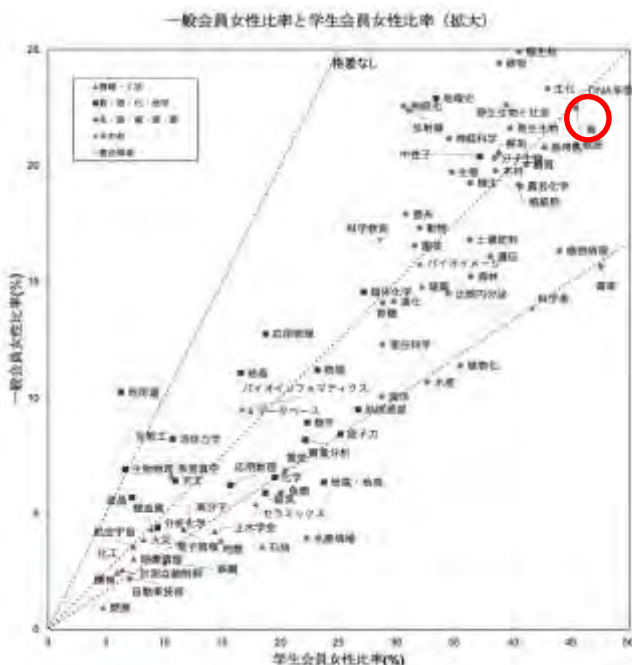
2013 年次大会でポスター発表

2014 学会誌に連絡会シンポジウムの内容についての報告を掲載(以後、毎年掲載)

2015 年次大会でポスター発表

2016 第4回大規模アンケート調査実施

2023 学会HPのダイバーシティ情報Pの作成



日本天文学会における男女共同参画推進の取り組み

公益社団法人 日本天文学会 (石川遼子・国立天文台・ryoko.ishikawa@nao.ac.jp)

Activity Report on Gender Equity in the Astronomical Society of Japan

Astronomical Society of Japan (Ryohko Ishikawa・National Astronomical Observatory of Japan・ryoko.ishikawa@nao.ac.jp)

Abstract: The Astronomical Society of Japan (ASJ) is the major organization of astronomers in Japan. The Gender Equality Committee of the ASJ was established in 2005. Here we would like to report on activities for gender equity in ASJ over the past few years.

日本天文学会と男女共同参画

日本天文学会は、天文学の進歩および普及を目的とし、1908年に設立された。2023年9月1日現在の正会員と準会員をあわせた総会員数は3280名で、そのうち女性会員は440名、比率は13%である。正会員のみに絞ると、2235名中女性は323名(14%)となる。女性比率は、多少の変動は見られるものの、過去20年大きく変わっていない。

日本天文学会は、1999年に国内学協会の中で初めて年会中の保育室を設置するなど、男女共同参画に早くから取り組んできた。男女共同参画委員会は2005年にワーキンググループとして発足し、2006年、学会内の委員会として正式に承認された。現在の委員構成は、男性2名、女性4名である。本稿では、ここ数年の本学会の男女共同参画に関する取り組みを報告する。

男女共同参画に関するアンケート調査報告

学会員を対象に2019年に実施したアンケート結果についての考察を、2021年10月、本学会の月刊誌・天文月報で発表した(馬場ら)。アンケートの設問は、1999年に行われたアンケートのものをできるだけ踏襲することで20年間の変化がわかるようにした。アンケートの結果から、女性にとってキャリア形成は、改善はみられるものの、男性よりも難しい面が残っていることがわかった。また、ハラスメント被害状況は改善が見られず、女性だけでなく男性にも相当数の被害経験があることがわかった。ハラスメント対策は喫緊の課題と考え施策を委員会内で議論している。

年会への取り組み

1999年より続いている年会の保育室は、年会実行委員会により運営されている。年会は、コロ

ナ禍により、しばらく完全オンラインでの開催となっていたが、2022年秋季からハイブリッド開催となった。現地参加を希望する会員のため、感染対策を講じながら保育室を運営している。

コロナ禍での年会のオンライン開催を経て、子育て中の研究者などが、オンライン化のメリットを認識するに至った。そこで男女共同参画委員会より、ポストコロナにおける年会のオンライン開催の可能性についての検討を要請し、年会検討タスクフォースが立ち上がった。男女共同参画委員会から1名が参加し、ハイブリッド化を年頭に開催形態について議論を進めている。

女子中高生夏の学校(夏学)への参加

夏学へは、男女共同参画委員会と天文教育委員会が協力して、2005年より継続して参加している。数年ぶりに対面開催となった今年の夏学にも、ポスター展示と進路・キャリア相談カフェに参加した。また、2023年春季年会において、天文教育フォーラム「天文学研究/教育におけるダイバーシティ推進」が開催された。前述のアンケート調査結果とともに、これまでの本学会の夏学への取り組みが報告され、男女共同参画、ダイバーシティ推進について意見交換を行った。

講演会の実施

2023年4月、『女性と天文学』(恒星社厚生閣2021年)を執筆されたYaël Nazé博士(リエージュ大学)来日の際、男女共同参画委員会主催で「Women astronomers」という題目で講演いただいた。歴史の影に隠れるも重要な貢献をしてきた女性科学者達が紹介されその姿に圧倒された。講演前には座談会を行い、日欧の若手研究者のキャリア支援のあり方等について議論した。

日本植物バイオテクノロジー学会 男女共同参画活動報告

日本植物バイオテクノロジー学会 キャリア支援・男女共同参画委員会
(三浦健治・筑波大学、柳川由紀・千葉大学、藤原すみれ・産総研、佐藤長緒・北海道大学)
<https://www.jspb.jp/>

Recent Activities for the Promotion of Gender Equality in Japanese Society for Plant Biotechnology *Japanese Society for Plant Biotechnology*

Abstract: Japanese Society for Plant Biotechnology (JSPB) supports development of both basic and applied researches in the fields of plant tissue culture, molecular biology and cell technology. To this end, we hope to facilitate exchanges of research information and cooperation among researchers of various disciplines, including basic science, agriculture, pharmacy, and engineering. The society has been concerned about gender equality and formed a gender equality working group in 2013. Upon request from the working group, arrangements of daycare during the annual meeting and subsidization of the cost have been decided. The society is also active in carrier support for young researchers.

＜日本植物バイオテクノロジー学会について＞

本学会は、前身を日本植物組織培養学会として1981年に設立されました。その後、1995年に日本植物細胞分子生物学会と改称、2016年7月に一般社団法人化、2020年7月に日本植物バイオテクノロジー学会と改称され、現在に至っています。植物組織培養、分子生物学、および細胞工学の基礎研究とその応用開発研究の発展をめざして、理学、農学、薬学、工学などの多方面の分野における研究者の協力と研究情報の交流を図ることを目的として活動を行っております。

＜男女共同参画への取り組み＞

学会設立30周年記念事業の提案に基づき、2013年に男女共同参画ワーキンググループ(WG)が設置され、2016年の一般社団法人化を機に、キャリア支援・男女共同参画委員会へと再編成されました。

2023年9月現在、本学会の会員数は928名(名誉会員5、一般会員655、学生会員268)、特別賛助会員14団体、賛助会員10団体となっています。女性比率は、一般会員20.0%、学生会員42.2%、理事会40.0%、代議員29.3%です。代議員および理事会における女性比率に関して、一般会員における女性の比率と同等あるいはそれ以上になるように配慮しています。

1. 男女共同参画学協会連絡会活動への参加

本学会は、2019年からオブザーバー会員として男女共同参画学協会連絡会に加盟し、シンポジウム、運営委員会に参加しています。

2. 大会時における託児所の設置

本学会では、大会を年1回開催しています。これまで大会時の託児所設置の有無は、大会運営側に一任していましたが、男女共同参画WGの提言により、2014年度の大会より、託児所の設置もしくは紹介を実施するよう、学会側から大会運営側に依頼しています。また、設置の早期周知も依頼しています。

3. 託児所利用費の補助

大会の託児所利用について、利用者の負担額を子供1人当たり半日:3,000円、1日:5,000円とし、実際にかかった経費との差額を学会から補助しています。

4. 座長の女性比率

大会における座長選定にあたっては、会員女性比率を考慮するよう大会運営側に依頼しています。

5. キャリア支援活動

2023年度大会では、キャリア支援・男女共同参画委員会により、男女共同参画とキャリアの観点および職場環境向上をふまえ、ランチョンセミナー「職場におけるメンタルヘルス」を開催しました。本ランチョンセミナーでは、メンタルケア協会の鬼頭靖先生をお招きし、職場環境向上につながるご講演をいただきました。

初学者もエキスパートに学べるWetLab講習会と学際的活動

日本組織細胞化学会 男女共同参画委員会、理事長

(中西陽子¹・宮東昭彦²・原田義規³・高浪景子⁴・江原鮎香⁵・菱川善隆⁶)

¹日本大学医学部腫瘍病理学, ²杏林大学医学部顕微解剖学, ³京都府立医科大学細胞分子機能病理学,

⁴奈良女子大学生活環境学部, ⁵獨協医科大学医学部解剖学, ⁶宮崎大学医学部解剖学・jshc@nacos.com

WetLab seminars by experts for beginners and interdisciplinary activities

Japan Society of Histochemistry and Cytochemistry

(Yoko Nakanishi¹, Akihiko Kudo², Yoshinori Harada³, Keiko Takanami⁴, Ayuka Ehara⁵, Yoshitaka Hishikawa⁶)

¹Nihon University School of Medicine・nakanishi.youko@nihon-u.ac.jp, ²Kyorin University Faculty of Medicine, ³Kyoto Prefectural University of Medicine, ⁴Nara Women's University, ⁵Dokkyo Medical University, ⁶Miyazaki University School of Medicine・jshc@nacos.com

Histochemistry is a research field that aims to visualize and understand the essence of various life phenomena in tissues and cells. We are highly interdisciplinary experts who hold seminars and provide methodologies. Through these activities, we hope to contribute to the development of young researchers, the improvement of the skills of diverse researchers, and the continuation of their inquisitive spirit.

1. 日本組織細胞化学会について

日本組織細胞化学会は、1960年に発足した「日本組織化学会」と「組織化学会」を基に、1968年に「日本組織細胞化学会」として設立されました。組織細胞化学は、様々な生命現象の本質を組織や細胞の上で可視化してとらえることを目的とした研究分野です。会員は、解剖学、生理学、生化学、病理学をはじめとする基礎医学から、内科、外科、産婦人科、皮膚科など臨床医学や歯科学、薬理学、獣医学など、多岐にわたり、さらに、近年は、染色や可視化、画像解析などの機器開発に関与する工学系の方々、また、組織細胞化学が医療現場にも必須となってきたことから、臨床検査や製薬企業の方々も参加され、非常に幅広い、学際的な学会活動を展開しています。英文誌 *Acta Histochemica et Cytochemica* (AHC) を発行しており、2022年度のIFは2.4となっています。

2. 男女共同参画への取り組み

2023年8月現在、会員総数614名に対して、女性総数は158名(25.7%)で、理事、幹事14名中、女性は2名です。男女共同参画委員会は、2012年に発足し、学協会連絡会にオブザーバー参加しています。学会ホームページに専用ページを設けて会員への情報提供を行っています。

3. 学会活動一若手研究者育成への取り組み

【組織細胞化学講習会】

日本組織細胞化学会では、会員に限らず、技術的スキルを必要とされている学生・技術者・研究者の皆様を対象に、組織細胞化学講習会を毎年開催しています。基本となる細胞・組織の固定法や動物実験、様々な顕微鏡の操作法から、核酸の局在、抗原性賦活化や透明化技術、免疫電顕、遺伝子導入法、イメージング質量分析法、3DやAIを用いた画像解析法などの最先端技術まで、初学者の方にもわかりやすい分子組織細胞化学的方法論の普及・啓蒙活動に力を入れています。実際に、各大学のエキスパートの先生方が、実技指導を行うWetLabもありますので、大変好評で、今年は320名を超える参加者となりました。

【学術集会】

毎年秋には学術集会を開催しています。組織細胞化学の発展に貢献された高松英雄先生を称えた「高松賞」の受賞講演もあります。コロナ禍以降、講習会や学術集会は、ライブや、オンデマンド配信も取り入れておりますので、遠方や、育児中など現地に来ることが難しい方も参加できます。本学会は、学際性豊かで、きめ細かい活動を通して、若手研究者の育成や、多様な研究者の技術向上と探求心の継続に貢献していきたいと考えます。

応用物理学会ダイバーシティ&インクルージョン委員会活動報告

公益社団法人 応用物理学会

(連絡先: 小川賀代(日本女子大学)、神戸美花(AGC)、近藤高志(東京大学)、

為近恵美(横浜国立大学)、筑本知子(大阪大学)

Activities Report of the Diversity & Inclusion Committee

Japan Society of Applied Physics (JSAP) Contact: Kayo Ogawa (Japan Women's University),
Mika Kambe (AGC), Takashi Kondo (University of Tokyo), Emi Tamechika (Yokohama National University), Tomoko
Chikumoto (Osaka University)

The committee aims to promote diversity in the fields of science and technology by providing everyone, regardless of gender and age, with the opportunities for making the most of their talents.

設立の経緯

2001年2月 男女共同参画ネットワーク準備委員会を
発足

2001年7月「男女共同参画委員会」設立

2006年3月「人材育成・男女共同参画委員会」へ発
展的改称

2011年4月「人材育成・教育事業委員会」へ改編

2012年2月「人材育成委員会」へ改称

2015年3月「男女共同参画委員会」へ改編

2022年3月「ダイバーシティ&インクルージョン委員
会」へ発展的改称

目標

個が尊重され、各々の才能を十分に発揮できる社会の実現を目指しています。十数名の委員(男女比約半々)が中心となり、ダイバーシティ&インクルージョンの推進に取り組んでいます。応用物理学会内外での活動を通じて、男女に限らず幅広い分野での多様性推進、社会の活性化に寄与したいと考えています。

主な活動

【シンポジウムの開催】

応用物理学会における女性研究者の見える化、ロールモデルの提示を目的に年一度シンポジウムを開催しています。2013年春より4回にわたり、太陽電池、フォトニクス、バイオエレクトロニクス、プラズマと応用技術の各分野で活躍する女性研究者が最新の研究成果と将来展望を発表しました。

2017年春からは、男女に限らず誰もが能力を発揮し活躍できる社会の実現を目指し、若手研究者のキャリアパスや海外と日本の研究環境の違い等、様々な視点からのダイバーシティ&インクルージョンにつながる講演を取り上げています。

【国際交流】

2008年IUPAP-WGに講演したのを皮切りに、GS (Gender Summit)、IUPAP (International Union of Pure and Applied Physics)、にて、定期的に講演・ポスター発表を行っています。2023年7月には、the 8th IUPAP International Conference on Women in Physics (ICWIP2023)[オンライン開催]にて発表を行いました。

【研究者ネットワークの強化】

2013年より、女性会員を中心とした研究者のネットワークの活性化を目指して、女子だけではなく「女子会」を開催してきました。2016年より、男性・女性・国籍を問わず多くの方にご参加頂こうという趣旨で「NEWMAP (Network for Women and Men in Applied Physics)」へ改称し、活発な議論の機会を提供しています。

【女子中高生の理系進路選択支援】

女子中高生の理系進路選択の支援を目的として、毎年「女子中高生夏の学校」へ参加しています。

【表彰事業】

女性研究者研究業績・人材育成賞(小館香椎子賞)を設け、2009年から2021年にかけて、研究業績部門12名、研究業績部門(若手)18名、人材育成部門6名を表彰してきました。2022年には、小館賞を発展させる形で、ダイバーシティ&インクルージョンの推進を通じて応用物理分野の活性化を図ることを目的として、応用物理学会ダイバーシティ&インクルージョン賞を設立しました。2022年度は、女性研究者研究業績賞1名、女性研究者研究奨励賞2名を表彰しました。

詳細は下記ウェブページをご覧ください。

(公社)応用物理学会 ダイバーシティ&インクルージョン委員会 <https://www.jsap.or.jp/gender-equality>



日本数式処理学会 活動報告2023

日本数式処理学会（広報委員会内 男女共同参画担当）

Japan Society for Symbolic and Algebraic Computation – Activity report 2023 –

Japan Society for Symbolic and Algebraic Computation
(Committee on Public Information)

Abstract: The Japan Society for Symbolic and Algebraic Computation (JSSAC) is an association consisting of those who have a deep interest in research, development, application, and usage of symbolic and algebraic computation. JSSAC was established in April 1992 for the purpose of progressing, developing, and popularizing symbolic and algebraic computation through mutual cooperation and exchange between members and related organizations. In June 2009, JSSAC moved to a general incorporated association. This report is the summary of our activities on gender equality.

＜日本数式処理学会について＞

日本数式処理学会は、数式処理に係わる研究・開発・応用・利用に深い関心を抱く者から成る組織であり、会員間および関連組織との相互協力・交流を通じて、数式処理の進歩・発展・普及を図ることを目的として1992年4月に設立されました。その後、2009年6月には一般社団法人に移行しています。

本学会は、数式処理そのものを研究対象とする数学系、情報系の会員から、数式処理を利用する立場の理学系、工学系、教育系の会員まで、幅広い分野の会員が所属しています。

2006年度には女性会長が誕生しており、早くから女性が活躍している学会といえるかと思います。現在、理事7名中、副会長1名を含め2名が女性です。本学会では、入会時に性別のデータを集めていないため会員全体の男女比は不明ですが、理事における女性比率は明らかに会員内の女性比率より高くなっています。

＜男女共同参画の活動＞

（1）本学会における男女共同参画の経緯

本学会は規模が小さいこともあり、男女共同参画に関する独立した委員会は設置されていません。しかし、その代わりとして2014年に広報委員会内に男女共同参画担当が配置されました。以降、その体制の下で「女子中高生夏の学校」をはじめとした男女共同参画に関する学会内の調整や業務が行われています。

また、本学会は2015年に男女共同参画学協会連

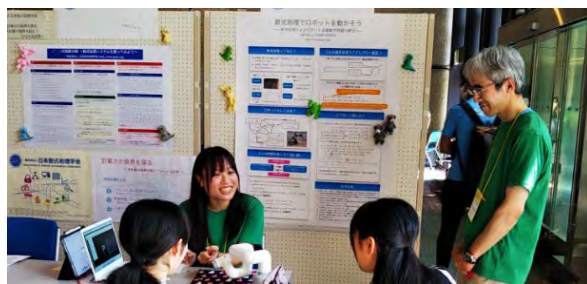
絡会にオブザーバ会員として加盟致しました。以来、男女共同参画に関するアンケート調査などへの協力を行っています。

（2）「女子中高生夏の学校」での活動

「女子中高生夏の学校」には、2015年から参加しています。

2023年度は3年ぶりに対面での開催となり、会員4名と学生TA1名で、以下のプログラムに参加しました。

- サイエンスアドベンチャーI
実験・実習
数式処理を使って数学実験してみよう
- サイエンスアドベンチャーII
ポスター展示・キャリア相談
計算力の限界を探る
- 進学・キャリア相談カフェ



女子中高生夏の学校での活動：
ポスター展示・キャリア相談ブース

日本植物病理学会における男女共同参画の取組み(2022年度)

一般社団法人 日本植物病理学会 男女共同参画推進委員会

Activities for Promotion of Gender Equality in the Phytopathological Society of Japan in 2022

The Phytopathological Society of Japan (PSJ)

Abstract: In 2022, the number of gender equality committee members in the Phytopathological Society of Japan (PSJ) has increased, and its activities have been strengthened. In October 2022, we conducted a survey of the PSJ members to learn about their attitudes regarding gender equality and diversity promotion. In addition, we held the first symposium during 2022 Annual Meeting and had a lecture by an expert on “Unconscious Bias”. The second symposium is scheduled to be held at the conference in March next year, and preparations are currently underway.

1. 日本植物病理学会の紹介

日本植物病理学会は、植物病理学の進歩と普及をはかることを目的として、1916年に創設されました。「植物を病気から如何にして守るか」を命題として、糸状菌・細菌・ウイルス等が、穀類・野菜・果樹・花き・樹木などの植物に起こす病気について、基礎から応用まで幅広い研究を行なっています。具体的には、病原体の診断同定・伝染方法、感染・増殖機構、病原体と宿主の相互作用、宿主の抵抗性機構、また、農林業の生産現場における病害発生予察や防除方法の開発、抵抗性作物の作出、食糧や森林の安定的生産、生活を取り巻く植物の保護など、これらを通して持続可能な農業・社会に貢献する魅力ある学会を目指して活動しています。

2. 2022年度の取組み

2022年度、日本植物病理学会では男女共同参画推進委員を2名から6名に増員しました。新体制となった初年度、2022年10月に学会員を対象としたダイバーシティ推進に関する意識調査アンケートを実施しました。さらに、2023年3月の令和5年度日本植物病理学会大会(オンライン)開催中の2023年3月26日に第1回シンポジウムとして、ダイバーシティ推進セミナー「あなたの中の無意識のバイアス」を、オンラインで開催しました。セミナー冒頭に、学会長から、植物病理学会においてもダイバーシティ推進活動を支持し、学会員の

理解を得る必要性があることについてメッセージを頂きました。続いて、特別講演として、無意識のバイアスの専門家である北村英哉教授(東洋大学)からご講演頂きました。マイノリティは差別されやすいことや、マジョリティ(例えば男性側など)は悪意がなくてもある種の視点を欠落したステレオタイプの見方をしてしまうことがあるなど、無意識のバイアスについて分かりやすい実例を示しながらご紹介頂きました。また、「人」に原因を求め排斥するのではなく「行動」を議論すべきであること、意識を持って相手の視点に立つことで感情や優しさだけではなく合理的な配慮や判断ができること、バランスを欠いた構成比の状況では一定期間のアファーマティブアクションが必要であることなど、今後の活動のヒントとなる多くのことを学びました。講演後、委員会からは2022年10月に行った「ダイバーシティ推進に関する意識調査アンケート」の集計結果について紹介しました。

2023年度活動として、委員会の活動内容やアンケート結果詳細などを掲載する男女共同参画推進委員会HPの作成、令和6年度学会本大会(2024年3月)での第2回シンポジウムの開催を予定しています。また、現在、女性割合が少ないとされる学会評議員(評議員全体の7%)や理事(理事全体の0%)について、女性比率を上げるべく他の委員会や理事会に働きかけを行なっているところです。

一般社団法人 日本放射線影響学会 キャリアパス・男女共同参画 活動報告

一般社団法人 日本放射線影響学会(担当: 飯塚 大輔・量子科学技術研究開発機構)

連絡先: 学会事務局 E-mail: jimukyoku@jrrs.org

Annual report on the activities for career path and gender equality in the Japanese Radiation Research Society (2022-2023)

The Japanese Radiation Research Society (Daisuke Iizuka, Research Institutes for Quantum Science and Technology, QST)

Abstract: The Japanese Radiation Research Society (JRRS) was founded in 1959. 740 members, 21.9% of whom are women, as of Jun 2023. The JRRS Career Path and Gender Equality Committee was established in 2015. Activities include holding seminars on career advancement and work-life balance, providing childcare support during the annual conference, and conducting a visibility survey of female researchers affiliated with JRRS.

1. 日本放射線影響学会について

日本放射線影響学会は、1959年、放射線の人体と環境に対する影響とその機構の解明、ならびに利用への貢献を目指して学際的な放射線科学研究を推進する場として設立されました。設立当初から、物理、化学、生物、環境、医学、工学、放射線防護、被ばく 医療などの幅広い分野の研究者が集い、分野横断的な研究交流の場としての機能を果たしてきました。学術集会として、1959年10月の第一回大会を皮切りに毎年年次大会が開催されており、2023年11月には、第66回大会(大会長 柿沼志津子(QST))が開催されます。また、学会誌として、1960年よりJournal of Radiation Research(JRR)を発行しており、2009年からは日本放射線影響学会(JRRS)と日本放射線腫瘍学会(JASTRO)の両学会の機関誌として、広く放射線科学に関連した研究成果を世界に発信しています。

本学会は、2015年4月に一般社団法人に移行しました。会員数(2023年6月1日時点)は740名(うち、学生会員は47名)であり、全体に占める女性会員の割合は21.9%、学生会員に占める女性の割合は29.9%です。2011年度より放射線科学研究の活性化と日本放射線影響学会の発展に寄与した女性研究者を顕彰するために岩崎民子賞を設けています。

男女共同参画学協会連絡会には、2016年度よりオブザーバー学協会として加盟しています。

2. キャリアパス・男女共同参画への取り組み

日本放射線影響学会キャリアパス・男女共同参画委員会は、2014年度に若手研究者支援活動の一環として設置された男女共同参画ワーキンググループを前身としています。キャリアアップを支援する活動の企画や本学会における男女共同参画の実情を把握し、支援することを目的としています。2023年9月現在の当委員会の委員数は9名(男性4名、女性5名)です。

育児中の会員の大会参加を支援するため、「託児費用援助制度」を設けております。会員のニーズをアンケートなどでくみ上げ、理事会に働きかける事などを通し、第66回大会では、大会長のご配慮により、会場内託児の設置予定に加え、一部のセッションのハイブリッド開催、家族同伴で参加される場合の同伴者パス(無料)を設けていただきました。2017年度からは、年次大会における演題発表者等の属性調査を行い、女性会員の活動度の経年変化をモニターしています。学会ホームページ内に、委員会のページを立ち上げており(下記URL)、活動状況を掲載しています。

https://www.jrrs.org/about/gender_equality.html

3. 2023年度のセミナー企画について

第10回キャリアパス・男女共同参画委員会企画セミナーを11月7日(火)に第66回大会会期中にハイブリッド開催する予定です。

一般社団法人 日本DNA多型学会 キャリアパス委員会活動報告

キャリアパス委員長 門田 有希(岡山大学・y_monden@okayama-u.ac.jp)

Activity Report of Japanese Society for DNA Polymorphism Research

Japanese Society for DNA Polymorphism Research

The Japanese Society for DNA Polymorphism Research (JSDPR) was established in 1991. We currently have approximately 400 members. JSDPR covers a wide range of research fields, including medicine, fisheries, animals, plants, humanity and low, where DNA is the subject of research. In this report, we have summarized the activities of Career Path Committee of JSDPR in 2022.

<日本DNA多型学会とキャリアパス委員会について>

日本DNA多型学会は1991年に「DNA多型研究会」として発足し、1995年には発展的に「DNA多型学会」と改称し、2016年10月に一般社団法人「日本DNA多型学会」となり、現在に至っている。DNA多型学会は、DNA多型をとおして、さまざまな生命体の特性や機能などの生命の本質に迫るような内容や実務的なDNA鑑定関連および時代を反映した倫理的な側面などを題材としており幅広い領域をカバーする。DNAを研究対象とした医学、水産、動物、植物、人類、法学といった分野の研究者が集う学会でもある。2023年5月時点で会員数は427名である。

キャリアパス委員会は若手研究者のキャリアパスや男女共同参画につながる活動を推進している。男女共同参画学協会連絡会にはオブザーバー学協会として加盟している。委員メンバーは門田有希(岡山大学)、村山美穂(京都大学)、津田とみ(東海大学)、村岡敬子(土木研究所)、西健喜(東京慈恵会医科大学)、吉川ひとみ(科学警察研究所)の6名である。

<キャリアパス委員会活動報告について>

2022年11月17日(木)・18日(金)に日本DNA多型学会第31回学術集会が金沢商工会議所会館(石川県金沢市尾山町9-13)において開催された。キャリアパス委員会では若手研究者のネットワークを拡げることが目的とし、キャリアパス委員会企画を開催した。大学や大学院を修了した後、若手研究者には多様な場での活躍が期待される。企

画前半では、2名の先生方から自身のキャリアパスについてご講演いただいた。後半は、グループディスカッションを行い、ベテラン研究者を含めた会場の皆様とともに若手研究者のキャリアパスについて考える機会を設けた。当日の流れは以下のとおりである。

1. 趣旨説明 門田 有希(岡山大学)

2. 話題提供

座長: 西 健喜(東京慈恵会医科大学)

講演者: 高橋遥一郎先生(筑波大学)

「自身のキャリアの回顧的な意味づけ」

座長: 村山 美穂(京都大学)

講演者: 佐藤悠先生(国立環境研究所)

「コロナ禍での学振海外ポスドク」

3. グループディスカッション

学術集会終了後にはアンケートを実施した。「グループ形式で意見交換をすることができて良かった」、「登壇者お二人のお話は大変興味深く、またグループワークも普段接する機会のない方々と交流でき大変刺激的で励みになりました」、「キャリアパスを考えるよい機会となりました」などのご意見をいただいた。

ここ数年、コロナ禍で人的交流が制限されていたが、本企画については人的ネットワーク形成の場として多くの皆様にご活用いただくことができたと思われる。今後の学術集会でもキャリアパスや男女共同参画にまつわる企画を開催する予定である。

日本食品科学工学会活動報告

日本食品科学工学会(専務理事 逸見 光・学会事務局・henmi@jsfst.or.jp)

Introduction of the Japanese Society for Food Science and Technology and the ratio of women to the executives, delegates and members

The Japanese Society for Food Science and Technology (Hikaru Henmi・Secretariat・henmi@jsfst.or.jp)

Abstract: The Japanese Society for Food Science and Technology was founded in 1953 as the Society for Agricultural Processing Technology, renamed the Japanese Society for Food Technology in 1962, and given its present name in 1984. We currently have approximately 2,200 members. Our Society engages in various activities such as convention of annual meetings, lectures, and research seminars as well as presentation of academic awards with the objective of contributing to the advancement of food science and technology through cooperation among researchers, engineers, and other professionals in businesses, universities, and national and public research institutions. In addition, we publish our journal in Japanese with English abstract ("Nippon Shokuhin Kagaku Kogaku Kaishi") and English ("Food Science and Technology Research"). Current ratios of women to the executives, delegates and members are approximately 18%, 11%, and 33%, respectively.

1. 日本食品科学工学会の紹介

日本食品工学会は、1953年に農産加工技術研究会として当時の農林省食糧研究所内に発足し、1962年に会名を日本食品工業学会に変更、1984年に社団法人日本食品工業学会、1994年に会名を社団法人日本食品科学工学会に変更、2013年に公益社団法人日本食品科学工学会となり現在に至っています。現在、個人会員数が約2,030名と賛助会員(維持会員+団体会員)数が177の学会です。

学会の目的は、食品科学工学に関する学術の発展と科学技術の振興を通じて国民の食生活向上に寄与するため、食品科学工学に関する学理及びその応用の研究についての発表及び連絡、知識の交換、情報の提供等を行うことです。具体的には、年1回学術大会(8月末に3日間で開催)と支部会(6支部)の開催、さらに学会委員会・支部企画の講演会、市民フォーラム等を不定期に開催しています。年次大会は、ここ数年、新型コロナウイルス感染症の拡大により、ZOOMによるWEB開催を行っていましたが、今年度の第70回記念大会では、京都女子大学で対面での開催を行い、参加者約1,400名、一般講演発表数約400、シンポジウム・研究会講演数約50、若手の会ポスター発表数(インターナショナルポスター発表も含む)約180等でした。

学会では、発足以来和文誌の「日本食品科学工学会誌」(年間12号)を発行しており、2023年で70巻となります。また、英文誌「Food Science and Technology Research」(年間6号)も発行しており、2023年で29巻となります。英文誌のジャーナルインパクトファクター(ジャーナルIF)は表1のようにここ数年間上昇続きでしたが、2022年度では下がりました。しかしながら、5年間IFにつきましては、2021年度に引き続き2022年度も1を超えました。

表1 Food Science and Technology SearchのIF

年	ジャーナルIF	5年間IF
2022	0.619	1.017
2021	0.78	1.047
2020	0.668	0.895
2019	0.553	0.749
2018	0.448	0.675

最近では、他の学会同様に入会者の減少、特に学生を含む若手研究者の減少が顕著であります。そこで、学会では5年前に会費を半額にする学生オンライン会員制度とその一年後に会費を減額した通常オンライン会員制度を新たに導入しました。さらに、次世代を担う若手研究者(学生～入社2～5年程度)の研究・技術力向上と産官学の横断的な技術交流促進の場を提供するために1泊2日のフレッシュマンセミナー(講義と施設見学)を定員30名ほどで実施行ってきましたが、ここ数年は新型コロナウイルス感染症の拡大のため、WEBでの開催(定員50名ほど)を行ってきました。今年度は、久しぶりに対面での1泊2日で11月に開催予定です。

2. 会員、役員および代議員の女性比率

現在の学会の個人会員総数に占める女性会員の比率は約33%で、昨年より3%増加しました。学会の役員(理事・監事)と代議員の任期は2年です。17期(2016年度－2017年度)、18期(2018年度－2019年度)、19期(2020年度－2021年度)および20期(2022年度－2023年度)での役員と代議員中に占める女性数を表2に示しました。

表2 役員および代議員中に占める女性数

期	役員(定員28名)	代議員(定員70名)
17	2	6
18	2	6
19	4	6
20	5	8

役員の女性数は19期で倍増し、20期でも1名増加しており、代議員でも17－19期では増減はありませんでしたが、20期において、女性数が2名増加しています。しかし、それぞれに占める女性比率が約18%と約11%であり、女性会員比率約33%より低くなっています。

現在の社会情勢を鑑み、今後とも引き続き役員と代議員に占める女性比率を高める努力を学会として真摯に取り組む必要があると考えています。



軽金属学会 男女共同参画委員会活動報告

軽金属学会（鈴木真由美・富山県立大学・smayumi@pu-toyama.ac.jp）

Activity report of JILM Gender Equality Committee

The Japan Institute of Light Metals

(Mayumi Suzuki・Toyama Prefectural University・smayumi@pu-toyama.ac.jp)

Abstract: The Japan Institute of Light Metals (JILM) is the only academic organization in Japan related to light metals, which was established in 1951 with the aim of advancing science and technology related to light metals such as aluminum, magnesium and titanium. JILM celebrated its 70th anniversary on October 26, 2021. In April of this year, we have also unveiled our long-term vision for the 100th anniversary of the founding of JILM. JILM has established a Gender Equality Committee in 2018, and this report summarizes our remarkable activities in FY2022.

(<https://www.jilm.or.jp>)

1. 一般社団法人 軽金属学会の紹介

軽金属学会は、アルミニウム・マグネシウム・チタンなど軽金属に関する学術・技術の進歩を図り、工業の発展を目的として1951年に発足した軽金属に関する日本で唯一の学術団体です。主な活動は、1) 研究会・学術講演会等の開催、2) 国内外における研究協力・連携の推進、3) 学会誌・学術図書等の刊行です。最近では、日本アルミニウム協会等の関連団体と連携して軽金属の特徴を活かした各種研究開発を推進しており、リサイクルや省エネ分野で指導的役割を果たし、地球環境の維持・改善に貢献しています。2021年10月26日に創立70周年を迎え、今年4月に創立100周年に向けた学会ならびに男女共同参画委員会を含む各常設委員会の長期ビジョンを公開しました。男女共同参画委員会は2018年4月に設置され、以来精力的に活動を続けています。

2. 男女共同参画委員会の活動実績

2022年度の主な活動は、以下の通りです。

【男女共同参画セッション】

男女が共に活躍できる学会活動を通じ、軽金属分野における研究・技術に関する活動を活性化させることを目的に、春秋講演大会中に男女共同参画セッション(第6回・第7回)を開催しました。第142回春期大会では『『男性学』から考える仕事と家庭、仕事と育児の両立』、第143回秋期大会では「キャリア形成～継続により開ける未来」をテーマに講演が行われ、活発な質疑応答が行われました。

【女子中高生夏の学校(夏学)への参加】

4度目の夏学参加となった2022年は、オンライン・キャリア座談会に参加し、女子中高生に軽

金属分野の最先端の技術や必要となる基礎知識の他、軽金属分野の研究者や技術者のライフスタイルを紹介し、理工系キャリア教育の実施に貢献しました。また、日本金属学会・日本鉄鋼協会と共同でオンライン実験に参加しました。2023年度も引き続き参加を予定しています。

【女性会員の会の開催】

女性会員相互の親睦と情報交換を通じて、女性研究者・技術者が能力を十分に発揮できる環境づくりを目的として、第142回春期大会・第143回秋期大会中に開催され、様々な意見交換がなされました。第143回ではハイブリッド形式での開催が実現し、3年ぶりの対面再会を喜ぶ声の方々があがりました。

【アンケート実施】

春秋講演大会中に実施される様々な男女共同参画イベントに関し、会員アンケートの実施を開始しました(第142回春期大会より)。アンケート結果を分析し、今後の委員会活動や男女共同参画イベントに反映させる予定です。

その他、講演大会中の託児室設置・運用に関する規程の見直しや、また、内閣府男女共同参画局の「理工チャレンジ」への登録、2009年に制定した「軽金属女性未来賞」推薦などの活動を行いました。

3. 女性会員比率

男女共同参画活動を推進してきた結果、当該調査を開始した2002年の軽金属学会の女性会員比率(1.5%)は徐々に増加し、2022年4月現在は6.3%まで向上しました。特に、正会員の女性比率は昨年より約2%増加しています。今後とも会員の声を拾い上げて女性会員の増加を目指し、男女共同参画に勤めます。

公益社団法人日本水産学会 活動報告
公益社団法人 日本水産学会 男女共同参画推進委員会

Activity Report of the Japanese Society of Fisheries Science

The Japanese Society of Fisheries Science

(4-5-7 Konan, Minato-ku, Tokyo 108-8477, TEL/FAX 03-3471-2165, e-mail: fishsci@d1.dion.ne.jp)

Abstract: The Japanese Society of Fisheries Science (JSFS) was established in 1932 and is a non-profit registered charity, dedicated to the promotion of all aspects of fisheries science. 2,957 members belong to the society and 432 of them are women. The committee on gender equality was set up and the activity was started in 2012. This is an annual report of JSFS activities related to promotion of equal participation of men and women until September 2023.

＜日本水産学会の概要＞

日本水産学会は、水産学に関する学理および応用の研究についての発表、連絡、知識の交換、情報の提供などを行う場となることにより、水産学に関する研究の進歩・普及を図り、学術の発展に寄与することを目的として1932年に設立された。2011年3月1日には公益社団法人として認定され、2023年における会員（名誉会員、正会員、団体会員、賛助会員、外国会員および学生会員）の総数は3,160名であり、個人会員2,957名のうち女性は432名、学生会員373名のうち女性は123名である。国内はもとより、諸外国からも水産系の最も充実した学会として認められている。男女共同参画学協会連絡会へは、2011年度に正式加盟が承認され、2012年3月に男女共同参画推進委員会が発足した。

＜男女共同参画に関する取り組み＞

これまでに、①学会大会開催期間中における託児所の設置、②日本水産学会誌における女性研究者からの話題提供（2010年7月号～、隔月、「水産科学の分野で活躍する女性たち」）などを行ってきた。2019年以降における主な活動内容は以下のとおりである。

2019.3.26-29 日本水産学会春季大会において、大規模アンケートの結果のダイジェスト版をクリアファイルで配布

2019.3.29 日本水産学会春季大会において、男女共同参画推進委員会談話会「水産学会におけるやさしい男女共同参画」を開催

2023.3.29 日本水産学会春季大会において、男女共同参画推進委員会談話会「無意識のバイアスに気づくために」を開催

2023.9.21 日本水産学会秋季大会において、男女共同参画推進委員会談話会「東北大学におけるダイバーシティ推進～皆が輝ける大学を目指して～」を開催予定

なお、日本水産学会の全委員会委員数（延べ）292名のうち女性は22名で（特別委員会は除く）、役

員23名のうち女性は2名である。引き続き水産分野における男女共同参画推進についての質的な問題点の整理を当面の目標としている。

＜学会の活動＞

【大会の開催】 年2回（春季・秋季）開催される大会では、研究発表、シンポジウム、会員交歓会等が行われる。水産学関連の学会の中でも最も規模が大きく、この分野の中核をなす集会であり、周辺分野を含めた水産関連の最新の情報を得ることができる。

【支部の活動】 各地域の水産業との連携を強めるため、北海道、東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州の7支部を設け、研究発表会、講演会、見学会等の地域に根ざした催しを開催している。

【学会誌の刊行】 和文学術論文と各種の情報を掲載した「日本水産学会誌」、英文学術論文を掲載した「Fisheries Science」を年6回ずつ発行している。

【学術図書の刊行】 最新の進歩を記述した単行本「水産学シリーズ」、水産に関する様々な知識や情報を一般向けにわかりやすく提供する「ベルソブックス」、水産の技術的解説ノートなどを論文にした「水産技術」の監修を行っている。

【産業界との連携】 産業界と学会を有機的に結びつけることを目的に、水産環境保全、漁業、水産利用、水産増殖、の4分野について懇話会等を開催し、産業界との連携を図っている。

【他の学術団体等との連携】 日本農学会に所属し国内の学協会等との連携を図るとともに、外国の諸学会との間に学術交流協定を締結し、国内外との交流を積極的に進めている（国内：日本農学会・男女共同参画学協会連絡会・日本技術者教育認定機構など、海外：世界水産学協議会・アメリカ水産学会・イギリス諸島水産学会・韓国水産科学会・中国水産学会・アジア水産学会等）。

日本生化学会 男女共同参画活動報告(2022)

日本生化学会 (二木史朗・京都大学化学研究所・futaki@scl.kyoto-u.ac.jp)

Annual Report on the Activities for the Gender Equality Committee in the Japanese Biochemical Society (2022)

The Japanese Biochemical Society

(Shiroh Futaki・Institute for Chemical Research, Kyoto University・futaki@scl.kyoto-u.ac.jp)

The Japanese Biochemical Society (JBS) was established in 1925, and joined to the Japan Medical Society in 1926. The aim of JBS is to promote the exchange of information and stimulate discussion and collaboration among biochemists, and to provide a forum and meetings for scientists covering all aspects of biochemistry. The society has made every effort for maintaining a policy of gender equality and conducted it in various activities. In the following, we report the activities conducted by the Committee for Promotion for Gender Equality of the society during last year.

1. 日本生化学会について

日本生化学会は大正14年(1925年)に創立され、大正15年(1926年)に日本医学会に加盟しています。学会員は約7,600名で、日本語雑誌「生化学」を年6回、英文誌「The Journal of Biochemistry」を年12回発行しています。

個人会員数のうち、女性会員が38%の割合を示しており、女性会員比率はここ10年弱で25%ほど増加しています。男女共同参画推進への取り組みとしては、2003年に正式加盟学会となり、現在はオブザーバー会員です。学会内では、2005年に男女共同参画委員会を正式に発足し、2007年に第1回目の男女共同参画ランチョンセミナーを開催しました。それ以降、毎年学会大会においてランチョンワークショップを開催し、継続的な男女共同参画活動を進めています。

2. 活動報告

(1) 大会でのワークショップの開催

2022年度の第95回日本生化学会大会の学会企画として、本会男女共同参画推進委員企画ワークショップを開催しました。

「To be PI or non PI, that should be a question」をテーマに、白壁恭子先生(立命館大学)、北爪しのぶ先生(福島県立医科大学)、梅津太紀氏(文部科学省)をパネラーとし、下記の内容にて聴衆参加型パネルディスカッションを行いました。

<概要>

研究者が責任を担うということはどのようなことでしょうか? 「PI(principle investigator)になる」ことだと考える方もおられるかもしれませんが、女性PI数人に率直な意見を聞いてみましたが「安易に女性研究者にPIを勧められない」と言う方がいらっしました。子育てや介護など、背負うものが大きすぎるというのがその理由です。そして解決策の一つとして、non PIとして継続的に(=任期なしで)研究に関われる仕組みがあれば、柔軟に働けるのではという意見もありました。確かに「non PIとして継続的に研究に関われる仕組み」というのは、女性だけでなく男性研究者にとっても働きやすく、望ましい仕組みかもしれません。ただその一方で、non PIで継続的に働けてしまうと、本来PIとして活躍できる人材がPIを目指さないという弊害も生まれるかもしれません。まさに「To be PI or non PI, that should be a question」が今回のテーマです。

(2) 理事者の男女比率

本会では2年に1度、代議員選挙が執り行われ、その中から執行部役員を選出しています。会員の学生の女性比率は47%ですが、代議員では28%、評議員に至っては10%となっており、理事会の施策として、理事の女性枠の開設や女性の評議員推薦を促す取り組みを行っています。

2022年度ダイバーシティ推進委員会の活動報告

日本痛風・尿酸核酸学会(金子希代子・帝京平成大学薬学部)

Activity Report of Diversity Promotion Committee of the Japanese Society of Gout and Uric & Nucleic Acids

Japanese Society of Gout and Uric & Nucleic Acids (Kiyoko Kaneko・Teikyo Heisei University)

Abstract: Japanese Society of Gout and Uric & Nucleic Acids consist of the specialist in gout and uric acid research. The number of this society members in September 2023 is 549. We launched a diversity promotion committee of the society in February 2021. And our society was registered in 2021 as an observer society of the Japan inter-society liaison association committee for promoting equal participation of men and women in science and engineering.

日本痛風・尿酸核酸学会は、2021年、男女共同参画学協会連絡会のオブザーバー学会として入会しました。学会員中の女性の数は100名に満たず、理事3名、評議員3名ですが、2020年にダイバーシティ推進委員会が発足し、委員会活動は今年で4年目になります。

当学会は、名前の通り、痛風や尿酸の専門家が集まっている学会です。近年、尿酸値の高い状態は、痛風だけでなく、高血圧や心血管疾患と関係があることがわかり、2020年10月に閣議決定された「循環器病対策推進基本計画」では、脳卒中、心臓病その他の循環器病に至る生活習慣病として、高血圧症、脂質異常症、糖尿病、慢性腎臓病と並んで、高尿酸血症が記載されました。

会員数は、2023年9月現在、549名。プリン代謝、尿酸代謝を研究する基礎の研究者と、痛風・高尿酸血症と関連する病態を研究する臨床の医師や管理栄養士で構成されていて、基礎と臨床がほぼ同数になります。

本学会の歴史は古く、昭和52年(1977年)に第1回尿酸研究会として発足し、次回の2024年2月が第57回目の総会となります。国際的に評価されている学会員の研究内容としては、腎臓と腸管における尿酸トランスポーターの発見、GWASによる痛風関連遺伝子の同定、などがあります。大きい学会ではありませんが、最先端の手法を駆使した研究が行われています。

昨年度(2022年度)の当学会ダイバーシティ推進委員会の活動報告として、

(1) 学会総会におけるシンポジウムの開催。当学会の若手委員会と交代でシンポジウムを担当し

ています。2023年2月に開催された第56回学会総会では『多職種で取り組む痛風・高尿酸血症の治療』のテーマのもと、実際に臨床に携わる医師、看護師、管理栄養士、健康指導士から学会員の研鑽となる講演をいただきました。

(2) 学会員および学会総会参加者を対象にしたニーズ調査アンケートの実施。アンケートは毎年実施しており、今回は72名(会員49名、非会員23名)から回答があり、学会開催方式や開催日、託児室の設置について希望を受け、学会執行部や次期総会会長に報告しています。

(3) 昨年度のニーズ調査を受けて、初めて2023年2月の学会総会時に託児室を設置しました。託児をお願いする業者の選定にあたり、本協議会を通して、多くの学協会の方から貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。当学会は東方向と西方向で順番に開催しているため、全国規模で託児を受け付けているアルファコーポレーションにお願いして大変好評だったことを、この場でご報告させていただきます。

今後も学会員のニーズを反映できるよう努めていきたいと思っています。

日本痛風・尿酸核酸学会
ダイバーシティ推進委員会委員長 金子希代子
帝京平成大学 薬学部 教授



日本地質学会におけるEDI (Equity, Diversity, and Inclusion)ロゴおよび、 ECS(Early Career Scientist)ロゴの付与活動について

日本地質学会・ジェンダー・ダイバーシティ委員会(堀 利栄・愛媛大学・hori.rie.mm@ehime-u.ac.jp)

EDI (Equity, Diversity, and Inclusion) and ECS (Early Career Scientist) Logos at the Geological Society of Japan annual meeting *Gender and Diversity committee of the Geological Society of Japan (Rie S. Hori, Ehime University, hori.rie.mm@ehime-u.ac.jp)*

Abstract: (The Geological Society of Japan (JGS) is aware of the contribution to diversity in the activities of the JGS, and has introduced the diversity certification logo (EDI: Equity, Diversity, and Inclusion logo) and ECS (Early Career Scientist) logo from the 129th Annual Meeting (2022) to support and encourage young researchers who have newly joined the field of geology. The number of applications for the ECS logo was dramatically increased at the 2023 Annual Meeting, but how to provide proactive support is an issue to be addressed.

○日本地質学会では、ダイバーシティ認定ロゴ(DI (Equity, Diversity, and Inclusion logo & ECS (Early Career Scientist) logo)を第129年学術大会(2022年)から導入した。会員減少傾向が続く本会において、若手や留学生等を含めた新規入会者や、多様な会員の積極的な学会活動への支援が必須事項であることを認識し、学会活動におけるダイバーシティ(EDI)への貢献を意識し、地質学分野へ新規参画した若手等の研究者(ECS*^{注1})を学会全体で積極的に支援・応援するために、EDIへの取組みやECS該当者を可視化(「見える化」)し、包括的な支援に繋げることを目的としてこれらのロゴを導入している。導入については、5年をめどに評価検証を行う予定である。

○EDIロゴについて：学術大会のセッションにおけるダイバーシティ度を明示するもので、以下の条件を満たすセッションに付与されている。

- ◆ 世話人が**複数の性別**で構成されている。
- ◆ 世話人にECS (Early Career Scientist)が含まれる。
- ◆ **多様な国籍**(2国籍以上)の世話人構成または発表者。

EDIロゴについては、第129回学術大会では、7件の申請が、第130回学術大会では6件の申請があった。セッションの数が減少した中で、同数程の申請があったのは評価できるが、活動内容や趣旨が会員へ十分周知されていないことが反省点としてあげられる。

○ECS ロゴについて：

この取組におけるECS
は、学生・院生、また



PDの場合は博士号取得後7年以内(ただし公私事由によるキャリア中断年数の加算可)の方で、年齢を問わず、自己申請で学会HPからロゴ使用を申請できるようにしている。学会講演要旨の見出しに表示されるほか、本人氏名の横にも表示される。今回の学術大会では、学会講演申し込みと同時に申請できるようにした為、102名ものECS該当者がロゴ付与を申請した。昨年の18名から大幅増である。しかし利用者からは、ポスターや講演スライドのどこに表示すればよいか例示が欲しいとの意見があり、来年度は改良する予定。



EDI & ECSロゴデザイン：EDIロゴについては、Equity, Diversity and Inclusion の頭文字をデザインしDの文字の中には地質学会を象徴するハンマーが隠されています。学会内の多様性(Diversity)と包摂(Inclusion)を進め、活力のある公正(Equity)な学会の発展を祈って作成されている。

日本コンピュータ外科学会における男女共同参画の取り組み
日本コンピュータ外科学会(山内康司・ダイバーシティ推進委員会委員長・office@jscas.org)

Recent Activity for the Gender Equality
in Japan Society of Computer Aided Surgery (JSCAS)

Japan Society of Computer Aided Surgery
(Yasushi Yamauchi, Diversity Promotion Committee, office@jscas.org)

Abstract: Our recent efforts for gender equality involve a symposium session for young researchers, sharing career experiences and support information. The upcoming "Reform of the Working Styles of Medical Doctors" initiative heavily impacts society members. Thus, our upcoming 32nd Annual Meeting's theme is "Workplace Reform and Computer Aided Surgery," aiming to discuss the role of computer aided surgery in reshaping medical doctors' work styles.

本学会は1992年に設立され、2012年に一般社団法人となった。連絡会加盟2年目となる。今回は本学会の現状を改めて紹介するとともに、この1年の活動を中心に紹介する。

1. 日本コンピュータ外科学会について

一般社団法人日本コンピュータ外科学会 (<https://www.jscas.org>) は外科分野の治療面、特に手術支援に関してコンピュータ技術を基礎にした各種の最先端医療機器やシステムの調査・研究・情報交換を行うことを目的として活動を行っている学会である。現在の調査研究課題は各種医用画像の再構成像を基にした術前診断・手術計画・手術シミュレーション、術中使用を目的とする各種治療診断機器、治療支援ロボット、術後の経過観察支援システムなどといった手術全般にわたって支援を行う Computer Aided Surgery (CAS) システムという概念に総合される。

年1回の学術集会と論文誌発行が主な活動であるが、コロナ禍を経て近年ではオンラインのシンポジウム Frontiers of CAS Symposium も開催している。

2. 日本コンピュータ外科学会の現状

本学会の会員数は660名であり、うち女性会員は45名(約7%)である(2021年度)。2008年時点では4%弱であり、微増傾向にある。理事構成について、2013年に初めての女性理事が誕生し、現在は25名中3名が女性である。会員及び理事に占める女性割合の成果目標(KPI)は現在のところ設けていない。

本学会は医学系(特に外科系)と工学系の学会員から構成される、学際融合領域にある。それゆえに各学会員は本学会よりも遥かに規模の大きな学会(例:日本外科学会、日本機械学会)を本拠とすることが多い。2021年に連絡会にオブザーバー加盟すると共に、あらたに「ダイバーシティ推進委員会」を設立し、推進することとなった。

3. 男女共同参画に関する近年の活動状況

前述のシンポジウム (Frontiers of CAS Symposium, 2022年11月11・12日、オンライン) において若手セッションを開催した。本学会で活躍する若手研究者2名より自身のキャリア形成と研究のモチベーションについて紹介していただいた。またダイバーシティ推進委員会委員長より各学会の若手支援の現状と大学教員を公募する側から公募情報の読み方などの情報提供を行ったのち、若手・ベテラン双方の意見交換を実施した。

来年度開始の「医師の働き方改革」は本学会会員にも大きな影響があるが、これに関して日本医学会総会において学術展示「スマートな働き方」(2023年4月20～23日)が実施された。本学会もこの展示企画に協力しており、医師の立ち仕事の負担を低減させる装着具「アルケリス」(<https://www.archelis.com>)を紹介した。

第32回学会大会(2023年12月1～3日、鹿児島、<https://jscas32.jp>)の主題は「働き方改革とコンピュータ外科」であり、医師の働き方改革においてコンピュータ外科の果たす役割について議論する予定である。

日本大気化学会における男女共同参画推進の取り組み

日本大気化学会 男女共同参画・人材育成委員会(江口菜穂・九州大学、中山智喜・長崎大学、大畑祥・名古屋大学)

Activities for Gender Equality in the Japan Society of Atmospheric Chemistry

The Japan Society of Atmospheric Chemistry Gender Equality Committee (Nawo Eguchi, Kyushu Univ.; Tomoki Nakayama, Nagasaki Univ.; Sho Ohata, Nagoya Univ.)

The Gender Equality Committee of the Japan Society of Atmospheric Chemistry aims to promote equal participation of men and women and encourage students and young scientists. The Committee has provided nursery support during the annual meetings in spring and autumn to promote both male and female members in childcare to participate in the meetings. We had started to support members who take childcare leave or caregiver leave since last fiscal year. We have provided several opportunities for students and young scientists to interact each other and learn about career development.

1. 学会の概要

日本大気化学会は、対流圏および成層圏の大気化学・大気力学(輸送、物質循環)過程、大気圏と他圏(生物圏など)との相互作用に関する研究を行う研究者の議論・交流の場を提供することを目的とした学会です。1999年1月に前身となる「大気化学研究会」が発足し、2014年1月に「日本大気化学会」に名称が変更され、現在に至っています。会員数はおよそ300名程度と小規模な学会ながら、春季の日本地球惑星科学連合(JpGU)大会における「大気化学」セッションと秋季の大気化学討論会と年2回の学術集会を実施し、学術誌「大気化学研究(Archives of Atmospheric Chemistry Research)」を年に2回程度発行しています。2023年7月から第13期の運営委員会(会長1名、副会長1名(女性が選出)、運営委員11名; 女性比率15%)が学会の運営にあたっています。

2. 男女共同参画・人材育成の取り組み

日本大気化学会では、運営委員会の中に「男女共同参画・人材育成委員会」を設置しています。前々期(第11期)では女性WG、人材育成WGとそれぞれ別々に活動していましたが、第12期から男女共同参画の取り組みと次代を担う学生および若手研究者の人材育成を重要な課題と位置づけ、一つの委員会として活動を行っています。今期は、3名の運営委員、1名の運営委員外委員の計4名体制(男女比1:1)で活動をしていきます。

委員会の取り組みとして、春季と秋季の学術集会に育児中の会員が参加しやすいように集会期間中の保育支援を実施しています。また、集会期間中に女性会員のランチ会を企画し、女性会員同士が年代や立場を越えて自由に交流できる場としています。若手向け企画として、春季のJpGU大会時に学部生を当学会の懇親会に無料で招待し研究者と交流してもらう機会を設け、秋季の討論会時に学生・若手PD向けのキャリアパスにつながる企画を行ってきました。

3. 今期の活動報告(2022/10-2023/09)

前期から、男女共同参画学協会連絡会にオブザーバーとして加入し、男女共同参画推進の取り組みをさらに加速させています。学術集会期間中の保育支援は、コロナ禍で集会がオンライン形式に移行していることもあり、利用する会員はいまありませんでしたが、集会期間中の延長保育についても支援対象とするなど集会の形式によらず会員が利用しやすい制度であることを周知しつつ、今後も支援制度を継続する予定です。今期の新たな取り組みとして、育児や介護等で休業期間があった会員に対し、復職後に休業中の学会活動について学会参加費等の補助を行い、休業期間後の研究・学会活動への復帰を奨励する「休業中会員支援制度」を設けました。また、学生・若手研究者が互いに交流し研究成果の発表などを行う「若手交流会」を、年に数回程度開催する予定です。

日本気象学会 男女共同参画活動報告

公益社団法人 日本気象学会 (担当理事: 高谷康太郎・京都産業大学・8357@netsoc.or.jp)

Annual Report on the Activities for the Gender Equality in the Meteorological Society of Japan

The Meteorological Society of Japan (Koutarou Takaya・Kyoto-Sangyo University・8357@netsoc.or.jp)

The Meteorological Society of Japan (MSJ) was established in 1882 and has contributed to the progress and promotion of meteorology. “Early Career Support and Gender Equality Committee” in MSJ launched in 2012 aims to promote diversity in the fields of meteorology. The committee holds regular meetings for communications among female researchers, and other meetings for the Work-Life Balance (WLB) in the annual meeting of MSJ. We also have been joining “Summer School for junior and senior high school girl students (Natsugaku)” since 2017.

【日本気象学会について】

日本気象学会は、1882年(明治15年)5月に東京気象学会として創立されたのがその発端です。2013年(平成25年)4月1日からは公益社団法人の認定を受け、学問的にも社会的にも貢献するべく活動を続けています。

本会の会員数は、21世紀に入ってから少子高齢化や理系離れなどの影響を受けて減少傾向にあります。2023年(令和5年)8月現在で、一般会員数(個人)は2816名、そのうち女性会員は279名で、女性会員比率は約10%です。若い世代の女性会員比率はこれよりも高い傾向にあります。本会における男女共同参画に関する取り組みは、2010年代に入ってから本格化し、その一環として、2012年度に担当委員会が設置されました。学究活動の自由な発展のためには、多様な年齢・性別が対等に協力し合う環境の実現が重要との観点から、担当委員会は男女共同参画のみならず、若手研究者及び学部・大学院生の人材育成と研究環境の整備にも取り組んでおり、男女共同参画と人材育成を実現すべく、包括的な活動を行なっています。

【男女共同参画に関する取り組み】

・ 女性会員の集い

上記の通り本会において女性会員は少数派であり、孤立しやすい傾向にあるため、その対策として女性会員の集いを開催し、世代を越えた交流や情報交換を実施しています。コロナ禍以前には

年に一回程度の開催でしたが、コロナ禍の間には大会開催時に実施していました。現在は大会の有無・形態に関わらず年に数回程度、定期実施し、女性会員の支援活動を継続しています。

・ ワークライフバランス(WLB)を考える会

ワークライフバランス(WLB)は男女共同参画を実現する上で根幹的課題です。WLBの取り方について、様々な価値観を共有・議論することを目的に、上記の女性会員の集いとは別に、学会開催時にWLBを考える会を開催しています(合同で行う事もあります)。会合では就職活動や結婚、無意識のバイアスなどの議論を重ねています。

・若者世代への働きかけ

日本の理系の女性割合の低さは、日本の男女共同参画社会の実現、及び科学技術力向上の大きな妨げになっているとの認識のもと、女性の理系進出を図る一環として、女子中高生夏の学校への出展を2017年度から行なっています。今年度は、日本惑星科学連合(JpGU)大会の「博士の生活をのぞいてみよう！」セッションに参加し、若者世代への働きかけを継続しています。

【今後の課題】

本会の理事会における女性の割合の低さや、本会の学術活動における講演者・受賞者の女性割合の把握が不十分である事など、早急に取り掛からねばならない問題が山積しています。また一つの学会では活動に限界を感じる事も多く、他学協会との連携も今後の課題です。

提言・要望書WG活動報告～大坪久子先生を偲ぶ～

男女共同参画学協会連絡会 提言・要望書WG

Report of activities by Proposals & Requests Working Group *in memory of Professor Hisako Ohtsubo*

EPMEWSE Proposals & Requests WG

Abstract: The activity of the Working Group is aimed to accelerate Gender Equality/Equity in Japan in STEM researchers. Our proposals to MEXT and CSTI are partly accepted in setting a numerical target of portion of female researchers in the 6th Science and Technology Basic Plan. However, the situation of women in STEM, in particular that of young generations, is not yet improved. Hence we presented two proposals, the one for young non-permanent researchers, and the other for women. They are initiated by Professor Hisako Ohtsubo, the leading member of EPMEWSE, who passed away on the 30th July 2023. We sincerely express our deepest condolences resolving upon the best way to honor her is to achieve promotions of Gender Equality/Equity in Japan in Academia, according to her strong wishes.

本年2023年7月30日、大坪久子先生という大きな支えを、提言・要望書WGは失った。大坪先生にご指導いただき提出した要望書骨子を述べると共に、大坪久子先生のご永眠に対し、私共の哀悼の意を捧げる21期シンポジウム大坪久子先生メモリアルコーナーについても触れたい。

大坪久子先生は1975年九州大学にて学位取得後、ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校、東京大学応用微生物研究所にてご研究を続けられた。男女共同参画学協会連絡会の第4期(日本分子生物学会)副委員長、第7期・第8期の提言・要望書WG長を務められ、提言・要望書WG、日本大学総合科学研究所教授としても男女共同参画推進に関するご活動をなさった。ご逝去の一週間前まで、本年8月に提出する要望書校正をなさっておられた。今日の連絡会は、大坪久子先生によるご指南に負うも

のばかりである。数値に基づいた客観的データを用いて課題を明らかにしてゆく研究者らしい手法、1974年～1982年の在米をきっかけにその後の米国ADVANCEの取組みの紹介を通しての、示唆に富んだ活動方法等を示された。科学技術全般において我が国が沈みつつある現在、女性研究者の地位を改善すべく、私共を常に勇気づけられたのである。私共は大坪先生のご遺志を継ぎ、理解し合える仲間を増やししながら、活動を続けたい。

大坪久子先生が普及にお力を入れられた概念に「無意識のバイアス」がある。版權を連絡会にくださった冊子体「無意識のバイアス」リーフレットと e-learning ツール「SEE BIAS and BLOCK BIAS」、講演スライド等が連絡会ホームページ及びシンポジウムメモリアルコーナーに公開される。

大坪先生が無意識のバイアス活動を開始された経緯は、連絡会ホームページ「無意識のバイアスのコーナーができるまで」に述べられている。「無意識の偏見」でもなく、「アンコンシャスバイアス」でもなく、「無意識のバイアス」という文言によってこそ、この概念が明確化可能と説明しておられた。要約すると

- (1) 無意識という一般的な日本語を使うことにより内容が理解しやすくなる
- (2) 「偏見」や「差別」では「バイアス(bias)」が表すニュアンスを表現しきれない

ということである。



2009年 東京大学退官記念会での(故)大坪久子先生(写真提供:本橋令子氏)

元々のバイアス(bias)という言葉はprejudiceとは異なる意味を持つにも拘らず、biasが最初に偏見と訳されたことに起因する混乱が介在する由であった。

米国ADVANCEの2009年の年会にご参加の際、特に日本と米国の男女共同参画の違いに気づかれたそうである。日本では「男性と女性」の枠組みになるが、米国ではマイノリティやダイバーシティの問題として社会の多様性を維持する国の方針に関わる。従って、日本では両立支援の基盤整備・女性の役割意識や責任意識を変える課題となるために簡単ではない(2013年首都大東京News letterより抜粋)。それでも大坪久子先生は女性を阻むバリア(障壁)をクリアするための様々なヒントを考えてくださり、その一つが無意識のバイアスリーフレットであった。これらは「政府に提出する要望書においては、具体的な仕組みを提案しないと全く効果がない」と何度も繰り返しご指導いただいた内容と通ずるのである。

提言・要望書WGでは大坪久子先生に導かれ、第21期に二種類の要望書を提出した。もう一種類も準備中である。三種類は以下の通りである。

【1】科学技術分野における任期付き研究者の雇用問題解決に向けての要望～若手・氷河期世代研究者の待遇改善が研究力強化につながる
(2022年3月29日～4月30日に実施された雇用問題アンケート調査から)

このアンケートは任期付き職・非常勤職経験者に特化されたものであり、短期間にも拘らず4918名からの回答が得られた。大規模アンケートとの相違点は自由記述者が多数であり、かつ長文の自由記述を含んでいたことである。要望は7項目:

- [1]任期なしポストの拡充
 - [2]任期なしと任期付きポスト間における収入格差、保険加入や年金・退職金等の不平等の解消
 - [3]求職活動の負担軽減
 - [4]非競争的資金(大学運営費交付金など)による安定的な研究費の支給
 - [5]氷河期世代の救済
 - [6]育児のしやすい環境整備
 - [7]ハラスメント防止策の強化
- である。

いずれも我が国の研究力を大幅に活性化するための喫緊の課題であることは言うまでもない。

【2】科学技術系分野における男女共同参画推進に向けての要望: 『戦略』から『実装』への転換～女性研究者登用をイノベーション創出の切り札とするには～

こちらは第5回大規模アンケートから抽出された課題を主に取り扱った。女性研究者における男女格差は配偶者有無、子どもの数、職の都合による別居経験有無の三点に特徴的に現れること、出産・育児等のライフイベントと重なることの多い 30～40 歳代で男女差が生じ、女性は男性よりも約5年以上という大幅な遅れがキャリア形成で生ずること、しかもこの差は、その後も回復せず、さらに子どものいない女性でも格差がある実態を踏まえたものである。要望は4項目である:

- [1]女性研究者の雇用体制・研究費等の申請における年齢制限の大胆な緩和
- [2]任期付き職の任期なし職への定着促進要望
- [3]大学・高専等の高等教育研究機関における女性研究者増加のための積極的は正措置
- [4]大学・高専等の高等教育研究機関における執行部・上位職の女性割合増加及び育成のための積極的は正措置

我が国が研究分野でこそ、人口の半分以上を占める女性が活躍できる国に生まれ変わってもらうには、人事の場での無意識のバイアスに対する払拭が必須である。ポジティブアクションへの反対意見に対し、連絡会が整理した反論を共有し、男女共に前進するために、人事権のある者全員への無意識のバイアスチェックを実現させたい。

【3】旧姓・通称使用に関する実態調査2023

(2023年1月16日～2月19日に実施された旧姓・通称使用アンケートから)

このアンケートは総数2096名(男性1053名、女性1025名を含む)による。特許に戸籍名しか使えない、海外研究活動等の不都合も集めた。選択的夫婦別姓制度が実現されていない国は先進国で日本だけになった。パスポートITチップに旧姓が無い等の問題もある。

これからも性別に依らずに科学研究が進められるよう、皆様に提言・要望活動を支えていただきたい。

[文責 WG委員長 平田典子(日本数学会)]

第5回大規模アンケートWG(英文抄訳)活動報告

男女共同参画学協会連絡会 第5回大規模アンケートWG(英文抄訳)

Report on the 5th Large-Scale Survey Working Group (English Translation)

The Ecological Society of Japan (The 21th committee) (Keiko Miyake · Nagoya Univ. · miyake.keiko@itbm.nagoya-u.ac.jp)

Abstract: The Japan Inter-Society Liaison Association Committee for Promoting Equal Participation of Men and Women in Science and Engineering (EPMEWSE) conducts a large-scale survey roughly every four or five years on gender equality. The aim of this working group is making English report of that large-scale survey. We started this activity in December 2022 and the meetings have been held several times. The final report will have been completed in October of this year.

1. 本ワーキンググループ(WG)について

男女共同参画学協会連絡会では、科学技術 系専門職の分野における男女共同参画について、「技術者・研究者のコミュニティのおかれている現状を把握し、課題を抽出して提言をまとめること」を目的に、概ね4・5年ごとに大規模アンケート調査を実施している。このような定期的な調査により継続的な動向をとらえ、男女共同参画に関連する法律や施策など、時代の動きに即応した意識調査を行うことで、政府事業の効果を検証し、新たな政策提言につなげることを意図している。本WGは、第5回の大規模アンケートの報告書の英文抄訳の作成を担当した。以下に、WGにおける解析・報告書作成の大まかな経過を記す。

2. 解析・報告書作成作業の経過

- ◆WG@Zoom(2022.12.14):運営委員会後にWGメンバーの選出と今後の流れの確認を行った。
- ◆WG@Zoom(2023.2.22):各章のリーダーとともに、作業の方針を確認した。文字数や図表が第4回とほぼ同程度になるように、第5回の日本語版の報告書全体から、抄訳用の日本語原稿(要約・抜粋版)を作成することとした。
- ◆ML(メーリングリスト)(2023.3.8): WGメンバーに作業を依頼し、各章のリーダーを中心に、章ごとに抄訳用の日本語原稿の作成作業を開始した。
- ◆運営委員会@Zoom(2023.3.27): WGメンバーを正式に承認。委員会後に各章担当責任者の

決定と役割分担を再確認した。

- ◆抄訳業者の選定(2023.6.上旬):相見積りみの結果を踏まえて、キャッツテール社に依頼することとした。
- ◆抄訳作業の開始(2023.7):キャッツテール社に翻訳作業を依頼し、抄訳用日本語原稿をもとに翻訳作業を開始した。須藤雄気 前WG委員長(生物物理学会)に総合取りまとめを依頼した。その後、順次、抄訳原稿(初稿)をメーリングリストによるウェブベースで各章のリーダーに送り、確認作業を進めた。
- ◆運営委員会@Zoom(2023.8.30):進捗状況を報告。委員会後に今後のスケジュールと役割分担を確認した。

3. WG 委員(敬称略) (下線は各章の代表者)

平田典子(数学会)、寺田宏(建築学会)、北川尚美(化学工学会・化学会)、藤岡恵子(化学工学会)、大坪久子、荒木喜美(遺伝学会)、原田慶恵、根岸瑠美、須藤雄気(生物物理学会)、小口千明、浜田盛久、阿部なつ江、若狭幸(地球惑星科学連合)、志牟田美佐(生理学会)、小林夏野、佐野幸恵(物理学会)、石田佳子、嶋田弘僧、原田敬美、亀田佳代子、山本直樹(技術士会)、熊谷日登美、裏出令子、恩田真紀、吉永直子(農芸化学会)、三宅恵子、可知直毅(生態学会)、小野弥子(分子生物学会)、岡田往子(原子力学会)、中山榮子(木材学会)、武藤(藤田)愛(バイオインフォマティクス学会) 以上31名
[文責:WG委員長 三宅恵子(日本生態学会)]

ホームページ検討WG活動報告

男女共同参画学協会連絡会 ホームページ検討WG

Report of Activities by Home Page Working Group

EPMEWSE Home Page WG

Abstract: The Japan Inter-Society Liaison Association Committee for Promoting Equal Participation of Men and Women in Science and Engineering (EPMEWSE) has been actively working for gender equality in STEM in Japan through large-scale surveys, proposals and requests to the Cabinet Office, and other initiatives, since its establishment in 2002. Information about our activities and their outcomes have been presented on the association's website. The glossary of terms about unconscious bias was added on the page "Unconscious Bias Corner". In addition, we responded to requests from some organizations, including universities, regarding the "Unconscious Bias Corner".

<概要>

男女共同参画学協会連絡会は2002年発足以来、大規模アンケートや提言・要望など様々な活動を展開し、その取り組みをホームページで発信してきた。2020年11月1日の法人化に伴ってリニューアルし、新設した「無意識のバイアスのコーナー」のバイアスに関するライブラリーリストを更新した。さらに、「無意識のバイアスのコーナー」に関して寄せられた大学等からの依頼に対応した。

<主な活動>

1. 無意識のバイアスの関連する書籍等のリストを更新した。

2. 東京大学男女共同参画室からリーフレットの学内使用の許可申し出があり、そのままの様式で印刷していただいた。

3. 無意識のバイアスをテーマにした以下の出張セミナーを実施した。

- ・ 2022年9月14日(水)日本遺伝学会第94回大会 男女共同参画フォーラム「男も女も無意識のバイアスだらけ。あなたの何気ない認識、それでいいですか？」にて講演「男女共同参画を妨げる見えない壁ー無意識のバイアスーを知る」裏出令子
- ・ 2022年10月26日(水)大阪公立大学 アンコンシャス・バイアス研修にて講演「Fix the Women から Fix the System へー 無意識のバイアスと大学の未来」大坪久子
- ・ 2022年10月29日(土)比較内分泌学会 男女共同参画セミナー「無意識のバイアスを克服するために」にて講演「外してみませんか！ 無意識のバイアスの色眼鏡」大坪久子・裏出令子
- ・ 2022年11月24日(木)立命館大学大学院 経営管理研究科 アンコンシャスバイアス研修にて講演「概要」大坪久子
- ・ 2023年2月13日(月)東北大学大学院 工学研究科等 無意識のバイアスに関する研修 第

一部にて講演「無意識のバイアスと大学の未来」大坪久子

- ・ 2023年3月4日(土)日本化学会 第23回男女共同参画シンポジウム「日本の科学技術力強化のためにすべきこと」にて講演「なぜ、我が国の女性研究者は増えないのか？ー人事の問題ー」裏出令子
 - ・ 2023年3月9日(木)京都大学大学院 農学研究科 人権に関する研修会にて講演「無意識のバイアスとダイバーシティ」裏出令子
 - ・ 2023年3月14日(火)日本生理学会 第100回記念大会シンポジウムにて講演「研究者社会における男女共同参画の実態と意識の20年間の変遷」志牟田美佐、「無意識のバイアスのフィルターを外してみよう！」大坪久子・裏出令子
 - ・ 2023年3月20日(月)京都大学防災研究所 ジェンダー平等講習会にて講演「科学技術研究分野においてダイバーシティを妨げる無意識のバイアスとは」裏出令子
 - ・ 2023年3月29日(水)日本水産学会 シンポジウムにて講演「無意識のバイアスに気づくために」大坪久子
 - ・ 2023年6月13日(火)福島県立医科大学 ダイバーシティ推進員研修会にて講演「大学における無意識のバイアスとダイバーシティ」裏出令子
 - ・ 2023年9月21日(木)京都大学 iPS細胞研究所 ダイバーシティ推進講演会にて講演「ダイバーシティを妨げる無意識のバイアスとは」裏出令子
4. 講演に寄せられた質問に対する回答「Q&A」を更新した。

(文責:ホームページ検討WG 裏出令子)

「夏学」～2023女子中高生夏の学校～

女子中高生理系進路選択支援ワーキンググループ

“NATU-GAKU”-2023 Summer School for High School Girls

Promotion of Science and Engineering Education Working Group

The members of Promotion of Science and Engineering Education Working Group joined to the driving committee of “NATU-GAKU”, a three-day summer school for high school girls, supported by STEM Career Path Project for Girls(GSTEM-CPP). In Natsu-gaku's plan, the participants are school girls and the staffs are scientists and engineers from academia and industry, school teachers and university students. The programs in Natsu-gaku are supported by academic societies, companies and industrial organizations. The 2023 Natsu-gaku ONSITE was held on 5th to 7th of August.

(4年ぶりのオンサイト開催)

2005年を初回とする女子中高生夏の学校(夏学)は、今年で19回目を迎えます。連絡会女子中高生理系進路選択WGは夏学実行委員会に委員として参加します。本年は、8月5日～7日の3日間、国立女性教育会館(NWEC)において実施し、女子中高生258名の応募があり、104名の受け入れを採択しました。コンセプトは「科学・技術・人との出会い」とし、実行委員長に稲城玲子氏(日本腎臓学会)、2名の学生企画委員長に仙谷颯季氏(東京工業大学)、中村樹氏(津田塾大学)、学生企画委員を含む学生TA総数26名が参加しました。過去に共同主催であったNWECが事業脱離後、オンサイトではじめての夏学、事務局も実行委員会(WG)が担当し、連絡会全面支援のもと、夏学継続を目指して設立されたNPO GSTEM-CPP(代表永合由美子氏)を主催とした実行委員会(WG)の三年目となりました。連絡会加盟団体の全面支援により、15の実験実習と37のポスター&キャリア相談が実現し、幅の広い理工系分野と多様なロールモデルを紹介する夏学は、唯一無二のキャリアイベントとしオンサイトの再開となりました。

(スケジュール)

<第1日 8月5日(土)>

開校式(13:00～13:15)

◆キャリア講演(13:45～15:00)、魅力的な科学・技術の研究や開発を行っている方から、現在の生活や仕事のことなど理工系進路の魅力についてお話を伺い、将来理工系で学ぶこと、働くことの意義や理工系進路の多様性について考えてみる。「創造する未来」(ビデオレター)東京大学総長 藤井 輝夫、「名前のない仕事を創る『工学』」田島理奈設計事務所 主宰 田島 理奈、「金融インフラをささえ、市場を創る仕事 — 理系としての経験を活かす」株式会社

東京証券取引所 カーボン・クレジット市場整備室
課長 川久保 佐記

◆学生企画「あつまれリケジョの森」(15:15～16:15)、「仲間と解く!サイエンスクイズ」(17:00～18:00)、「talk,talk,talk!!」(19:00～20:00)

<第2日 8月6日(日)>

◆実験・演習「ミニ科学者になろう」(9:00～11:30)これから実験・実習の世界に入っていきます。皆さんが参加する実験・実習には、どんなことが待ち受けているのでしょうか?さあ!新しい実験・実習の世界へ冒険だ!! ◆ポスター展示・キャリア相談「研究者・技術者と話そう」(13:00～14:55)、◆進路・キャリアカフェ(15:10～16:25)普段は話せないような科学者や大学生と出会う交流の場所です。◆学生企画「夢を形に～未来予想図を作ろう～」(16:45～17:30、18:45～20:00)。

<第3日 8月7日(月)>

◆学生企画「夢を形に～未来予想図を作ろう～」発表会(9:00～10:55)、「花が咲く」ラップアップ、閉校式(12:00～12:15)

(夏学を知る)夏学を知るためには、夏学ホームページ、<http://natsugaku.jp/>、NPO 法人女子中高生理系キャリアパスプロジェクトホームページ、<https://www.gstem-cpp.or.jp/>、をご覧ください。

(問い合わせ)

森義仁(日本化学会), mori.yoshihito@ocha.ac.jp

今井桂子(日本応用数理学会),

imai@ise.chuo-u.ac.jp

(お礼)今回は一つの試練の年となり、改めて連絡会加盟団体のみなさまの暖かくまた力強い支援のもと、夏学を終了することができました。厚く御礼申し上げます。来々2004年は8月10日(土)～12日(月)を予定しております、引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。

広島大学における国際化と地域貢献のための女性研究者活躍促進の取組

国立大学法人 広島大学 副学長(ダイバーシティ担当)／男女共同参画推進室長 石田 洋子

E-mail: syokuin-sen@office.hiroshima-u.ac.jp URL: <https://www.hiroshima-u.ac.jp/gender>

Hiroshima University's Globalization and Local Contribution Challenges to Support Women Researchers

*Yoko Ishida, Vice President (Equity, Diversity, Inclusion)
/Director, Gender Equality Promotion Office, Hiroshima University*

Abstract:

Hiroshima University (HU) has committed itself to realizing gender equal environment and to contribute to the achievement of the Sustainable Development Goals (SDGs) Goal 5 "Gender Equality" by valuing suitable balance between work and daily living for all university teachers and staff members and by making various attempts to support women researchers' research activities and leadership, since its announcement of Gender Equality Declaration in 2006. With the JST funding programs, HU has conducted various approaches including establishing a university-based nursery school, providing young female scholar encouragement awards etc. by setting goals with specific targets. HU established Diversity Research Center to carry out research and practices related to diversity in 2016. Various activities for further strengthen gender equality have been implemented since 2017 under the Career Advancement Project for Women Researchers (CAPWR), a JST funding program of "Initiative for Realizing Diversity in the Research Environment (Collaboration Type)," in collaboration with academic/research institutes, local governments, and private companies to further support women researchers with women researchers in STEM field focused. Furthermore, starting in 2021, which is a JST funding program of "Initiative for Realizing Diversity in the Research Environment (Specific Correspondence Type)," Hiroshima University aims to increase the number of female students who aspire to be researchers in the STEM fields by implementing the following three initiatives through this program.

＜本学のこれまでの取組状況＞

広島大学は 2006 年に男女共同参画宣言を表明し、2008 年には男女共同参画担当副理事を配置、男女共同参画推進室を設置して、積極的に男女共同参画の制度整備や活動を展開してきた。

現在は持続可能な開発目標(SDGs)ゴール5「ジェンダー平等」達成への貢献を目指している。具体的には、女性教員採用割合数値目標の決定とその定期的モニタリング、学内保育施設の拡充・増設、育児介護支援、学童保育の実施、病後児保育利用料の補助とキャリア支援担当員の配置、などを通して仕事とライフ・イベントの両立を目指し、働きやすい職場環境の整備に努めている。

女性研究者支援に当たっては、女性研究者奨励賞の授与、既在籍女性教員に対するポストアップや女性限定公募を行うとともに、企業との連携(インターンシップなど)などを展開している。

2016 年にダイバーシティ研究センターを設立し、多様性から新たな価値を創造する研究と実践を進めている。

＜「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ

(牽引型)」による両立支援強化と活用推進＞

広島大学は、2017～2022年度まで文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」の「国際型ダイバーシティ研究環境実現プログラム(CAPWR)」により、共同実施機関であるマツダ(株)、デルタ工業(株)、(一財)国際開発センターと共に大学や研究機関、自治体、民間企業等50機関と協力して、地域における女性研究者活躍支援体制を構築し、現在も活動を継続している。

＜「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特性対応型)」による女性研究者育成＞

2021年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特性対応型)」に採択された「女性科学技術フェローシップ制度の創設による次世代の積極的育成」では、「女性科学技術フェローシップ制度の創設」「女性研究者の研究効率向上」「女性研究者のトランスファラブルな能力向上」の3つの取組を行うことにより、研究者を志す理工系の女性学生を増加させることを目指している。

東京女子医科大学における女性医療人活動支援 東京女子医科大学女性医療人キャリア形成センター(番場嘉子)

Promotion report of Gender equality in Tokyo Women's Medical University

Tokyo Women's Medical University Career Development Center for Medical Professionals (Yoshiko Bamba)

Abstract: Tokyo Women's Medical University (TWMU) is a medical university with modern and sophisticated educational, clinical and research foundations for over one hundred years. Traditionally all of our undergraduate schools, Schools of Medicine and Nursing are devoted to develop women's professions. The uniqueness of TWMU derives from the founder's strong volition to establish women's professions. Her conviction, "sincerity and compassion", enlightens our commitment to medical services and care for our clients. Five clinical institutes provide a wide range of medicine including community-based medicine and highly specialized medicine.

TWMU Career Development Center for Medical Professionals was established in 2017 to replace Gender Equality Promotion Office. The center aims to foster superior women medical professionals with leadership skills and self-confidence needed to lay the path toward a better society.

To achieve these goals, TWMU Career Development Center for Medical Professionals comprises 5 organizations under one umbrella: ①Department for nurturing leaders of women medical professionals, ②Women's Health Care Professionals and Research Support, ③Professional Reentry Support for Women Physicians, ④Career Development Support for Professional Nurses, ⑤Diversity Promotion Office.

<女性医療人キャリア形成センター>

本センターは以下の5部門から構成され、女性医学研究者の勤務継続支援やセーフティネットの提供だけでなく、医療人としてのキャリア形成とその促進、リーダーシップの育成を通じて、より良い社会を作るためにリーダーとして活動する女性医療人を育成する一段上のステージを目指している。

<女性医療人リーダー育成部門>

学祖吉岡彌生先生の精神を受け継ぎ、より良い社会を作るためにリーダーとして活動することを目指す女性医療人のための組織。研究力向上やキャリア形成等、有識者による講演会を通してリーダーに必要な能力・知識を養成している。リーダーとなるには何が必要か、どのように目指す道を見出すのか、どのように行動すべきかを共に考え実践に移していくために個別面談によるキャリア支援、現役教授によるピアラーニングを実施している。

<女性医師・研究者支援部門>

子育てや介護などのライフイベントと診療・教育・研究を両立し、キャリア形成を継続できる環境を整備している。院内保育所やファミリーサポートの運用により成果を挙げている。またライフイベントにより研究時間の確保が困難になった女性医学研究者を支援する研究支援員制度も行っている。

<女性医師再研修部門>

相談者の出身大学を問わず全国から復職相談を受け付け、それぞれの臨床経験や離職期間、家族状況などを考慮し、個々の状況に応じた相談対応を行っている。過去に行ったアンケートでは相談後に離職者が0%になったという結果も出ており、復職支援の成果をあげている。

<看護職キャリア開発支援部門>

キャリアカウンセリング、スキルアップ研修、変革推進能力育成、看護研究推進などを行っている。看護学部・看護専門学校教員と臨床現場の看護職が共同で企画・運営を行い、看護職が生涯にわたり中断することなく成長し続け、仕事を継続できるようになるためのキャリア支援システムの構築と発展を目指している。

<ダイバーシティ環境整備事業推進室>

文科省の補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型)」事業を円滑に進めるために、女性医療人キャリア形成センターの各部門をはじめ、学内委員会、学内研究施設と密に連携し、事業全体をオーガナイズすると共に各部門の活動を多方面からバックアップすることで事業の確実な進捗を図っている。

日本の原子力分野におけるジェンダー・バランス改善に向けて

内閣府 原子力委員会 委員 岡田 往子

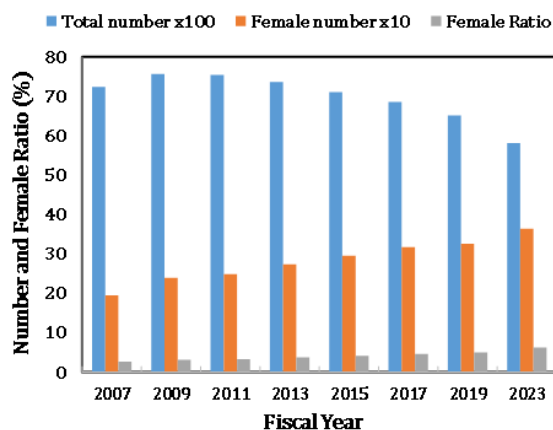
Japan's Movement toward Improved Gender Balance in Nuclear Field

Yukiko OKADA, Commissioner, Japan Atomic Energy Commission, Cabinet Office

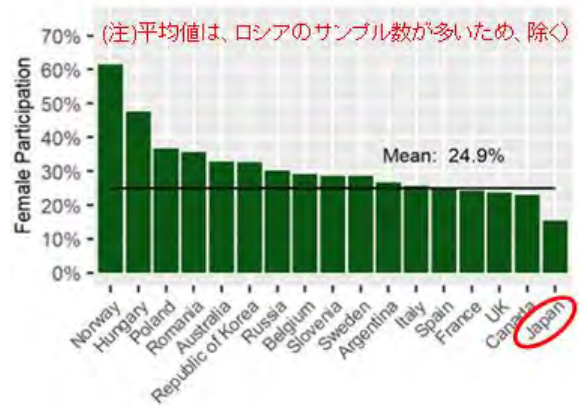
Abstract: As a Japanese female researcher with 40 year experience in the nuclear field, I feel a faint change in gender inequality is coming now. But still, the recent OECD/NEA's survey on women participation showed the global low tone with Japan's percentage of the lowest 15%. The Japan Atomic Energy Commission would like to promote concerted effort to improve the Gender Balance in this field, in line with the OECD Recommendations.

私は日本で原子力分野の研究者として40年間働いてきた。その40年間、日本では男女の不平等をなくそうという動きは感じられなかった。今、日本にかすかな変化が訪れている。

私はここ数年、原子力分野の女子学生数は増えてきていると感じている。日本では、理工系学協会が設立した「男女共同参画推進連絡会」が、科学・技術・工学・数学のSTEM分野における女性研究者比率の向上に取り組んでいる。WiN-Japanという組織が、日本の原子力分野のこの取り組みの中心的な役割を担っており、原子力学会もダイバシティ推進委員会を通じてこの問題に取り組んでいる。原子力学会では、会員総数が減少傾向にある中、女性会員数は徐々に増えており、女性比率は着実に向上しつつある。



一方、経済協力開発機構（OECD）の原子力機関（NEA）が2021年6月から10月にかけて加盟国を対象に実施した調査結果が2023年3月に発表され、原子力分野の女性比率は17カ国平均で25%、日本は15%と17カ国に比べて極端に低かった。



原子力分野の状況に危機感を持ったOECDは、ジェンダー・バランス改善に向けた閣僚理事会勧告をこの6月に採択した。NEAで具体的な取り組み強化に向けた検討が進んでいる。

私たち原子力委員会は、原子力利用の基盤となる人材育成を強化するための基本目標を以下のように定めている。

人材育成においては、多様性を意識し、若年層の女性比率の向上や文系・理系人材の融合を強化することで、研究開発組織や原子力関連事業に多角的な視点を取り入れ、研究開発やイノベーションに適した環境を醸成し、原子力利用の基盤強化を推進する。産業界も、原子力分野の技術にイノベーションをもたらすために早急な取り組みを求めている。

しかし、その女性の数をさらに増やす必要がある。そのためには、原子力分野で働く女性の環境を整えることが重要である。原子力学会やWiN-J以外でも様々な組織や活動がこの問題に取り組んでおり、それぞれを活性化すると共に有機的連携を働きかけ、協調した動きにしていきたい。

男女共同参画学協会連絡会第21期活動報告

幹事学会 一般社団法人 日本生態学会

Report of Activities during the 21st year of the Japan Inter-Society Liaison Association
Committee for Promoting Equal Participation of Men and Women in Science and
Engineering (EPMEWSE)

The 20th secretary office: The Biophysical Society of Japan

This report summarizes our activities during the 21st year (November 2022-October 2023) of EPMEWAE.

■概要

幹事学会：日本生態学会 第21期幹事学会として、2022年11月1日から1年間、本連絡会の運営委員会開催、および事務局運営を担当しました。

[組織]

委員長：半場祐子（代表理事）
副委員長：三宅 恵子（理事）
副委員長：可知 直毅（理事）
委員：Hubert Cheung 堂園 いくみ
藤田 剛 久野 真純 本郷 峻 池本 美都
Firouzeh Javadi 三谷 曜子 満行 知花
谷口 裕美 佐々木 雄大 曾我 昌史 宇
野 裕美
オブザーバ：上野 裕介 木村 恵 高野（竹
中）宏平

[社員総会]

定時社員総会を2022年12月14日にオンライン開催しました。

[運営委員会]

下記3回の運営委員会を、オンライン開催しました。

第1回 2022年12月14日 第2回 2023年3月27日 第3回 2023年8月30日

■主催行事

第21回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムを企画し、下記の後援のもと、2023年10月14日に東京大学弥生講堂一条ホー

ルにおいて開催予定。

【共催】国立大学法人東京大学

【後援】文部科学省・独立行政法人国立女性教育会館・一般社団法人国立大学協会、一般社団法人日本私立大学連盟・内閣府男女共同参画局・厚生労働省、経済産業省、国立研究開発法人科学技術振興機構、日本学術会議

[プログラム概要]

【午前の部】

「男女共同参画活動のさらなる推進に向けて～加盟学会の好事例共有～」

担当：日本生態学会・日本応用数学会

加盟学協会の取組紹介

成川 礼（日本植物学会ダイバーシティー推進委員会）

飯島 玲子（日本技術士会男女共同参画推進委員会）

志牟田 美佐（日本生理学会男女共同参画推進委員会）

【昼の部】

ポスターセッション

【午後の部】

「フィールドワーク分野のダイバーシティとインクルージョン ～誰もが能力を発揮し輝くために～」

宇野 裕美（北海道大学学振特別研究員）

「生態学会員を対象にしたアンケート結果報告」

講演：瀧上 舞（国立科学博物館 研究員）

「アンデス文明研究と多様性」

講演：猪上 淳（国立極地研究所 准教授）

「激変する極域：多様なアプローチの必要性」

講演：北島 薫（京都大学農学研究科 教授）

「米国における女性科学者台頭の半世紀」

パネル討論：パネリスト：瀧上 舞、猪上 淳、北島 薫、宇野 裕美

ファシリテーター：三宅 恵子（名古屋大学 特任講師）

■共催・協賛・後援

共催（1件）：

・日本学術会議学術フォーラム「研究に関する男女共同参画・ダイバーシティの推進」

後援（13件）

- ・国立女性会館令和4年度「女性活躍推進セミナー」「ワーク・ライフバランスを考える～動物学者の取り組みを話そう～」
- ・日本工学会アカデミージェンダー委員会第6回EJジェンダーシンポジウム「デジタル社会における『新しい学び方』」
- ・四国ダイバーシティ推進委員会（徳島大学AWAサポートセンター）四国発信！ダイバーシティ研究環境調和推進プロジェクトシンポジウム2022
- ・日本森林学会日本森林学会第134回大会学会企画シンポジウム「留学・研修を通じて見えてくる多様な価値観や考え方」
- ・日本衛生動物学会第75回日本衛生動物学会大会ダイバーシティ推進委員会企画パネルディスカッション「ダイバーシティがもたらす未来～研究者からの視座～」
- ・日本技術士会第5回D&Iフォーラム「しな

やかにDE&Iに取り組むために～Equityの意義と一歩の踏み出し方～」

- ・日本大学ダイバーシティ推進委員会日本大学ダイバーシティシンポジウムー自らと社会に変革をもたらすためにー
- ・日本科学振興協会日本科学振興協会年次大会2023内のシンポジウム「男女共同参画で、日本の科学をもっと元気に！」
- ・（公社）地盤工学会ダイバーシティ委員会第58回地盤工学研究発表会における一般公開セッション：ダイバーシティ関連基調講演とパネルディスカッション、「サロン・土・カフェW」
- ・日本繁殖生物学会男女共同参画推進委員会第116回日本繁殖生物学会大会男女共同参画推進委員会企画セミナー『インクルーシブな大学に向けて～神戸大学・麻布大学の取り組みを中心に～』
- ・日本動物学会第11期男女共同参画委員会第23回男女共同参画懇談会ワーク・ライフ・バランスを考える～研究と〇〇の両輪の回し方～
- ・日本学術会議第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会女性の活躍推進のためのワークショップ「多様な人材が活躍できる環境を皆で考えよう～ロールモデルとの対話から考える～」
- ・日本育種学会男女共同参画推進委員会日本育種学会第144回講演会におけるランチタイムセミナー「米国での妊娠、出産、育児や大学での支援体制について」

協賛（1件）

- ・日本化学会第23回男女共同参画シンポジウム「日本の化学技術力強化のためにすべきこと」

協力（1件）

- ・一般社団法人関西科学塾コンソーシアム第18回女子中高生のための関西科学塾

■要望書など

・要望書

2件の要望書：科学技術系分野における任期付き研究者の雇用問題解決に向けての要望「若手・氷河期世代研究者の待遇改善が研

究力強化につながる」と、科学技術系分野における男女共同参画推進に向けての要望「『戦略』から『実装』への転換-女性研究者登用をイノベーション創出の切り札とするには」を可決しました。

・第5回科学技術系専門職の男女共同参画実態調査(大規模アンケート)解析報告書の英文抄訳作成

大規模アンケートWGにて、第5回大規模アンケート解析報告書の英文抄訳を作成し、連絡会のホームページに公開予定です。詳細は、第5回大規模アンケートWG(英文抄訳)活動報告(p.85)をご覧ください。

・加盟の承認

オブザーバー学協会2学会を承認しました。
日本ロボット学会、日本時間生物学会

・女性比率調査の実施

例年の調査項目に加えて、年会シンポジウム貢献者・学会賞等受賞者の女性比率を調査することにしました。調査結果は11月にホームページで公開する予定です。

・分担金

第21期はすべての加盟学協会から分担金が納入されました。

・対外活動

内閣府男女共同参画推進連携会議議員として、半場委員長が活動しました。

■謝辞

第21期の活動にあたり、連絡会の内外から多くの方々にお世話になりました。皆様のご指導とご支援に深く感謝申し上げます。

一般社団法人男女共同参画学協会連絡会
定款

令和 2 年 7 月 22 日制定

令和 4 年 3 月 29 日改正

第 1 章 総則

(名称)

- 第 1 条 この法人は、一般社団法人男女共同参画学協会連絡会（以下「本連絡会」という。）とする。
- 2 本連絡会の英語表記は、The Japan Inter-Society Liaison Association Committee for Promoting Equal Participation of Men and Women in Science and Engineering とする。
- 3 本連絡会の略称は、EPMEWSE とする。

(事務所)

- 第 2 条 本連絡会は、主たる事務所を京都市左京区に置く。

第 2 章 目的及び事業

(目的)

- 第 3 条 本連絡会は、学協会間での連携協力を行いながら科学・技術の分野において、女性と男性が共に個性と能力を発揮できる環境づくりとネットワークづくりを行い、社会に貢献することを目的とする。

(事業)

- 第 4 条 本連絡会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
- (1) 男女共同参画事業の企画、運営に関する事業
 - (2) 広報、調査研究、研究発表、情報収集等の活動に関する事業
 - (3) 国内外の学会等との連携事業に関する事業
 - (4) その他、本連絡会の目的を達成するために必要な事業

第 3 章 会員

(法人の構成員)

- 第 5 条 本連絡会に次の会員を置く。

- | | |
|-----------------|--------------------------------------|
| (1) 正式加盟学協会会員 | 本連絡会の目的に賛同する日本国内の科学・技術系学会、協会たる法人及び団体 |
| (2) オブザーバー学協会会員 | 本連絡会の目的に賛同する日本国内の科学・技術系学会、協会たる法人及び団体 |

- (3) 個人会員 本連絡会の一以上のワーキンググループ活動に参加する個人
- (4) 名誉会員 別途定める資格を有し、本会に特に顕著な功績を認められる個人

- 2 前項の正式加盟学協会会員をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の社員とする。
- 3 オブザーバー学協会会員は、有期会員とし、期間の定めは別途定める。
- 4 個人会員は別途定める資格審査を経て、運営委員会で承認する。
- 5 オブザーバー学協会会員、個人会員の活動については別途運営委員会で定める。
- 6 名誉会員の任期およびその活動については別途運営委員会で定める。

(入会)

第 6 条 本連絡会の会員になろうとする者は、別に定める分担金を添えて入会申込書を提出し、運営委員会の承認を得なければならない。

(分担金)

第 7 条 本連絡会の事業活動に経常的に生じる費用に充てるため、会員は、規程において別に定める分担金を支払わなければならない。

- 2 既納の分担金は、いかなる理由があってもこれを返還しない。

(任意退会)

第 8 条 会員は、退会届を運営委員会宛に提出することにより、退会することができる。

2 前項の規定にかかわらず、第9条の規定に該当する恐れのある場合または第10条1号に該当する恐れのある場合は運営委員会の承認を得なければ退会できない。

(除名)

第 9 条 会員が次のいずれかに該当するに至ったときは、総会の決議によって当該会員を除名することができる。

- (1) 本連絡会の名誉を著しく傷つける行為を行った場合。
- (2) 本連絡会の目的を明らかに著しく損なう行為を行った場合。
- (3) その他除名すべき正当な事由があるとき。

(会員資格の喪失)

第 10 条 会員は、次のいずれかに該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

- (1) 第 7 条の分担金の支払義務を 2 年以上履行しなかったとき。
- (2) 正式加盟学協会会員の全員が同意したとき。
- (3) 当該会員が死亡又は解散したとき。

第 4 章 総会

(構成)

第 11 条 総会は、すべての正式加盟学協会会員をもって構成する。

- 2 前項の総会をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の社員総会とする。

(開催)

第 12 条 総会は、定時総会として毎事業年度終了後 3 箇月以内に 1 回開催するほか、必要がある場合に開催する。

(招集)

第 13 条 総会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事の過半数によりその招集事項を決定した上、委員長が招集する。

(議長)

第13条の2 総会の議長は、その総会において出席の正式加盟学協会会員の中から選出する

(議決権)

第 14 条 総会における議決権は、正式加盟学協会会員1 名につき 1 個とする。

(決議)

第 15 条 総会の決議は、議決権の過半数を有する正式加盟学協会会員が出席し、出席した当該正式加盟学協会会員の議決権の過半数をもって行う。

- 2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、総正式加盟学協会会員の半数以上であって、

総正式加盟学協会会員の議決権数の 3 分の 2 以上に当たる多数をもって行う。

(1) 会員の除名

(2) 定款の変更

(3) 解散

(4) その他法令で定められた事項

3 正式加盟学協会会員は、代理人によってその議決権を行使することができる。

4 正式加盟学協会会員は、書面および電磁的方法による議決権の行使ができる。

5 代理人、書面および電磁的方法により議決権を行使した者は、総会の出席者として取り扱う。

(議事録)

第 16 条 総会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 議長及び総会に出席した正式加盟学協会会員より選出された議事録署名人 1 名以上は、前項の議事録に記名押印する。

第5章 役員

(役員の設置)

第 17 条 本連絡会において、理事を設置し、理事のうち 1 名を委員長、2 名を副委員長とする。理事の員数は、3 名以上とする。

2 前項の委員長をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の代表理事とする。

(役員の選任)

第 18 条 理事は、総会の決議によって選任する。

2 委員長は、理事の互選によって選定する。

3 副委員長は、委員長が推薦した上、理事の互選によって選定する。

(理事の職務及び権限)

第 19 条 理事は、法令及びこの定款で定めるところにより、その業務を執行する。

2 委員長は、法令及びこの定款で定めるところにより、本連絡会を代表し、その業務を

執行する。

- 3 副委員長は、委員長を補佐する。

(役員の任期)

第 20 条 理事の任期は、選任後 1 年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時総会の終結の時までとする。

- 2 補欠として選任された理事の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。

- 3 理事は、第 17 条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事としての権利義務を有する。

(役員の解任)

第 21 条 理事は、総会の決議によって解任することができる。

第 6 章 運営委員会

(運営委員会)

第 22 条 本連絡会は、運営委員会を設置する。

- 2 運営委員会は、すべての正式加盟学協会会員をもって構成する。
- 3 本会各規程の改廃は、運営委員会の決議により行うものとする。
- 4 その他、運営委員会に関して必要な事項は、別に定める。

第 7 章 資産及び会計

(事業年度)

第 23 条 本連絡会の事業年度は、毎年 11 月 1 日に始まり翌年 10 月 31 日に終わる。

(事業計画及び収支予算)

第 24 条 本連絡会の事業計画書、収支予算書については、委員長が作成し、総会において承認を受けるものとする。これを変更する場合も、同様とする。

- 2 前項の書類については、主たる事務所に、当該事業年度が終了するまでの間備え置く

ものとする。

(事業報告及び決算)

第 25 条 本連絡会の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、委員長が次の書類を作成し、第 1 号、第 3 号、第 4 号の書類については、定時総会に提出し、第 1 号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については承認を受けなければならない。

(1) 事業報告

(2) 事業報告の附属明細書

(3) 貸借対照表

(4) 損益計算書（正味財産増減計算書）

(5) 貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の附属明細書

(剰余金の分配の禁止)

第 26 条 本連絡会は、剰余金の分配を行うことができない。

第 8 章 定款の変更及び解散

(定款の変更)

第 27 条 この定款は、総会の決議によって変更することができる。

(解散)

第 28 条 本連絡会は、総会の決議その他法令で定められた事由により解散する。

(残余財産の帰属)

第 29 条 本連絡会が清算をする場合において有する残余財産は、総会の決議を経て、公益社団法人若しくは公益財団法人又は公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第 5 条第 17 号イからトまでに掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与し帰属させるものとする。

第 9 章 公告の方法

(公告の方法)

第 30 条 本連絡会の公告は、主たる事務所の公衆の見やすい場所に掲示する方法により行う。

附則 令和 2 年 8 月 7 日設立登記

附則 この改正は総会で議決された日（令和4年3月29日）から施行する。



男女共同参画
学協会連絡会

一般社団法人

男女共同参画学協会連絡会

設置目的

学協会間での連携協力を行いながら、科学技術の分野において、女性と男性がともに個性と能力を発揮できる環境づくりとネットワーク作りを行い、社会に貢献することを目的とする。

【行政】

1999年6月：男女共同参画社会基本法」公布・施行

2000年6月：内閣府男女共同参画推進本部主催「男女共同参画社会づくりに向けての
、会議」開催（シンポジウム「科学の進捗と男女共同参画」

2000年12月：男女共同参画基本計画」閣議決定

【日本学術会議】

2000年6月：「女性科学者の環境改善の具体的措置について」の要望及び
「日本学術会議における男女共同参画の推進について」の声明が採択



2002年7月：男女共同参画学協会連絡会準備会開催

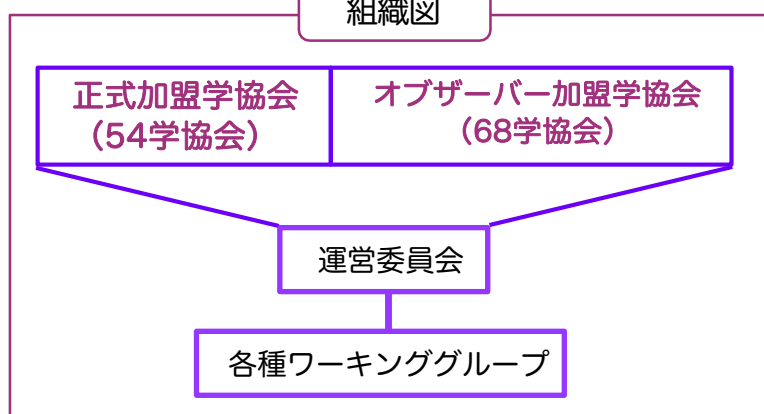
2002年10月7日：男女共同参画学協会連絡会設立集会

14学協会（化学工学会、高分子学会、日本宇宙生物科学会、日本植物生理学会、
日本数学会、日本生物物理学会、日本生理学会、日本天文学会、日本分子生物学会、
日本動物学会、日本化学会、日本女性科学者の会、日本物理学会、応用物理学会）

2020年8月7日：一般社団法人へ移行

正式加盟 54学協会、オブザーバー加盟 57学協会

組織図



主な活動

大規模アンケート
シンポジウム
加盟学会の活動調査
要望・提言
女子中高生の理系選択支援

連絡先

男女共同参画学協会連絡会 第21期幹事学協会（一般社団法人日本生態学会）
第21期事務局アドレス danjo_office21@djrenrakukai.org

正式加盟学協会 (54学協会)

化学工学会, 高分子学会, 日本宇宙生物科学学会, 日本化学会, 日本原子力学会, 日本女性科学者の会, 日本植物生理学会, 日本数学会, 日本生態学会, 日本生物物理学会, 日本生理学会, 日本蛋白質科学会, 日本動物学会, 日本比較内分泌学会, 日本物理学会, 日本森林学会, 地球電磁気・地球惑星圏学会, 日本神経科学学会, 日本バイオイメーjing学会, 日本糖質学会, 日本育種学会, 日本結晶学会, 日本地球惑星科学連合, 日本繁殖生物学会, 生態工学会, 錯体化学会, 日本進化学会, 日本遺伝学会, 日本建築学会, 種生物学会, 日本獣医学会, 日本質鑑分析学会, 日本魚類学会, 日本畜産学会, 日本木材学会, 日本技術士会, 日本植物学会, 園芸学会, 日本農芸化学会, 日本解剖学会, 日本中性子科学会, 「野生生物と社会」学会, 計測自動制御学会, 日本体力医学会, 日本熱帯医学会, 日本応用数理学会, 日本衛生学会, 日本健康学会, 日本内分泌学会, 日本 際保健医療学会, 日本海洋学会, 日本地形学連合, 日本熱帯生態学会, 日本加速器学会

オブザーバー加盟学協会 (68学協会)

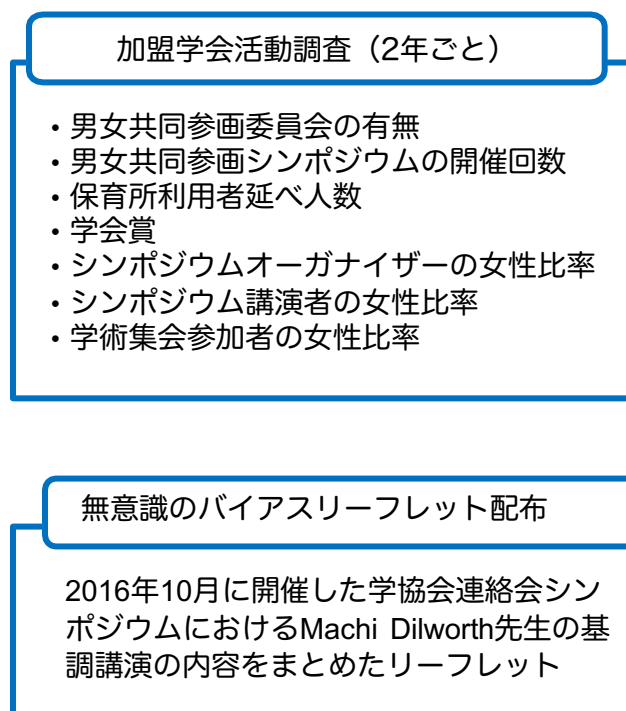
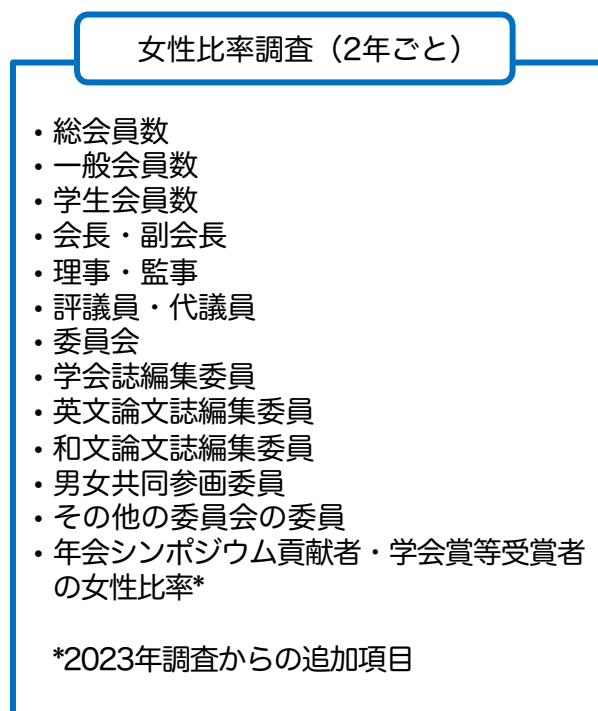
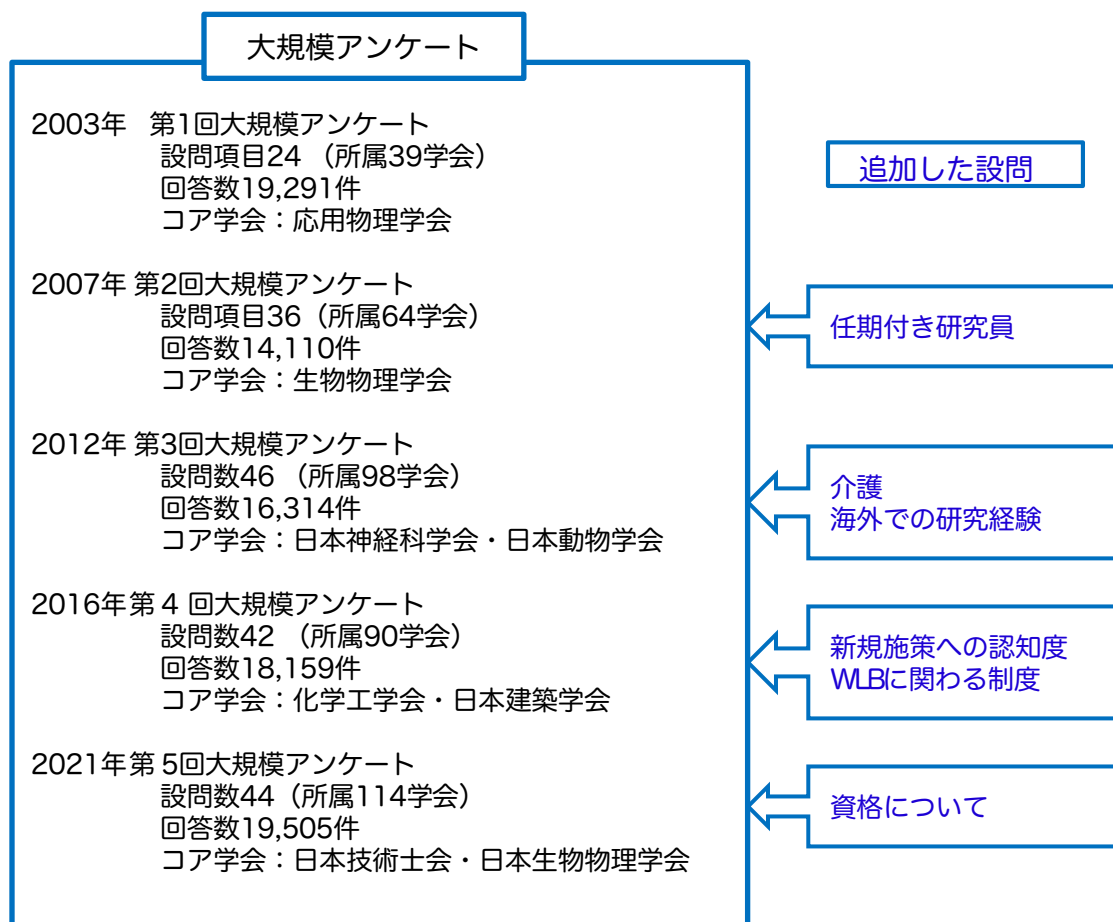
映像情報メディア学会, 自動車技術会, 精密工学会, 地盤工学会, 電気化学会, 日本データベース学会, 日本液晶学会, 日本磁気学会, 日本火災学会, 日本機械学会, 日本金属学会, 日本女性技術者フォーラム, 日本鉄鋼協会, 日本分析化学会, 土木学会, 石油学会, 日本科学者会議, 日本バイオイノフォーマティクス学会, 日本水産増殖学会, 日本表面真空学会, 日本鳥学会, 日本放射光学会, 歯科基礎医学会, 日本セラミックス協会, 植物化学調節学会, 日本天文学会, 日本植物バイオテクノロジー学会, 日本組織細胞化学会, 応用物理学会, 日本流体力学会, 電子情報通信学会, プラズマ・核融合学会, 日本数式処理学会, 日本植物病理学会, 日本発生生物学会, 日本蚕糸学会, 日本霊長類学会, 日本土壌肥料学会, 日本放射線影響学会, 日本DNA多型学会, 日本食品科学工学会, 日本腎臓学会, 日本葉学会, 日本脂質栄養学会, 軽金属学会, 日本科学教育学会, 日本航空宇宙学会, 日本衛生動物学会, 日本分子生物学会, 日本神経化学会, 日本燃焼学会, 環境ホルモン学会, 日本高血圧学会, 日本水産学会, 情報処理学会, 日本生化学会, 日本魚病学会, 日本③彌・も劇核刺学会, 日本地質学会, 日本コンピュータ外科学会, 日本大気化学会, 日本地球化学会, 日本統計学会, 日本気象学会, 有機合成化学協会, 日本ロボット学会, 日本時間生物学会

幹事学会 (1年ごと)

第1期：応用物理学会
第2期：日本物理学会
第3期：日本化学会, 日本原子力学会
第4期：日本分子生物学会
第5期：日本生物物理学会
第6期：日本地球惑星科学連合
第7期：電子情報通信学会
第8期：高分子学会
第9期：日本宇宙生物科学学会・生態工学会
第10期：日本生理学会
第11期：日本動物学会
第12期：日本数学会
第13期：日本植物生理学会・日本植物学会
第14期：日本生化学会
第15期：化学工学会
第16期：日本建築学会
第17期：日本物理学会
第18期：日本農芸化学会
第19期：日本技術士会
第20期：日本生物物理学会
第21期：日本生態学会

幹事学会の主な仕事

- ・リエゾンメールの配信 (約600名)
- ・運営委員会 (年3回) の開催
- ・シンポジウム (年1回) の開催
- ・ホームページ管理
- ・分担金の徴収
- ・女性比率調査 or 加盟学会活動調査
- ・大規模アンケート項目決め or 大規模アンケート実施 or 大規模アンケート解析 or 大規模アンケート英訳 or 提言・要望活動



シンポジウム

- 設立記念集会(2002,東京)
- 1周年記念シンポジウム(2003,東京) 「男女が共に生きる社会」
- 2周年記念シンポジウム(2004,東京)
「多様化する科学技術研究者の理想像：学協会アンケートが示すもの」
- 3周年記念シンポジウム(2005,東京) 「21世紀の産業を拓く男女共同参画社会」
- 第4回シンポジウム(2006,東京) 「育て、女性研究者!!理工系女性研究者支援の新しい波」
- 第5回シンポジウム(2007,愛知) 「真の男女共同参画へ向けて意識を変えよう！」
- 第6回シンポジウム(2008,京都)
「科学・技術の成熟と新たな創造をめざして～第二回連絡会アンケート調査報告から学ぶもの～」
- 第7回シンポジウム(2009,東京) 「持続可能社会と男女共同参画」
- 第8回シンポジウム(2010,埼玉) 「男女共同参画と社会」
- 第9回シンポジウム(2011,茨城) 「今、社会が科学者に求めることーソーシャル・ウィッシュュ」
- 第10回シンポジウム(2012,東京) 「科学・技術における性差」
- 第11回シンポジウム(2013,東京) 「多様性尊重社会を目指してー第3回大規模アンケート結果報告よりー」
- 第12回シンポジウム(2014,東京)
「女性研究者・技術者を育む土壌～連携・融合による支援をめざして～」
- 第13回シンポジウム(2015,東京) 「国際的な視点から見た男女共同参画の推進」
- 第14回シンポジウム(2016,東京)
「国際的にみて日本の研究者における女性割合はなぜ伸びないのか？」
- 第15回シンポジウム(2017,東京) 「ダイバーシティ推進における産学の取り組み」
- 第16回シンポジウム(2018,東京) 「今なお男女共同参画をはばむもの新たな次のステップへ」
- 第17回シンポジウム(2019,東京) 「科学・技術分野の次世代育成と環境づくり」
- 第18回シンポジウム(2020,オンライン)
「女性研究者・技術者の意志・能力・創造性を活かすために
～女性リーダーが例外でない社会をめざして～」
- 第19回シンポジウム(2021,オンライン)
「女性研究者・技術者を育む土壌を耕し、意思決定の場を目指す人材を育成する
～より多くの女性研究者・技術者を意思決定の場へ～」
- 第20期シンポジウム(2022,東京&オンライン)
「男女間の積極的格差改善措置(女性限定公募・クォータ制など)について考える
～より公平な社会の実現を目指して～」
- 第21期シンポジウム(2022,東京&オンライン)
「フィールドワーク分野のダイバーシティとインクルージョン
～誰もが能力を発揮し輝くために～」

第21期 男女共同参画学協会連絡会 担当

第21期幹事学会 一般社団法人 日本生態学会

委員長	半場 祐子(京都工芸繊維大学 応用生物学系 教授)
副委員長	三宅 恵子(名古屋大学 リサーチプロモーションディビジョン 特任講師)
副委員長	可知 直毅(東京都立大学 学長特任補佐)
委員	Hubert Cheung (東京大学大学院 新領域創成科学研究科 日本学術振興会 特別研究員) 堂園 いくみ(東京学芸大学・自然科学系・環境科学分野 准教授) 藤田 剛(東京大学大学院 農学生命科学研究科 助教) 久野 真純(京都大学 大学院情報学研究科 助教) 本郷 峻(京都大学アフリカ地域研究資料センター 特定助教) 池本 美都(弘前大学 農学生命科学部 客員研究員) Firouzeh Javadi (九州大学 アジア・オセアニア研究教育機構 連携研究員) 三谷 曜子(京都大学野生動物研究センター 教授) 満行 知花(高知大学 理学部 短期研究員) 谷口 裕美(東海大学 生物学部 海洋生物科学科 准教授) 佐々木 雄大(横浜国立大学 環境情報研究院 准教授) 曾我 昌史(大学院農学生命科学研究科 准教授) 宇野 裕美(大学院地球環境科学研究院 日本学術振興会 特別研究員)
オブザーバ	上野 裕介(生物資源環境学部 環境科学科 准教授) 木村 恵(秋田県立大学 生物資源科学部 准教授) 高野(竹中) 宏平(長野県環境保全研究所 自然環境部 研究員)



第21期 男女共同参画学協会シンポジウム資料集

2023 年 10月 14日発行
一般社団法人 男女共同参画学協会連絡会
<https://djrenrakukai.org/>

[禁無断転載] 本誌に掲載する著作物を転載または引用する場合には、掲載する刊行物に「第 21期男女共同参画学協会連絡会シンポジウム資料集」から転載または引用した旨をご付記くださるようお願い申し上げます。

イラスト：谷口裕美（東海大学）

第21回男女共同参画学協会連絡会シンポジウム

フィールドワーク分野のダイバーシティとインクルージョン ～誰もが能力を発揮し輝くために～

【日時】 2023年10月14日（土） 10:00～16:30

【会場】 東京大学弥生講堂一条ホール・
オンライン（Zoom Webinar）

★一般の方はオンラインでご参加ください
申し込みQRコードにて（10/8まで）



■プログラム

10:00 男女共同参画活動のさらなる推進に向けて～加盟学会の好事例共有～

開会挨拶 半場 祐子（第21期運営委員会 委員長）

担当：日本生態学会・日本応用数学会

加盟学協会の取組紹介

成川 礼（日本植物学会ダイバーシティ推進委員会）

飯島 玲子（日本技術士会男女共同参画推進委員会）

志牟田 美佐（日本生理学会男女共同参画推進委員会）

質疑応答・ディスカッション

11:30 ポスターセッション（昼食を含む）

13:00 シンポジウム

幹事学会挨拶 宮下 直（日本生態学会 会長）

歓迎の挨拶 林 香里（東京大学理事 副学長）

来賓挨拶 岡田 恵子（内閣府男女共同参画局 局長）

山下 恭徳（文部科学省科学技術・学術政策局 科学技術・学術総括官）

13:25 フィールドワーク分野のダイバーシティとインクルージョン

生態学会員を対象にしたアンケート結果報告

宇野 裕美（北海道大学 学振特別研究員）

講演1 アンデス文明研究と多様性

瀧上 舞（国立科学博物館 研究員）

講演2 激変する極域：多様なアプローチの必要性

猪上 淳（国立極地研究所 准教授）

講演3 米国における女性科学者台頭の半世紀

北島 薫（京都大学農学研究科 教授）

15:00 パネル討論

パネリスト：瀧上 舞、猪上 淳、北島 薫、宇野 裕美

ファシリテーター：三宅 恵子（名古屋大学 特任講師）

16:00 活動報告

【主催】 一般社団法人男女共同参画学協会連絡会

【共催】 東京大学

【後援】 文部科学省・独立行政法人国立女性教育会館・一般社団法人国立大学協会

一般社団法人日本私立大学連盟・内閣府男女共同参画局・厚生労働省

経済産業省・国立研究開発法人科学技術振興機構・日本学術会議

イラスト：谷口裕美（東海大学）

【お問合せ】 第21期男女共同参画学協会連絡会事務局 danjo_office21@djrenrakukai.org



第21期 男女共同参画学協会 連絡会事務局



一般社団法人

日本生態学会

The Ecological Society of Japan